ONKYO®

AV レシーバー

TX-DS989

取扱説明書

目次 2

箱を開けたら、まず 4

機能と接続 12

OSD(オンスクリーンディスプレイ)メニュー 32

音楽／映画鑑賞をする 53

リモコンを使う 60

その他 72

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも
見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

目次

箱を開けたら、まず

オーディオ機器の正しい使いかた 4
主な特長 9
付属品 10
リモコンを準備する 11

機能と接続

フロントパネルのボタン 12
リモコン 15
リアパネルの接続端子 16
各機器の接続例 20
一般的な接続方法 21
オーディオ機器を接続する 22
ビデオ機器を接続する 22
スピーカーを接続する 24
理想的なスピーカー構成 24
サラウンド音声を再現するのに最低限必要なスピーカー構成 24
スピーカーの配置 24
スピーカーの接続 25
スピーカーコードの接続 25
サブウーファーの接続 25
アンテナを接続する 26
付属の AM 室内アンテナの組み立て 26
AM アンテナ線の接続 26
付属アンテナの接続 26
FM 屋外アンテナの接続 27
AM 屋外アンテナの接続 27
ZONE 2 出力端子に接続する 28
本機と別室用の機器との接続 28
グラフィックイコライザー / パワーアンプの接続 .. 29
グラフィックイコライザーの接続 29
パワーアンプの接続 29
電源を入れる 30

OSD(オンスクリーンディスプレイ)メニュー

OSD メニュー操作のしかた 32
1. Speaker Setup(スピーカー設定)メニュー 34
1-1. Speaker Config(大きさや種類の設定)サブメニュー 34
1-2. Speaker Distance(距離の設定ースピーカーポジションタイムシンクロナイゼイション)サブメニュー 35
1-3. Level Calibration(レベル調整)サブメニュー .. 36
1-4. Bass Peak Level(低音の最大レベル調整ーバスピークレベルマネージャー)サブメニュー 37
1-5. LFE Level Setup(低域効果音の音量)サブメニュー 37

入力ソースごとの設定（Input Setup） 38
2. Input Setup メニュー 38
2-1. Digital Setup サブメニュー 38
2-2. Multichannel Setup サブメニュー 40
2-3. Video Setup サブメニュー 40
2-4. Listening Mode Preset Setup サブメニュー .. 41
入力信号の種類 42
リスニングモード 42
2-5. Delay サブメニュー 44
2-6. Sound Effect サブメニュー 44
2-7. Character Input サブメニュー 45
2-8. Miscellaneous サブメニュー 45
リスニングモードの設定 46
3. Listening Mode Setup メニュー 46
リスニングモードパラメーターについて 48
プリファレンス 50
4. Preference メニュー 50
4-1. Volume Setup サブメニュー 50
4-2. OSD Setup サブメニュー 51
4-3. OSD Tweak サブメニュー 51
Zone2 OSD の設定 52
5. Zone2 OSD Setup メニュー 52
About 52
6. About メニュー 52
6-1. Lock Setup サブメニュー 52
6-2. Version サブメニュー 52

音楽／映画鑑賞をする

音楽やビデオを別室で楽しむ 53
ZONE 2 端子に接続した機器を再生する 53
ラジオ放送を聞く 54
FM/AM 放送を聞く 54
放送局を受信する 54
放送局をプリセットする 55
プリセットした放送局を受信する 55
プリセットした放送局を削除する 55
音楽やビデオを再生する 56
再生ソースを選ぶ 56
音量を調整する 56
リスニングモードを変更する 56
ヘッドホンで聞く 56
本機のさまざまな機能を使う 57
次のような表示が出たときは 57
マルチチャンネル音声を楽しむ 57
録音・録画する 58
音楽や映画を再生しながら録音・録画する 58
再生中に別のソースを選んで録音・録画する 59
異なるソースの音楽と映像を録音・録画する 59

目次

リモコンを使う

リモコンを使う 60
- リモコンで各機器を操作する 60
- 本機を操作する 60
- オンキョー製 CD プレーヤーを操作する 62
- オンキョー製 MD レコーダーを操作する 62
- オンキョー製カセットテープデッキを操作する 63
- プリセットした放送局を受信する 63
- オンキョー製 DVD プレーヤーを操作する 64
- SAT ボタン、CABLE ボタン、VCR ボタン、TV MODE ボタン 64

学習のさせ方 65
- 他の機器のリモコンコードを記憶させるには 65
- 記憶させたコードを消去する 67
- 1 つのボタンに記憶させたコードを消去する 67
- ある MODE のすべてのボタンに記憶させたコードを消去する 67

マクロ機能を使う 68
- マクロモードを学習させるには 68
- 学習させたマクロを実行する 68
- ダイレクトマクロ学習について 69
- 学習させたダイレクトマクロを実行する 69
- MODE MACRO ボタンに記憶させたコードを消去する 70
- DIRECT MACRO ボタンに記憶させたコードを消去する 70
- すべてのボタンに記憶させたコードを消去する .. 71

その他

初期設定 72

仕様 73

システム設定メモ 74
- Inputs 74
- Speakers 76
- OSD Setup 76
- ZONE2 76
- About 76
- リモコン 77

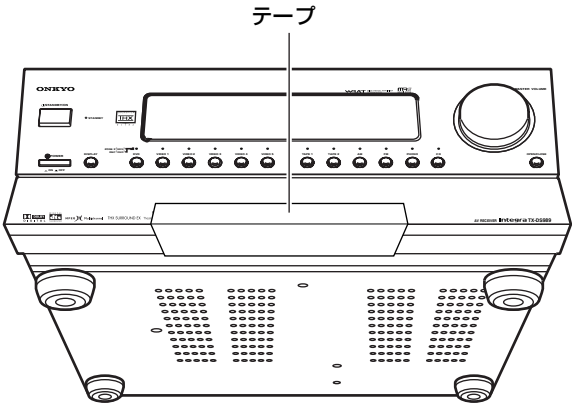
故障?と思ったときは 78

アフターサービスについて 81

オンキヨーサービス網のご案内 82

箱から取り出す際のご注意

- 本機はとても重いので、持ち運びには十分ご注意ください。また、本機前面のドア部に指をかけて持ち上げたり、動かしたりしないでください。ドア部を破損する恐れが あります。
- 本機前面のドア部は、工場出荷時にはテープで底面を固定してあります。ご使用にな る前に、テープをはがしてください。

＊ テープのはり方は変更される場合があります。

オーディオ機器の正しい使いかた

絵表示について

この「取扱説明書」および製品の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

図の中に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■絶対に、裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

● 本機の裏ぶた、カバーは絶対に外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
● 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧や船舶などの直流(DC)電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気をつけてご使用ください。
  - 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
  - 本機を専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
  - テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
  - 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

- 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

- 本機の通風孔やヘッドホン端子から金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、機器の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

(次ページへ続く)

⚠警告（つづき）

■電源コードを傷つけたり、加工しない

● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない

● 本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘアードライヤー、電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因になります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■乾電池を充電しない

● 乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。

■雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

● 雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠注意

■設置上の注意

- 強度の足りない台やぐらついたり傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- この機器は非常に重いので、持ち運びは必ず二人以上で行ってください。けがや腰痛の原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■次のような場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■接続について

- 本機を他のオーディオ機器、テレビ等の機器に接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

■使用上の注意

- 電源を入れる時には音量(ボリューム)に注意してください。
- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■電源コード、電源プラグの注意

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。
- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

（次ページへ続く）

⚠注意（つづき）

■ 電池について

● 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

● 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
● 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて

● スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

● お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

● 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をおすすめします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除・点検費用等についても販売店にご相談ください。
● 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

● アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
● 屋外アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。
● BS・CS放送用アンテナは強風の影響を受けやすいので、堅固に取り付けてください。

● シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

● 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

主な特長

■ルーカスフィルム社が提唱する「THX® Ultra（ウルトラ）」規格に準拠。

■THX Surround EX 再生可能。

■ドルビー*デジタルデコーダー、DTS（ディーティーエス）®デコーダー、MPEG Multichannel（エムペグマルチチャンネル）デコーダー搭載。

■ダウンミックスによる（フロントL/Rチャンネルの）ダイナミックレンジやS/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路搭載。

■7.1ch入出力端子装備。DVD-Audioプレーヤーやパワーアンプなど外部機器への優れた拡張性を実現。

■ドルビー社の認可を受けた、Theater-Dimensional™バーチャルサラウンドモード 搭載。

■様々なジャンルの音源にナチュラルな臨場感をもたらすサラウンド全50モードを採用。

■192kHz/24bit D/Aコンバーター搭載。

■24bit DSPチップ2基搭載により、高速かつ信頼性に優れた音場処理を実現。

■再生周波数の広帯域化を図る新技術「WRAT（ワイド・レンジ・アンプリファイヤー・テクノロジー）」や、大型電源部などの厳選されたパーツ使用など、本格的なHi-Fi仕様。

■デジタル入力端子として光3系統および同軸5系統、AC-3RF 1系統。出力端子として光1系統および同軸１系統を装備。

■AVセンターとして充分な能力を発揮する4系統オーディオ入力、6系統AV入力端子装備。

■バックライト付きラーニング&マクロ機能搭載リモコン付属。

■オンスクリーン機能搭載。

■レックセレクター

■将来のアップグレードに対応するためのRS232端子装備。

＊ ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、Dolby、Pro Logic 及びダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

THX Ultra

THX Ultra の認証を取得したホーム・シアター・コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質 / 性能試験に合格しています。このような製品にのみ付与されている THX Ultra のロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THX Ultra の要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル / アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。また THX Ultra レシーバーは、劇場用映画のサウンドトラックを正確にホーム・シアターで再現するための特許技術である、THX 技術(THX モード、42 ページ参照)を備えています。

- ルーカスフィルム、THX、THX ロゴ、THX Ultra、Re-EQ は、ルーカスフィルム社の商標です。
- THX サラウンド EX はルーカスフィルム社の商標です。
- 本機はデジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
“DTS”、“DTS Digital Surround”および“DTS-ES”は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。
- Theater-Dimensional および Theater-Dimensional ロゴはオンキヨー株式会社の商標です。

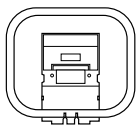
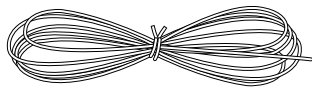
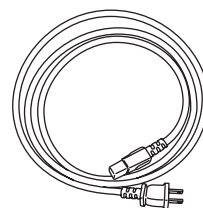
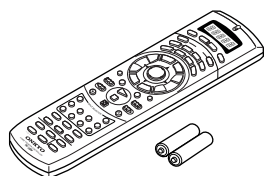
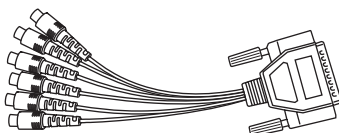
音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。

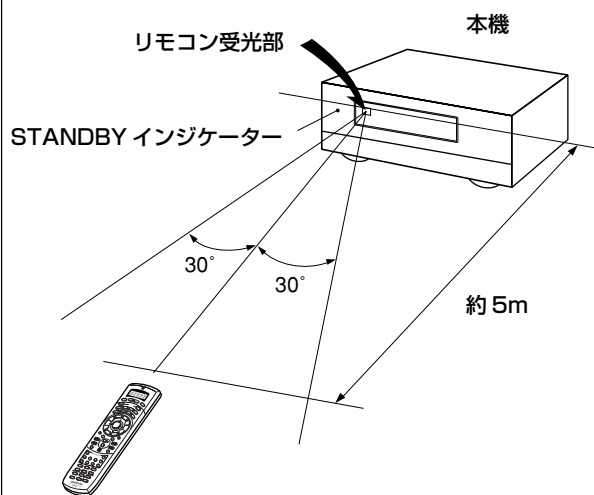
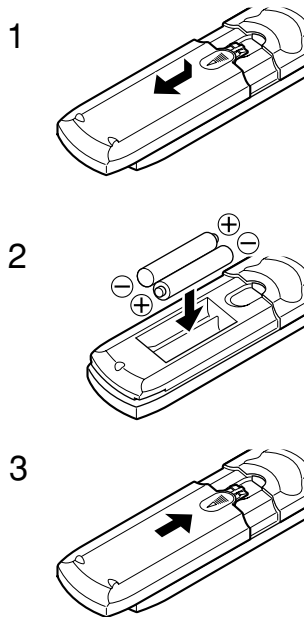
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

付属品

本機に以下の付属品が含まれているかどうかを確認してください。
( )内の数字は個数を表します。

AM 室内アンテナ（1）

FM 室内アンテナ（1）

電源コード（1）

リモコン（1）
乾電池(単三型)（2）

DB-25 ⇔ 6 チャンネル RCA コード（1）

取扱説明書（本書 1）
保証書（1）

リモコンを準備する

乾電池を入れる

1. カバーを矢印の方向にずらしてあける

2. 中の極性表示にしたがって、付属の電池 2 個を＋(プラス)と－(マイナス)を間違えないように入れる

3. カバーを戻す

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 寿命がなくなった電池を入れたままにしておくと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、ただちに古い電池を取り出して 2 本とも新しい電池と交換してください。
- 使用頻度にもよりますが、付属のマンガン電池の寿命は約 6ヵ月です。電池の交換時には、単 3 型をご使用ください。

リモコンを使うには

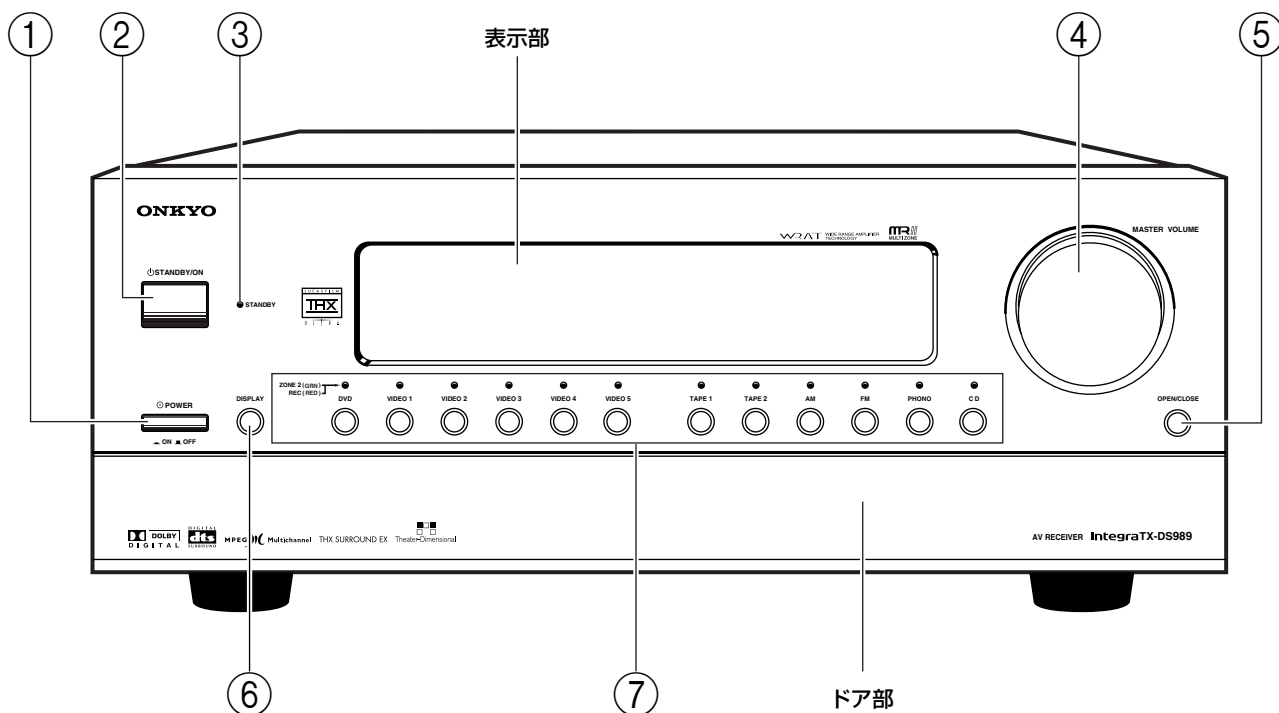
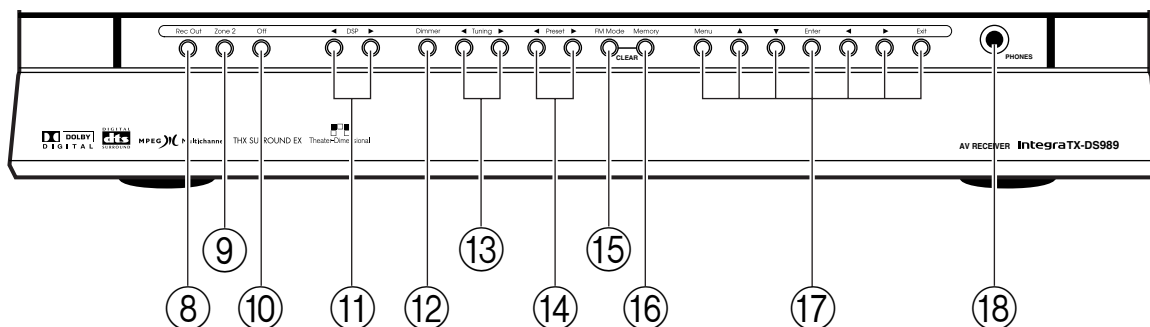
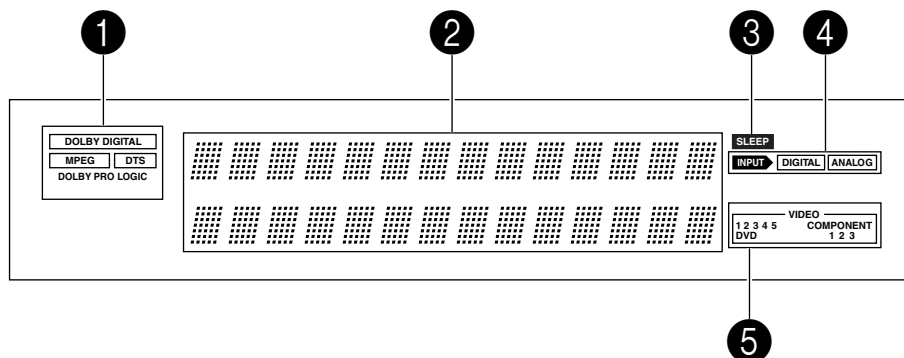
リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作してください。リモコンからの信号を受信すると、本機の STANDBY インジケーターが点灯します。

ご注意

- リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

フロントパネルのボタン

ここでは、フロントパネルの操作ボタンおよび表示部について説明します。

フロントパネル

ドア部のボタン

フロントパネル表示部

フロントパネルのボタン

フロントパネル

① POWERスイッチ（主電源）

本機の電源を入れます。主電源が入ると、STANDBY インジケーターが点灯します。

- 主電源を入れる前に、すべてのコードが正しく接続されていることを確認してください。
- 主電源を入れると瞬間的に大きな電流が流れ、他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。コンピューターなど繊細な機器とは別系統のコンセントに接続してください。

② STANDBY/ONボタン

主電源が入っているときに押すと、表示部が点灯します。もう一度押すと、本機をスタンバイ状態にします。スタンバイ状態では、表示部が消灯し、操作はできません。(別室(ZONE 2)への出力は停止しません)。

③ STANDBY/ONインジケーター

④ MASTER VOLUMEつまみ

音量を調節します。別室(ZONE 2)の音量には影響しません。

⑤ OPEN/CLOSEボタン

フロントドア部を開け閉めします。

⑥ DISPLAYボタン

ボタンを押すたびに入力信号に関する情報が次の順に表示されます。

Program Format(プログラムフォーマット)→ Sampling Frequency(サンプリン周波数)→ Digital Input(デジタル入力)→ Digital Format(デジタルフォーマット)→ Bass Level(バスレベル)→ Treble Level(トレブルレベル)

情報のない画面はスキップされます。

- **現在の入力ソースの情報**

  次の図をご覧ください。

デジタル入力: D.Input:OPT1

OPT1 のデジタル入力が選択されています。

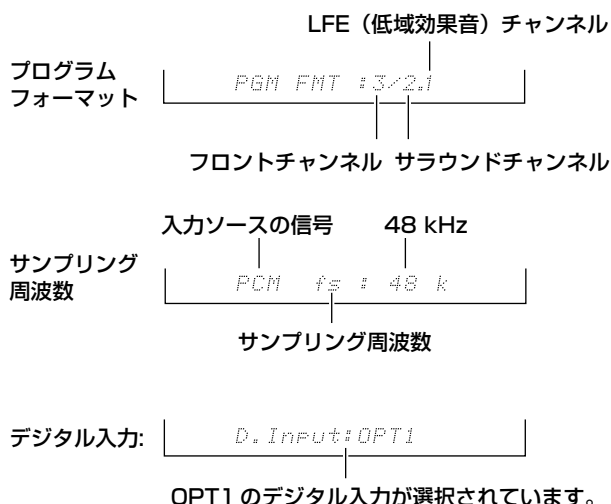
デジタルフォーマット: D.FMT :Auto

デジタルフォーマット「AUTO」が選択されています。

バスレベル: Bass : +2

バスレベルは、+2 です。

トレブルレベル: Treble : -2

トレブルレベルは、-2 です。

⑦ 入力切り換えボタン(DVD、VIDEO 1～5、TAPE 1～2、AM、FM、PHONO、CD) およびインジケーター

ソースを選びます。選択したボタンのまわりがオレンジ色に点灯します。リモートゾーン端子(ZONE 2)や録音出力端子(REC OUT)用のソースを選ぶには、Zone 2 または Rec out ボタンを押してから、入力切り換えボタンを押します。

入力切り換えボタンの上のインジケーターが赤く点灯している時は、その入力が REC OUT に出力されており、緑に点灯しているときは、その入力が ZONE2 に出力されていることを示します。

ドア部のボタン

ご注意

本機のドア部は電動開閉式です。開閉は必ず OPEN/CLOSE ボタンで行ってください。手で無理に開閉しようとしたり、ドア部を持って製品を移動させたりしないでください。故障の原因となります。

⑧ Rec Outボタン

録音・録画する時に使います。録音・録画ソースを選ぶには、Rec Out ボタンを押してから、8 秒以内に入力切り換えボタンを押します。選択したボタンのインジケーターが赤色に点灯します。現在のソースから録音・録画するときは、Rec Out ボタンを続けて 2 回押します。

ご注意

ゾーン 2 出力と録音・録画出力は同一回路を使用しているため、同時に使用できません。Rec Out が選ばれているときは、ZONE 2 端子からは何も出力されていません。

⑨ Zone 2ボタン

ZONE 2 端子からの出力を選びます。ZONE 2 用のソースを選ぶには、8 秒以内に入力切り換えボタンを押します。選択したボタンのインジケーターが緑色に点灯します。メインルームと同じソースを出力するときは、ZONE 2 ボタンを続けて 2 回押します。

ご注意

ゾーン 2 出力と録音・録画出力は同一回路を使用しているため、同時に使用できません。Zone 2 が選ばれているときは、録音端子からは現在のソースが出力されます。

⑩ Offボタン（オフ）

Rec Out や Zone 2 ボタンを押してから Off ボタンを押します。REC OUT や ZONE 2 を使用しないときは、音質上オフにすることをおすすめします。

⑪ ◀ DSP ▶ボタン（ディーエスピー）

現在のソースのリスニングモードを変更します。選べるリスニングモードは、ソースごとに異なります。

⑫ Dimmerボタン（ディマー）

表示部の明るさを設定します。「通常」「暗く」「 さらに暗く」「消灯」のいずれかに設定できます。

- 表示部の明るさはリモコンの DIMMER ボタンでも調整できます。

⑬ ◀ Tuning ▶ボタン（チューニング）

放送局をチューニングして選びます。受信周波数は表示部に表示され、FM の場合は 100kHz 単位、AM の場合は 9kHz 単位で変わります。放送局を受信すると、周波数の両サイドに「 〉〈 」の表示が点灯します。(受信した信号がステレオの場合は「▶ ◀」)

FM の場合は ◀(または▶)ボタンをしばらく押してから手をはなすと、自動的に周波数が下がり(上がり)、放送を受信すると止まります。(自動受信)

⑭ ◀ Preset ▶ボタン（プリセット）

Memory ボタンで登録した放送局を選びます。

⑮ FM Modeボタン（エフエムモード）

FM ステレオ放送を受信している場合、音が途切れたり雑音が多いときに押します。押すと、「Mono 」が表示され、モノラルで受信します。

⑯ Memoryボタン（メモリー）

現在受信している FM または AM 放送局をプリセットチャンネルに登録します。

⑰ Menuボタン（メニュー）, ▲ボタン, ▼ボタン, Enterボタン（エンター）, ◀ボタン, ▶ボタン, Exitボタン（エグジット）

オンスクリーンディスプレイ(OSD)メニューを操作します。

Menu: OSD メニューを表示します。

Exit: メイン画面で押すと OSD メニューを終了します。その他の画面では、ひとつ前の画面に戻ります。

▲ /▼: 画面のカーソル(反転表示された項目)を上下に移動します。

◀/ ▶: ▲ /▼ボタンで選択した項目の値やモードを選択します。

Enter: 選択している項目の画面を表示します。

⑱ PHONES端子（フォーンズ）

ステレオヘッドホンを接続するための標準ステレオ端子です。左右フロントスピーカーの音声がヘッドホンに出力されます。ヘッドホンプラグを挿入すると、リスニングモードがサラウンドのときは、自動的に「ステレオ」になり、スピーカーへの出力が停止します。

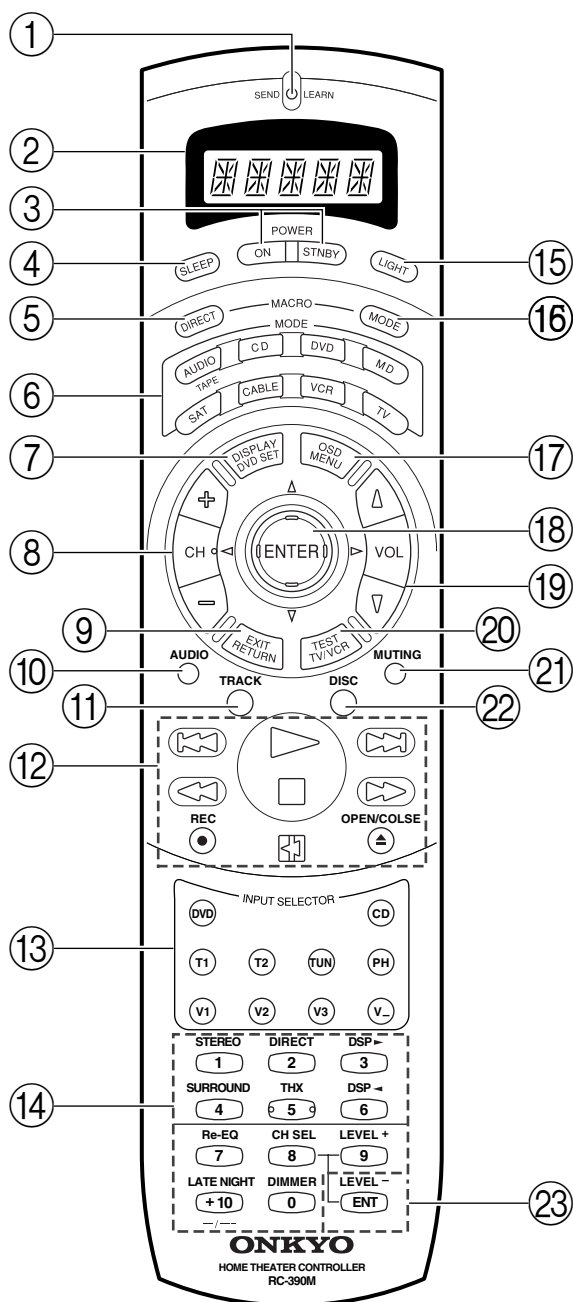
フロントパネル表示部

❶ **リスニングモードまたはデジタル入力フォーマット表示部**

❷ **多目的表示部**

❸ **SLEEP表示**

❹ **入力ソースフォーマット表示部**

❺ **VIDEO表示部**

リモコン

※リモコンについての詳しい説明は、60 ページ以後にのっています。

① SEND/LEARNインジケーター

② LCD表示窓

③ POWER ON/STANDBYボタン

④ SLEEPボタン

⑤ DIRECT MACROボタン

⑥ MODE（モード切り換え）ボタン

⑦ DISPLAY/DVD SETボタン

⑧ CH +/– ボタン

⑨ EXIT/RETURNボタン

⑩ AUDIOボタン

⑪ TRACKボタン

⑫ CD/TAPE/DVD/MD操作ボタン

⑬ INPUT SELECTOR(入力切り換え)ボタン

⑭ 数字ボタン/STEREO/DIRECT/THX/DSP◄, ►/SURROUND/Re-EQ/LATE NIGHT/CH SEL/LEVEL +/-/DIMMERボタン

⑮ LIGHTボタン

⑯ MODE MACROボタン

⑰ OSD/MENUボタン

⑱ ENTERボタン

⑲ VOL △/▽ ボタン

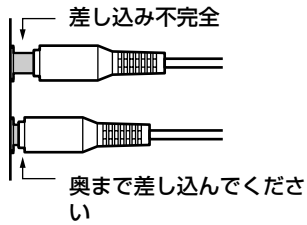
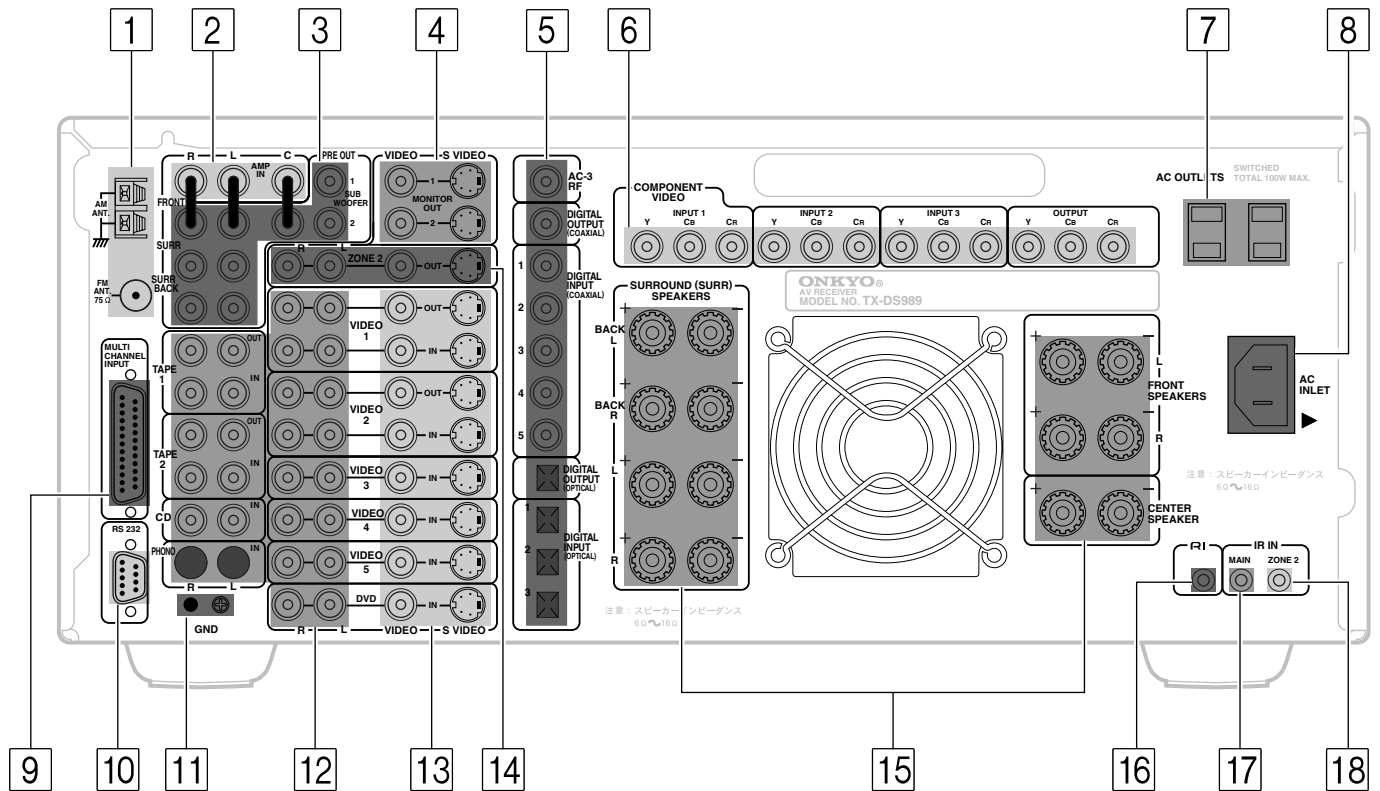
⑳ TEST/TV/VCRボタン

㉑ MUTINGボタン

㉒ DISCボタン

㉓ ENTボタン

リアパネルの接続端子

ここでは、リアパネルの端子およびその使用方法について説明します。AV 機器を接続する前に必ずこの章を読み、各機器の接続方法の説明にお進みください(☞20 ページ「各機器の接続例」)。

- 接続する機器に付属の説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは、他のすべての接続が終わるまで接続しないでください。
- 入力端子は、赤いコネクター(R の表示)を右チャンネル、白いコネクター(L の表示)を左チャンネル、黄色のコネクター(V の表示)をビデオチャンネルに接続してください。
- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因となります。
- ビデオコード、オーディオ用ピンコード類は、電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。

リアパネルの接続端子

1 ANTENNA端子

FM アンテナと AM アンテナを接続します。(☞26 ページ「アンテナを接続する」)

2 AMP IN端子

本機のフロント L ／ C ／ R チャンネル用パワーアンプの入力端子です。グラフィックイコライザーを使用する場合は 29 ページをご参照ください。

3 PRE OUT端子

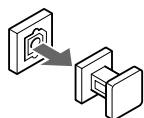
本機をプリアンプとして使用するときに、パワーアンプを接続します。

- パワーアンプを接続する場合は、付属のジャンパープラグを取り外します。取り外したジャンパープラグは、なくさないように保管してください。端子を使用しない場合は、元どおりに取り付けてください。

4 MONITOR OUT端子

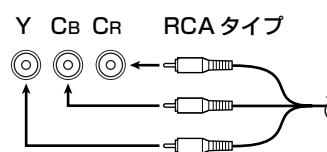
モニター出力は 2 系統あり、コンポジット映像端子と S 映像端子があります。テレビまたはプロジェクターを接続することができます。OSD メニューは MONITOR OUT 1 に接続されたテレビやプロジェクターに表示されます。

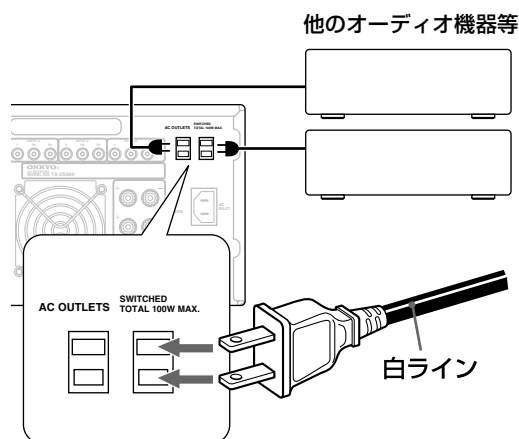
5 DIGITAL INPUT/OUTPUT端子 (COAXIAL、OPTICAL、AC-3RF)

デジタル入力端子として、同軸端子(COAXIAL)が 5 つ、光端子(OPTICAL)が 3 つ、AC-3RF 端子が 1 つあります。これらの入力端子に、CD プレーヤー、LD プレーヤー、DVD プレーヤーなどのデジタルソース機器を接続します。デジタル出力端子には、MD レコーダー、CD レコーダー、DAT などを接続します。

光デジタル入力端子／出力端子
光デジタル端子には保護用キャップが取り付けられています。接続時は、このキャップを取り外してください。使用しない場合、キャップを元どおりに取り付けてください。

- デジタル入出力を使用する場合、できるだけアナログの接続も行ってください。
- 光入力端子または出力端子を使用する場合、保護用キャップを取り外した後、なくさないように保管してください。端子を使用しない場合、キャップを元どおりに取り付けてください。
- 光入力端子または出力端子に接続する場合、必ず光ケーブルを使用してください。

6 COMPONENT VIDEO INPUT/OUTPUT端子

DVD プレーヤーなどの映像機器にコンポーネント映像端子がある場合、コンポーネント信号(Y、CB、CR)を直接入力できます。コンポーネント映像出力端子は、テレビまたはプロジェクターのコンポーネント入力端子に接続します。

7 AC OUTLETS (電源コンセント)

本機裏面の電源コンセントに他機の電源コードを接続することができます。他機の電源スイッチをオンのままにしておけば、本機の POWER スイッチと連動させて他機の電源も入れたり切ったりすることができます。

ご注意

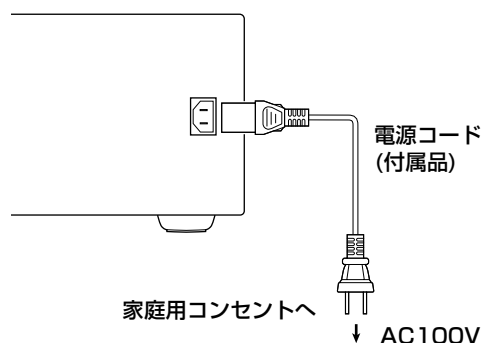
本機には 2 つの電源コンセントがありますが、合計で 100W を超える機器は絶対に接続しないでください。

接続する前に

本機の電源コンセントはより良い音で聞いていただくために、極性の管理がされています。以下のことに留意してつないでください。(他機の電源コードに極性表示がない場合はどちらを接続してもかまいません。)

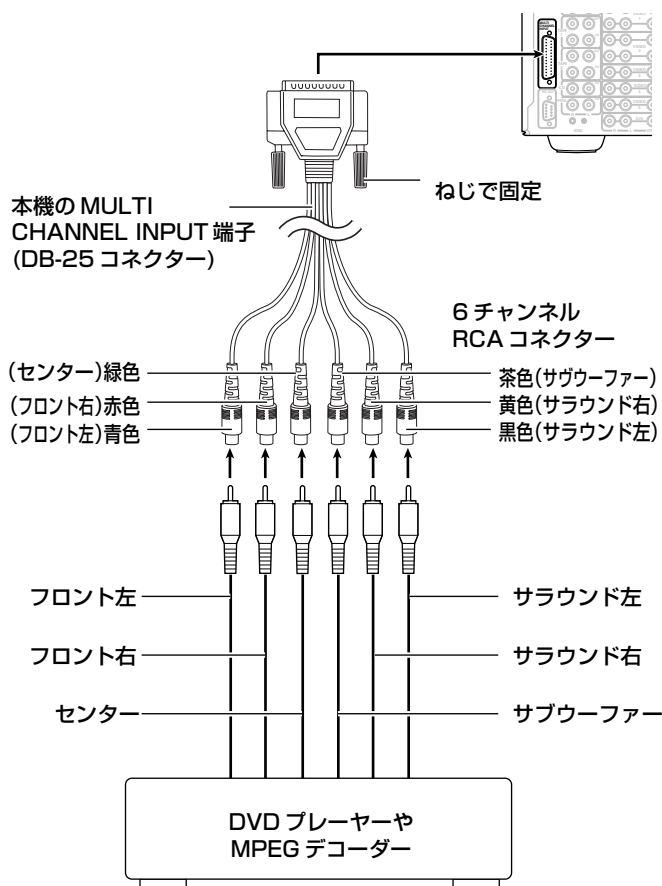
- 他機の電源コードの白いラインなどの目印側を本機電源コンセントの広い方(W マーク側)に合わせる

8 AC INLET (電源ソケット)

付属の電源コードで家庭用コンセントに接続します。

- 付属の電源コード以外は使用しないでください。この電源コードは本機専用です。他の機器に使用しないでください。
- 家庭用コンセントに電源プラグを差し込んだ状態で本電源ソケットから電源コードを抜くと、感電する可能性があります。電源コードは、接続するときは最後に家庭用コンセントに接続し、抜くときには最初に家庭用コンセントから抜いてください。

9 MULTI CHANNEL INPUT端子

マルチチャンネル端子に 5.1 チャンネルまたは 7.1 チャンネルの外部デコーダーを接続することができます。

ねじで固定
本機の MULTI CHANNEL INPUT 端子 (DB-25 コネクター)
6 チャンネル RCA コネクター
(センター)緑色
(フロント右)赤色
(フロント左)青色
茶色(サヴウーファー)
黄色(サラウンド右)
黒色(サラウンド左)
フロント左
フロント右
センター
サラウンド左
サラウンド右
サブウーファー
DVD プレーヤーや MPEG デコーダー

本機の MULTI CHANNEL INPUT 端子は DB-25 タイプですので、RCA タイプに対応できるように DB-25↔RCA 6ch ターミナルのケーブルを付属しています。このケーブルの DB-25 タイプの方を本機の MULTI CHANNEL INPUT に接続し、もう一方の RCA タイプの方に、外部デコーダーの MULTI CHANNEL OUTPUT に 接続したケーブルのもう一方の先端を差し込んでください。チャンネルの色は次のようになっています。

フロント左：青色
フロント右：赤色
センター：緑色
サラウンド左：黒色
サラウンド右：黄色
サブウーファー：茶色

外部デコーダーに接続しているケーブルが DB-25↔DB-25 タイプの場合は、本機に 付属のケーブルを使用せずに、直接本機の DB-25 ターミナルに接続してください。

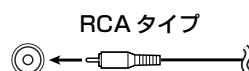
10 RS 232コネクター

このコネクターを使って、外部のコントロール機器から本機をコントロールする事ができます。また、このコネクターを使って、本機のソフトウエアをアップデートする事ができます。

11 GND端子

レコードプレーヤーを接続した場合、アース(接地)線を接続します。22 ページの「レコードプレーヤーの接続」を参照してください。

12 AUDIO IN/OUT端子

アナログ音声の入出力端子です。音声入力は 10 系統あり、音声出力は 4 系統あります。音声入出力端子の接続には、RCA タイプのオーディオ用ピンコードが必要です。

- PHONO 端子をご使用になるときには、キャップを外してください。また、キャップはなくさないように保管し、使用しないときは元のように PHONO 端子にはめ込んでください。
- ビデオデッキなどのビデオ機器を接続する場合、オーディオ用ピンコードとビデオコードは同じ系統の端子(たとえば VIDEO 3)に接続してください。
- AC-3RF 端子を持つ LD プレーヤーの音声出力は、VIDEO 4 の音声入力端子に接続してください。デジタルセットアップ時、VIDEO 4 に接続した機器についてのみ AC-3RF の設定をすることができます。
- 本機は、ムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。

13 VIDEO IN/OUT端子

入力は６系統、出力は２系統あり、それぞれにコンポジット映像端子とＳ映像端子があります。Ｓ映像入力端子に接続したソースはＳ映像出力端子とコンポジット映像端子の両方に出力されますが、コンポジット映像入力端子に接続したソースはコンポジット映像端子だけに出力されます。

２系統ある映像出力は、ビデオデッキ等の録画機器を接続します。

- ビデオデッキなどのビデオ機器を接続する場合、オーディオ用ピンコードとビデオコードは同じ系統の端子(たとえばVIDEO 3)に接続してください。

14 ZONE 2端子

別室(ZONE 2)で使用する機器を接続します。接続方法については、「ZONE 2端子に接続する」(28ページ)をご覧ください。

15 SPEAKERS端子

左右フロント、センター、左右サラウンド、左右サラウンドバックの各スピーカーを接続します。

本スピーカー出力端子はバナナプラグに対応しています。

16 RI端子

RI端子付きのオンキヨー製CDプレーヤーやカセットテープデッキを、各機器に付属のRIケーブルで接続してください。本機に付属のリモコンでこれらの機器を操作することができます。

RI端子を接続したあとは、他機操作用のリモコンボタンを確認してください。(☞62ページ「オンキヨー製CDプレーヤーを操作する」)(☞63ページ「オンキヨー製カセットテープデッキを操作する」)

- 必ずRIマークのついた端子に接続してください。
- RIケーブルで接続をした場合も、オーディオ用ピンコードは必ず接続してください。
- 本機のRI端子は、オンキヨー製品と組み合わせた場合のみに使用できます。オンキヨー製品以外の機器とは接続しないでください。故障の原因になります。
- 機器による接続順序は特にありません。

17 18 IR IN MAIN端子／IR IN ZONE 2端子

別室からリモコン操作したいときや本機をラックに入れたときに、リモコンセンサーを取り付けるための端子です。

各機器の接続例

7.
ビデオデッキ
(VIDEO 1)
(☞19ページ)
10.
テレビ
(MONITOR OUT 1)
☞ (19ページ)
10.
プロジェクター
(MONITOR OUT 2)
(☞19ページ)
8.
ケーブルテレビ、衛星放送
(VIDEO 3)
(☞19ページ)
1.
レコードプレーヤー
(PHONO)
(☞ 18ページ)
2.
CD プレーヤー
(CD)
(☞ 18ページ)
3. カセットテープデッキ、
DAT、MD レコーダー、
CD レコーダー
(TAPE 2)
(☞18ページ)
4.
DAT、CD レコーダー、
MD レコーダー
(TAPE 1)
(☞18ページ)
5.
DVD プレーヤー
(DVD)
(☞18ページ)
6.
LD プレーヤー
(VIDEO 4)
(☞18ページ)
アナログ信号
デジタル信号
信号の流れ

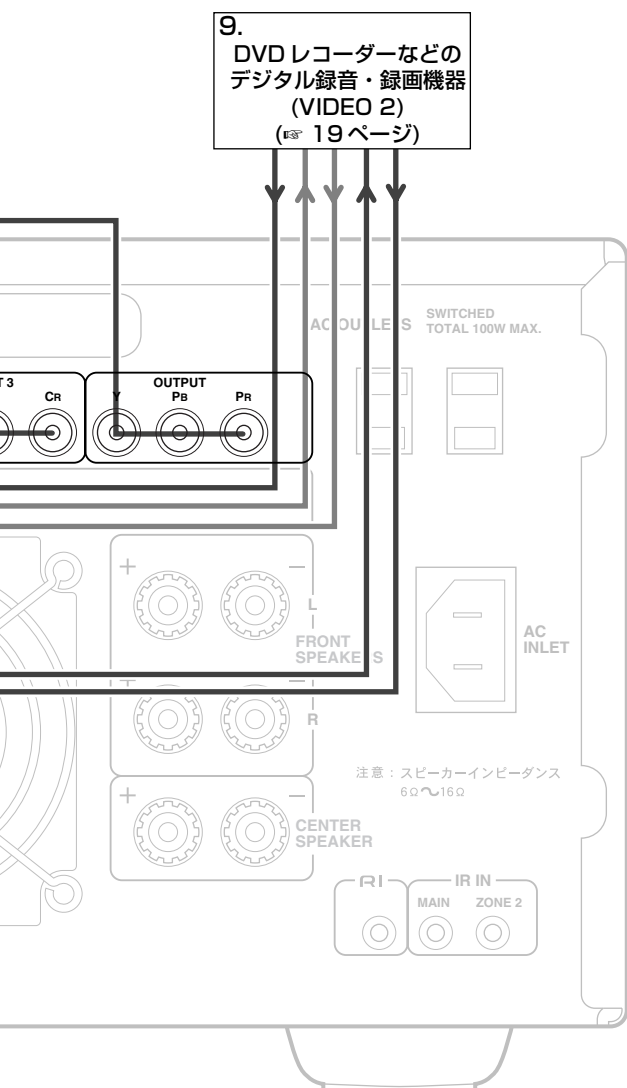
各機器の接続例

一般的な接続方法

ここでは本機に主な機器を接続する一般的な方法を説明します。各コネクターや端子の特性 (☞16 ～ 19 ページ参照)および各機器の特長を十分理解し、目的に応じて最適な方法で接続してください。

- 接続する機器に付属の説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは、他のすべての接続が終わるまで接続しないでください。
- 入力端子は、赤いコネクター(R の表示)を右チャンネル、白いコネクター(L の表示)を左チャンネル、黄色のコネクター(V の表示)をビデオチャンネルに接続してください。
- コードのプラグは、しっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因となります。
- オーディオ用ピンコードは、電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質が悪くなることがあります。

以下の機器の詳細な接続方法は、それぞれのページを参照してください。

スピーカー: ☞ 24 ページ
AM/FM アンテナ: ☞ 26 ページ
別室(ZONE 2)での再生: ☞ 28 ページ
グラフィックイコライザー: ☞ 29 ページ
外部パワーアンプ: ☞ 29 ページ

初期設定

入力ソース	デジタル入力	コンポーネント映像
CD	COAXIAL 1	／
PHONO	／	／
FM	／	／
AM	／	／
TAPE 1	OPTICAL 1	／
TAPE 2	OPTICAL 2	／
DVD	OPTICAL 3	COMPONENT VIDEO 1
VIDEO 1	----	----
VIDEO 2	COAXIAL 2	COMPONENT VIDEO 2
VIDEO 3	COAXIAL 3	COMPONENT VIDEO 3
VIDEO 4	COAXIAL 4	----
VIDEO 5	COAXIAL 5	----

---- ：設定なし
／ ：対応していません

各機器の接続例

オーディオ機器を接続する

ここでは、本機にオーディオ機器を接続する例を説明します。20 ～ 21 ページの図を参考にして接続してください。

1. レコードプレーヤーの接続

RCA タイプのオーディオ用ピンコードを使って、レコードプレーヤーの出力端子と本機の PHONO IN L/R 端子を接続します。左チャンネルを L 端子、右チャンネルを R 端子に間違えないように接続してください。

ご注意

本機は、ムービングマグネット(MM)カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。レコードプレーヤーが正しく動作するように、アース(接地)線を GND 端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続するとノイズが大きくなることがあります。その場合、アース線は不要ですので接続しないでください。

2. CDプレーヤーの接続

RCA タイプのオーディオ用ピンコードを使って、CD プレーヤーの出力端子と本機の CD IN L/R 端子を接続します。左チャンネルを L 端子、右チャンネルを R 端子に間違えないように接続してください。

デジタル出力端子のある CD プレーヤーの場合は、端子のタイプに合わせて、本機の DIGITAL INPUT(COAXIAL)端子または DIGITAL INPUT(OPTICAL)端子に接続します。

CD のデジタル入力は、初期設定では COAXIAL 1 に設定されています。COAXIAL 1 以外の端子にデジタル機器を接続したときは、Digital Input サブメニュー(☞38 ページ)で設定を変更してください。

3. カセットデッキ、MDレコーダー、DAT、CDレコーダーの接続

RCA タイプのオーディオ用ピンコードを使って、各機器の出力端子(PLAY)を本機の TAPE 2 IN L/R 端子に、入力端子(REC)を本機の TAPE 2 OUT L/R 端子に接続します。左チャンネルを L 端子、右チャンネルを R 端子に間違えないように接続してください。

デジタル出力端子のある機器の場合は、端子のタイプに合わせて、本機の DIGITAL INPUT (COAXIAL)端子または DIGITAL INPUT (OPTICAL)端子にも接続します。

TAPE 2 のデジタル入力は、初期設定では OPTICAL 2 に設定されています。OPTICAL 2 以外の端子にデジタル機器を接続したときは、Digital Input サブメニュー(☞38 ページ参照)で設定を変更してください。

デジタル入力端子のある機器は、本機の DIGITAL OUTPUT (COAXIAL)端子または DIGITAL OUTPUT (OPTICAL)端子に接続すると、入力切り換えボタンで選択したソースの信号を録音できるようになります。

4. MDレコーダー、DAT、CDレコーダーの接続

RCA タイプのオーディオ用ピンコードを使って、各機器の出力端子(PLAY)を本機の TAPE 1 IN L/R 端子に、入力端子(REC)を本機の TAPE 1 OUT L/R 端子に接続します。左チャンネルを L 端子、右チャンネルを R 端子に間違えないように接続してください。

デジタル出力端子のある機器の場合は、端子のタイプに合わせて、本機の DIGITAL INPUT (COAXIAL)端子または DIGITAL INPUT (OPTICAL)端子にも接続します。

TAPE 1 のデジタル入力は、初期設定では OPTICAL 1 に設定されています。OPTICAL 1 以外の端子にデジタル機器を接続したときは、Digital Input サブメニュー(☞38 ページ参照)で設定を変更してください。

デジタル入力端子のある機器は、本機の DIGITAL OUTPUT (COAXIAL)端子または DIGITAL OUTPUT (OPTICAL)端子に接続すると、入力切り換えボタンで選択したソースの信号を録音できるようになります。

ビデオ機器を接続する

ここでは、本機にビデオ機器を接続する例を示します。20 ～ 21 ページの図を参考にして接続してください。

映像信号の流れは、次のとおりです。

- VIDEO IN への入力➞ VIDEO OUT に出力
- S-VIDEO IN への入力➞ S-VIDEO OUT と VIDEO OUT に出力
- COMPONENT VIDEO IN への入力➞ COMPONENT VIDEO OUT に出力

ご注意

MONITOR OUT の VIDEO 端子だけを接続した場合、コンポーネント映像端子からソース機器の信号を入力したときでも、映像は表示されません。また、MONITOR OUT の S VIDEO 端子だけを接続した場合も、S 映像は表示されません。

5. DVDプレーヤーの接続

RCA タイプのビデオコードを使って、DVD プレーヤーの映像出力端子(コンポジット)と本機の DVD VIDEO IN 端子を接続します。DVD プレーヤーに S 映像端子がある場合は、S 映像コードで本機の DVD S VIDEO IN 端子に接続します。DVD プレーヤーにコンポーネント映像端子がある場合は、いずれかの COMPONENT VIDEO INPUT 端子に接続します。

次に、RCA タイプのオーディオ用ピンコードで DVD プレーヤーの音声出力端子と本機の DVD IN L/R 端子を接続します。左チャンネルを L 端子、右チャンネルを R 端子に間違えないように接続してください。

デジタル出力端子のある DVD プレーヤーの場合は、端子のタイプに合わせて、本機の DIGITAL INPUT (COAXIAL)端子または DIGITAL INPUT (OPTICAL)端子にも接続します。

DVD のデジタル入力は、初期設定では OPTICAL 3 に設定されています。OPTICAL 3 以外の端子にデジタル機器を接続したときは、Digital Input サブメニュー(☞ 38 ページ)で設定を変更してください。

6. LDプレーヤーの接続

RCA タイプのビデオコードを使って、LD プレーヤーの映像出力端子(コンポジット)と本機の VIDEO 4 IN 端子を接続します。LD プレーヤーに S 映像端子がある場合は、S 映像コードで本機の S VIDEO 4 IN 端子に接続します。

LD プレーヤーに AC-3RF 出力端子がある場合は、本機の AC-3RF 端子に接続します。接続した場合、Digital Input サブメニュー(☞ 38 ページ)で AC-3RF の設定をする必要があります。

次に、RCA タイプのオーディオ用ピンコードで LD プレーヤーの音声出力端子と本機の VIDEO 4 IN L/R 端子を接続します。左チャンネルを L 端子、右チャンネルを R 端子に間違えないように接続してください。

デジタル出力端子のある LD プレーヤーの場合は、端子のタイプに合わせて、本機の DIGITAL INPUT (COAXIAL) 端子または DIGITAL INPUT (OPTICAL)端子にも接続します。

LD のデジタル入力は、初期設定では OPTICAL 4 に設定されています。OPTICAL 4 以外の端子にデジタル機器を接続したときは、Digital Input サブメニュー(☞ 38 ページ)で設定を変更してください。

7. ビデオデッキの接続

RCA タイプのビデオコードを使って、ビデオデッキの映像出力端子(コンポジット)と本機の VIDEO 1 IN 端子を接続し、ビデオデッキの映像入力端子と本機の VIDEO 1 OUT 端子を接続します。ビデオデッキに S 映像端子がある場合は、S 映像コードで本機の S VIDEO 1 IN/OUT 端子に接続します。ビデオデッキにコンポーネント映像出力端子がある場合は、いずれかの COMPONENT VIDEO INPUT 端子に接続します。

次に、RCA タイプのオーディオ用ピンコードでビデオデッキの音声出力端子と本機の VIDEO 1 IN L/R 端子を接続し、ビデオデッキの音声入力端子と本機の VIDEO 1 OUT L/R 端子を接続します。左チャンネルを L 端子、右チャンネルを R 端子に間違えないように接続してください。

8. 衛星放送チューナーやテレビの接続

RCA タイプのビデオコードを使って、機器の映像出力端子(コンポジット)と本機の VIDEO 3 IN 端子を接続します。機器に S 映像端子がある場合は、S 映像コードで本機の S VIDEO 3 IN 端子に接続します。機器にコンポーネント映像端子がある場合は、いずれかの COMPONENT VIDEO INPUT 端子に接続します。

次に、RCA タイプのオーディオ用ピンコードで機器の音声出力端子と本機の VIDEO 3 IN L/R 端子を接続します。左チャンネルを L 端子、右チャンネルを R 端子に間違えないように接続してください。

機器にデジタル出力端子がある場合、機器のデジタル出力端子のタイプに合わせて、本機の DIGITAL INPUT (COAXIAL)端子または DIGITAL INPUT (OPTICAL)端子にも接続します。

VIDEO 3 のデジタル入力は、初期設定では COAXIAL 3 に設定されています。COAXIAL 3 以外の端子にデジタル機器を接続したときは、Digital Input サブメニュー (☞ 38 ページ)で設定を変更してください。

9. DVDレコーダーなどのデジタル録画・録音機器の接続

RCA タイプのビデオコードを使って、機器の映像出力端子(コンポジット)と本機の VIDEO 2 IN 端子を接続し、機器の映像入力端子と本機の VIDEO 2　OUT 端子を接続します。機器に S 映像端子がある場合は、S 映像コードで本機の S VIDEO 2 IN/OUT 端子に接続します。機器にコンポーネント映像端子出力がある場合は、いずれかの COMPONENT VIDEO INPUT 端子に接続します。

次に、RCA タイプのオーディオ用ピンコードで機器の音声出力端子と本機の VIDEO 2 IN L/R 端子を接続します。左チャンネルを L 端子、右チャンネルを R 端子に間違えないように接続してください。

機器にデジタル出力端子がある場合、機器のデジタル出力端子のタイプに合わせて、本機の DIGITAL INPUT (COAXIAL)端子または DIGITAL INPUT (OPTICAL)端子にも接続します。

VIDEO 2 のデジタル入力は、初期設定では COAXIAL 2 に設定されています。COAXIAL 2 以外の端子にデジタル機器を接続したときは、Digital Input サブメニュー (☞ 38 ページ)で設定を変更してください。

デジタル入力端子のある機器を、本機の DIGITAL OUTPUT (COAXIAL)端子または DIGITAL OUTPUT (OPTICAL)端子に接続すると、入力切り換えボタンで選択したソースの信号を録音できるようになります。

10. テレビまたはプロジェクターの接続

RCA タイプのビデオコードを使って、テレビの映像入力端子(コンポジット)と本機のいずれかの MONITOR OUT 端子を接続します。テレビに S 映像入力端子がある場合は、S 映像コードで本機の S VIDEO MONITOR OUT 端子に接続します。機器にコンポーネント映像入力端子がある場合は、COMPONENT VIDEO OUTPUT 端子に接続します。
本機の OSD 機能は、MONITOR OUT 1のみです。
MONITOR OUT 2 にプロジェクターを接続し、
MONITOR OUT 1に OSD 画面専用のテレビを接続して使用することなどできます。

スピーカーを接続する

まずお持ちのスピーカーを配置してください。次に本機との接続をします。スピーカーの取扱説明書をご覧になりながら、正しい配置と接続をしてください。

サラウンド再生には、スピーカーシステムの構成内容と配置を対応したものにする必要があります。

THX Surround EX の再生には、ルーカスフィルム社認定THX スピーカーシステムのご使用をお勧めします。

理想的なスピーカー構成

- **左右フロントスピーカー**
- **センタースピーカー**

  映画におけるセリフの中央定位の役割をになう重要なスピーカーです。
- **左右サラウンドスピーカー**

  音の立体的な動きを表現し、背景をイメージした環境音、また場面を盛り上げる効果音を作りだして臨場感を高めます。
- **左右サラウンドバックスピーカー**

  THX Surround EX で楽しむときに必要です。
- **サブウーファー**

  迫力のある重低音効果を最大限に発揮します。

サラウンド音声を再現するのに最低限必要なスピーカー構成

- **左右フロントスピーカー**
- **左右サラウンドスピーカー**

センタースピーカーやサブウーファーの音声は、左右フロントスピーカーや左右サラウンドスピーカーに最適に配分され、可能な限り最高のサラウンド音声を再現します。

スピーカーの配置

スピーカーの配置は、実際には部屋の大きさや壁の材質などによっても違ってきますが、ここでは各スピーカーの基本的な配置例と配置するポイントを紹介します。

設置のポイント

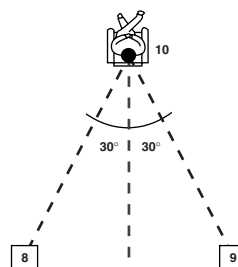
左右フロントスピーカーとセンタースピーカー

- ３つのスピーカーがすべて同じ高さになるように設置する。
- 音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向かうように配置する。
- 左右フロントスピーカーは、同じ距離に配置する。

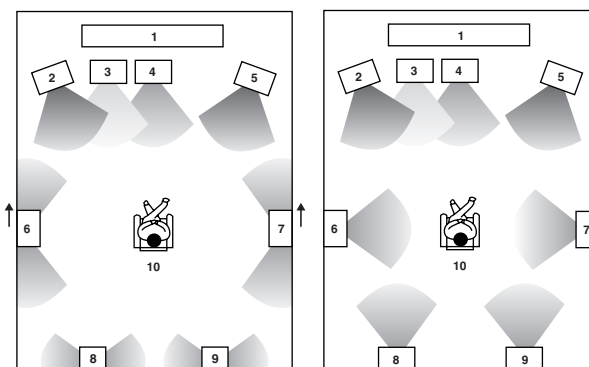
左右サラウンドスピーカー

- 視聴者の耳より１メートル高くなるように設置する。

左右サラウンドバックスピーカー

- Surround EX 方式で録音された音声を正確に再生するために必要です。
- 視聴者と各スピーカーの角度が約 30˚ になるように、視聴者の後部に配置する。

- 視聴者の耳より 1m 高い位置にスピーカーを配置する。

サブウーファー

低音の効果を最大限に得るためには、サブウーファーを設置してください。

1	テレビまたはスクリーン	6	左サラウンドスピーカー
2	左フロントスピーカー	7	右サラウンドスピーカー
3	サブウーファー	8	左サラウンドバックスピーカー
4	センタースピーカー	9	右サラウンドバックスピーカー
5	右フロントスピーカー	10	視聴位置

* 矢印は、位相を表します。ダイポール型スピーカーには位相があり、多くは矢印表示が書いてあります。サラウンド スピーカーは矢印（↑）がスクリーンへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカ ーは、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

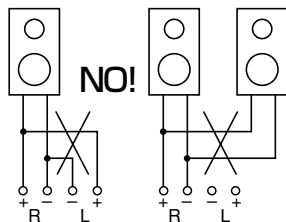
スピーカーを接続する

スピーカーの接続

スピーカーの配置が終わったら、今度は本機との接続をします。

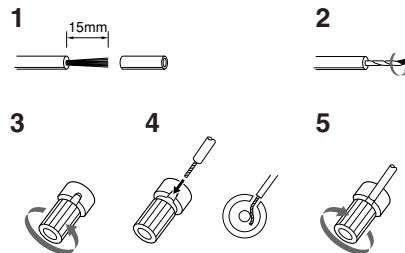
スピーカーはそれぞれ６Ω以上のインピーダンスのものをお使いください。

ご注意

- １台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、１台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対にショートさせないでください。

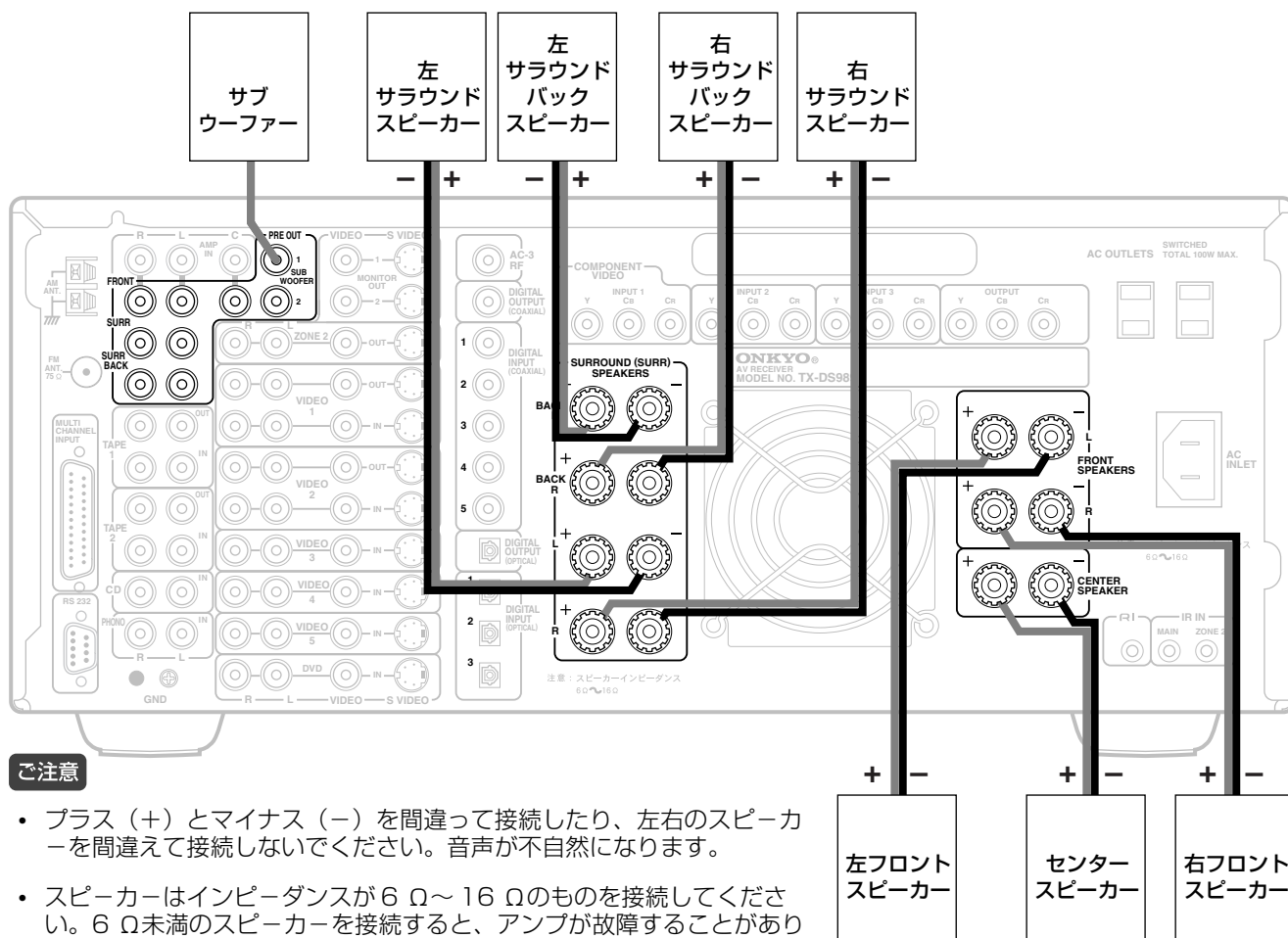
スピーカーコードの接続

1. スピーカーコードの被覆を15mmカットする
2. しん線の先端をしっかりとよじる
3. ねじをゆるめる
4. しん線を差し込む
5. ねじを締め付ける

サブウーファーの接続

パワーアンプ内蔵のサブウーファーは PRE OUT SUBWOOFER 端子に接続します。アンプを内蔵していないパワーアンプの場合は、アンプを PRE OUT SUBWOOFER 端子に接続し、サブウーファーをアンプに接続してください。PRE OUT SUBWOOFER １端子と PRE OUT SUBWOOFER ２端子には、同じ信号が出力されます。

サブウーファー
左サラウンドスピーカー
左サラウンドバックスピーカー
右サラウンドバックスピーカー
右サラウンドスピーカー

左フロントスピーカー
センタースピーカー
右フロントスピーカー

ご注意

- プラス（＋）とマイナス（−）を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。音声が不自然になります。
- スピーカーはインピーダンスが６ Ω〜 16 Ωのものを接続してください。６ Ω未満のスピーカーを接続すると、アンプが故障することがあります。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。

アンテナを接続する

ここでは付属のFM とAM アンテナの準備と接続をします。

- FM/AM アンテナの受信状態による調整や設置は、実際に放送を聞きながら行います。
- 調整しても受信状態がよくならない場合は、屋外アンテナの設置をお勧めします。

付属の AM 室内アンテナの組み立て

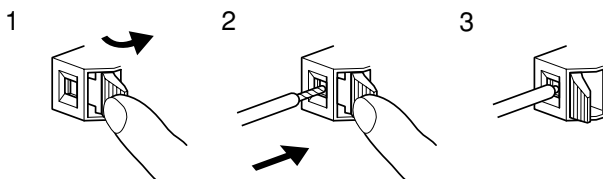
図のように、AM 室内アンテナを組み立てます。

・AM 室内アンテナの接続方法については、次ページを参照してください。

AM アンテナ線の接続

1. レバーを押す

2. アンテナ線の先を挿入する

3. レバーを離す

付属アンテナの接続

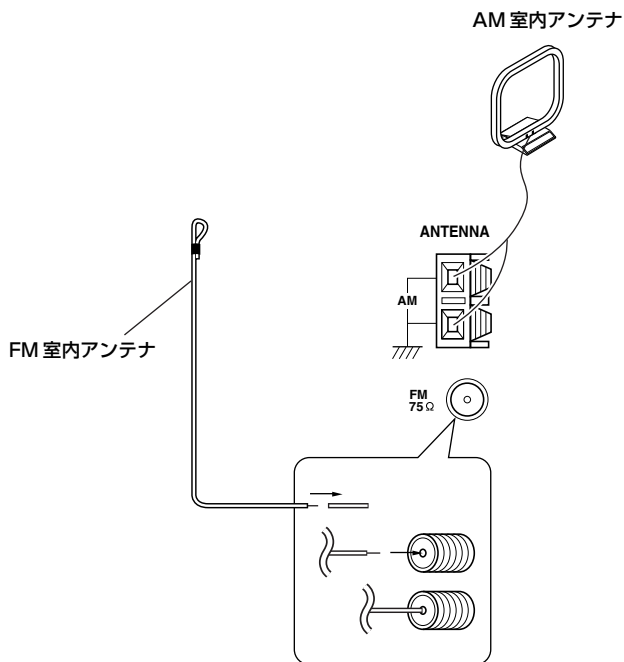
FM室内アンテナを接続する

FM 室内アンテナは必ず室内で使用してください。FM 室内アンテナを使用する場合、アンテナを伸ばし、信号が最もきれいに受信される方向に動かして、ひずみが最も小さい位置で壁などに固定します。

付属の FM 室内アンテナできれいに受信できない場合、屋外アンテナの使用をお勧めします。

AM室内アンテナを接続する

AM 室内アンテナは必ず室内で使用してください。AM 室内アンテナは、信号が最もきれいに受信される方向と位置にセットします。本機、テレビ、スピーカーコード、電源コードからは、できるだけ離してください。

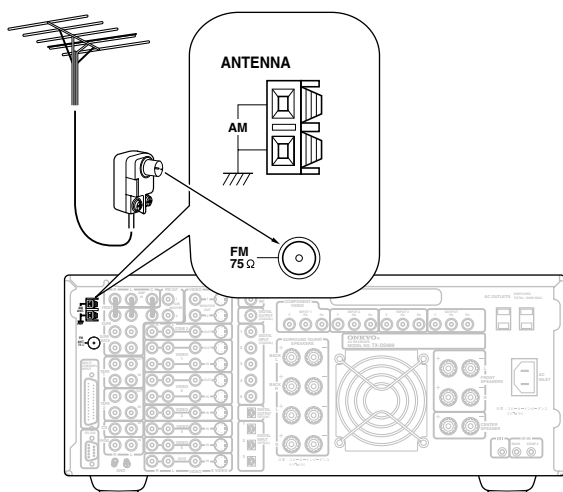
付属の AM 室内アンテナできれいに受信できない場合、屋外アンテナの使用をお勧めします。

ヒント

AM アンテナのコードは、分岐した先端を上下端子のどちらに接続してもかまいません。(スピーカーコードのように、極性などによる区別はありません。)

アンテナを接続する

FM 屋外アンテナの接続

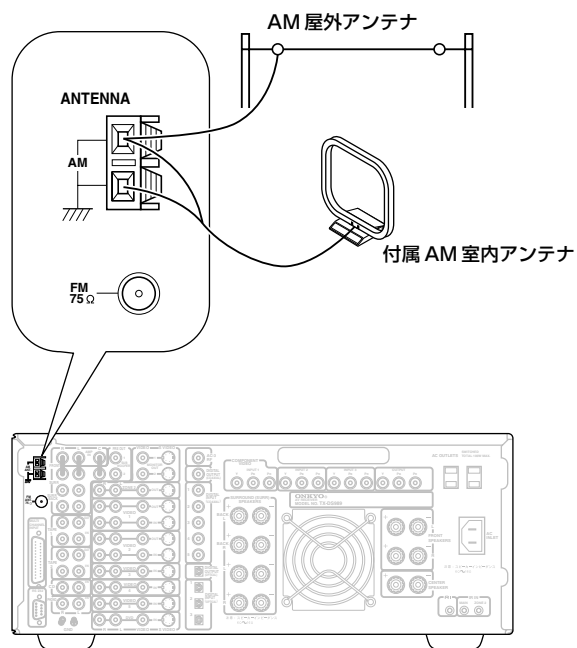
FM 屋外アンテナは次の点を考慮して接続してください。

- なるべく建物の陰にならず、FM 放送電波が直接受信できるところに設置してください。
- 自動車のエンジンによる雑音を避けるため、道路からできるだけはなれたところに設置してください。
- アンテナ工事は技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
- 送電線の近くは危険ですので、絶対に設置しないでください。

AM 屋外アンテナの接続

鉄筋住宅などで AM 室内アンテナだけでは受信状態が悪いときは、5m 以上のビニール被覆線を窓際や屋外に張ってください。

- AM 屋外アンテナを接続するときには、必ず付属の AM 室内アンテナもそのまま接続しておいてください。

ZONE 2 出力端子に接続する

(ゾーン)

はじめに

ZONE 2 に別室用のアンプやテレビを接続すると、本機を設置している部屋で音楽や映画を楽しむのと同時に、別室でもお好きなソースを選んで映画や音楽を楽しむことができます。

下図を参照し、手順どおりに接続してください。接続が終わるまで、機器の電源コードを接続しないでください。

本機と別室用の機器との接続

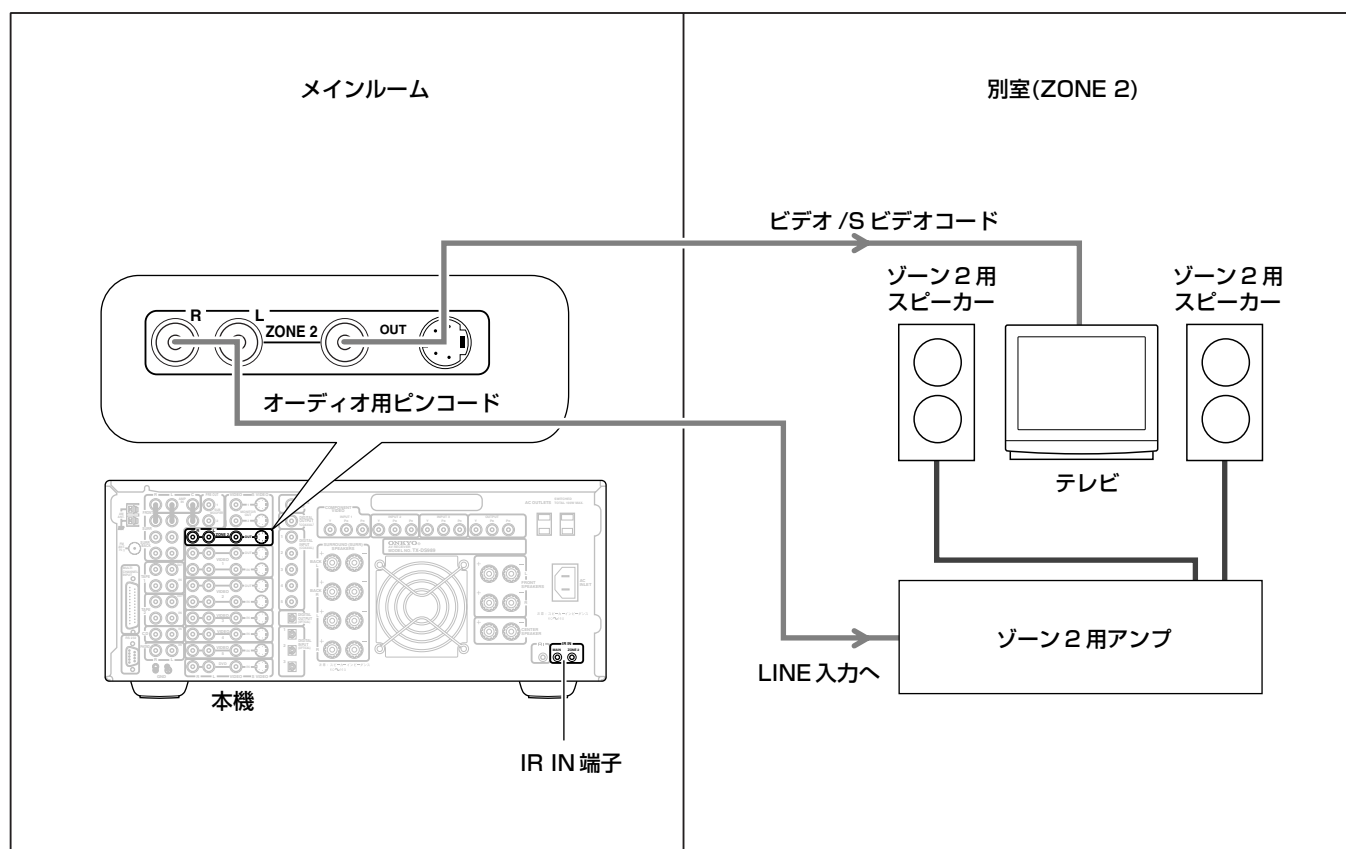
1. 本機に別室用プリメインアンプを接続する

2. 別室で使用するスピーカーのコードをプリメインアンプのスピーカー端子に接続する

3. 別室で使用するモニターを本機に接続する

* 別室から本機をリモコン操作するには、IR IN 端子を使いますが、この接続にはマルチルームシステム用のキットが必要です。2000 年 3 月時点では、この端子は日本国内モデルでは対応していません。

ご注意

本機の ZONE 2 端子は固定出力です。
アンプの LINE(CD、TAPE 等の)入力端子へ接続してください。
音量は別室用アンプ側で調整してください。

信号の流れ

グラフィックイコライザー / パワーアンプの接続

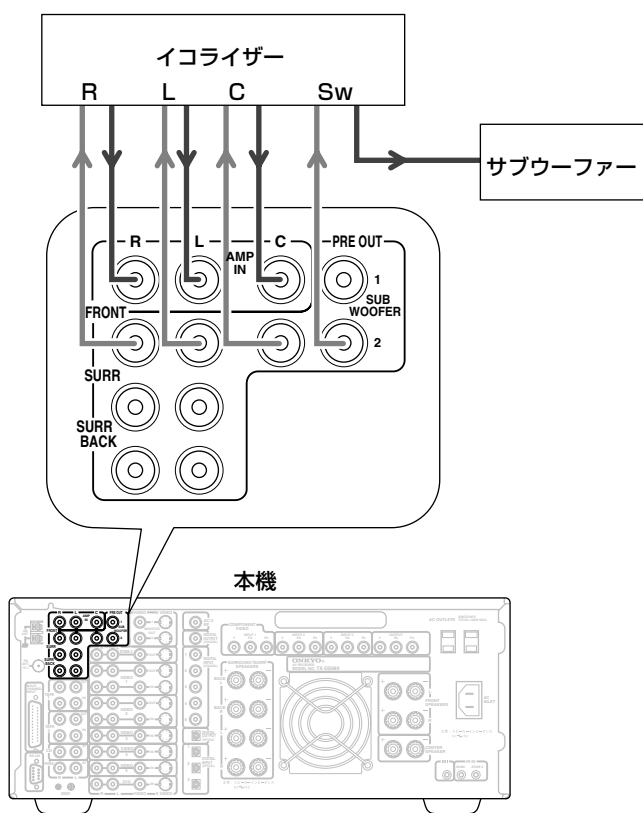
グラフィックイコライザーの接続

AMP IN 端子および PRE OUT 端子にはジャンパープラグが挿入されています。グラフィックイコライザーを接続する場合は、このジャンパープラグを取り外してからオーディオ用ピンコードを接続してください。

1. ジャンパープラグを外す

2. グラフィックイコライザーを接続する

ご注意

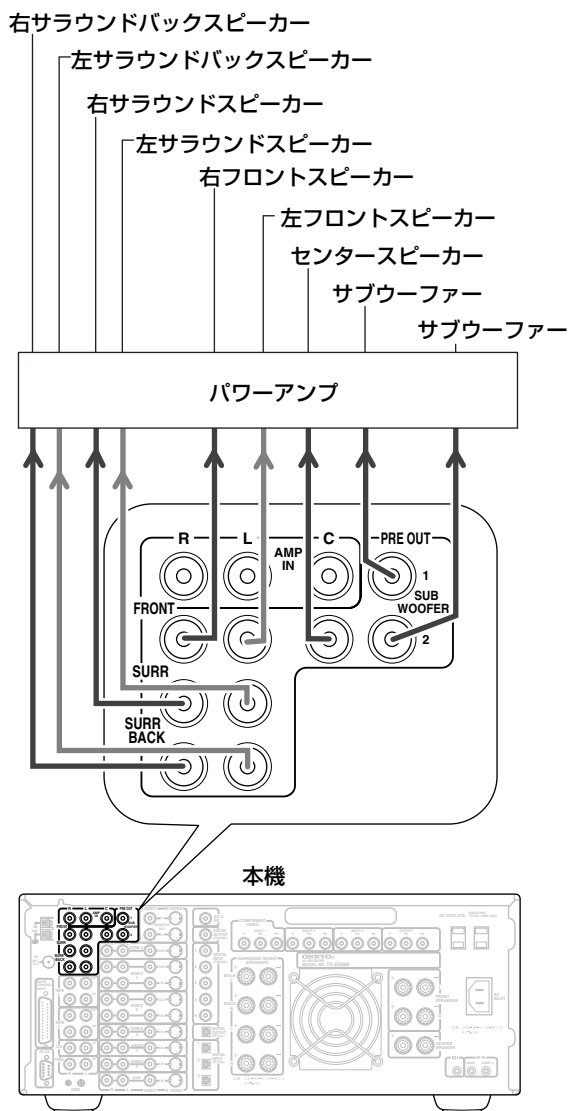
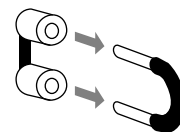
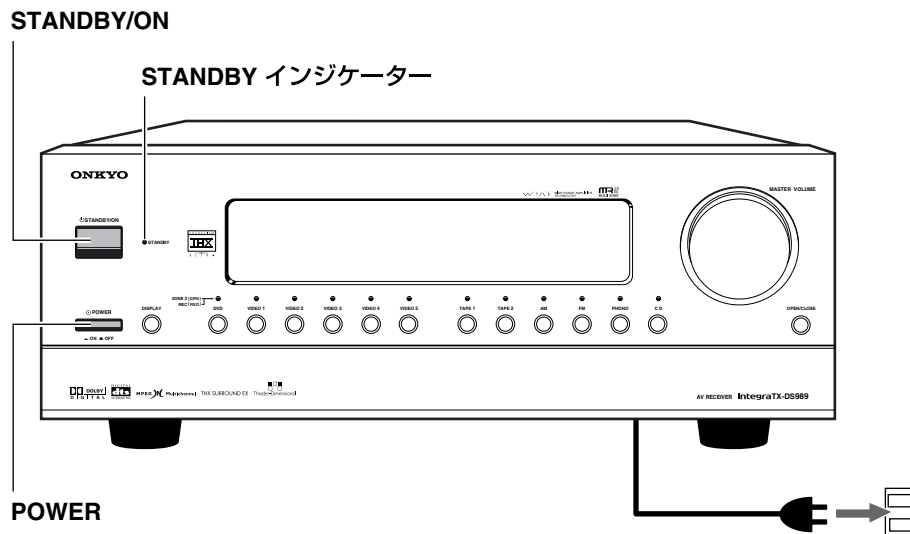
- 取り外したジャンパープラグは、なくさないように保管してください。
- 端子を使用しない場合は、ジャンパープラグを元どおりに取り付けてください。

パワーアンプの接続

パワーアンプを接続すると、本機だけでは出力できない大音量で再生できるようになります。パワーアンプを使用する場合、対応するパワーアンプに各スピーカーを接続してください。

1. ジャンパープラグを外す

2. パワーアンプを接続する

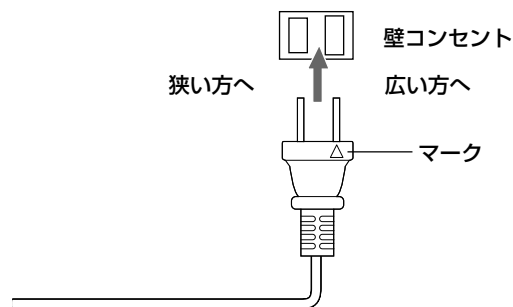
ご注意

- 取り外したジャンパープラグは、なくさないように保管してください。
- 端子を使用しない場合は、ジャンパープラグを元どおりに取り付けてください。

電源を入れる

接続する前に

- 本機の電源コード以外の、すべての接続が完了していることを確認してください。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続するようにしてください。
- 電源コードはより良い音で聞いていただくために、極性の管理がされています。電源コードの△マークのついている方を家庭用の電源コンセントの溝の広いほうに合わせて差し込んでください。

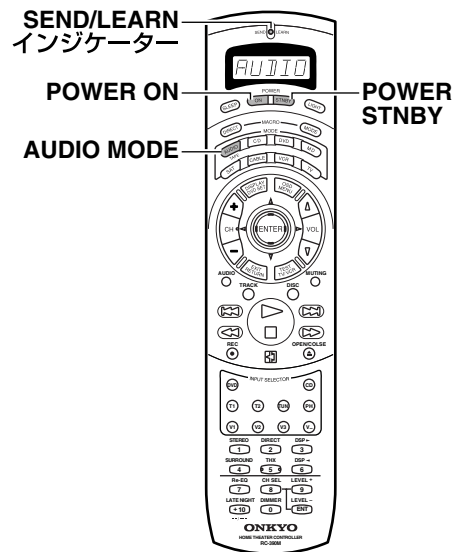
ご注意 **本機を最初にお使いになるときは**

本機は主電源スイッチ（POWER ）を入（▬ ON ）の状態で工場を出荷されますので、最初に電源コードのプラグをコンセントに差し込むとスタンバイインジケーターが点灯し、右記の手順 2 と同じ状態になります。

1. 家庭用ACコンセントに電源コードを接続する

2. POWERスイッチを押してスタンバイ状態にする

STANDBY インジケーターが点灯します。

3. STANDBY/ONボタンを押して電源を入れる

表示部が点灯し、STANDBY インジケーターが消灯します。
もう一度 STANDBY/ON ボタンを押すと、スタンバイ状態に戻ります。

■リモコンで電源を入れる

リモコンを操作する前に、左のステップ１～２により本機をスタンバイ状態にしてください。

1. AUDIO MODE（オーディオモード）ボタンを押す
2. POWER ON（パワーオン）ボタンを押して、本体の電源を入れる(スタンバイ状態を解除する)
   - スタンバイ状態に戻すには、POWER STANDBY（パワースタンバイ）ボタンを押します。

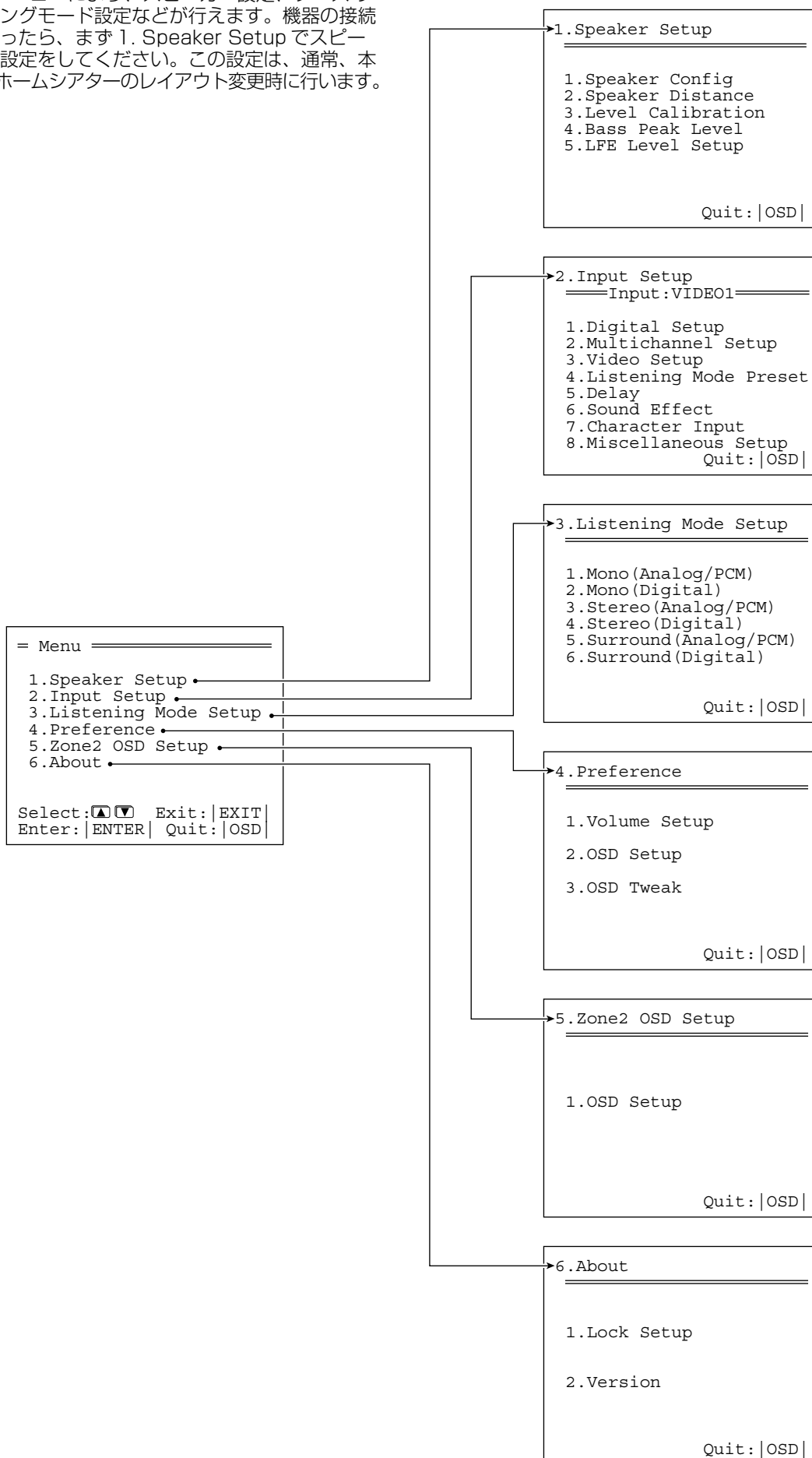
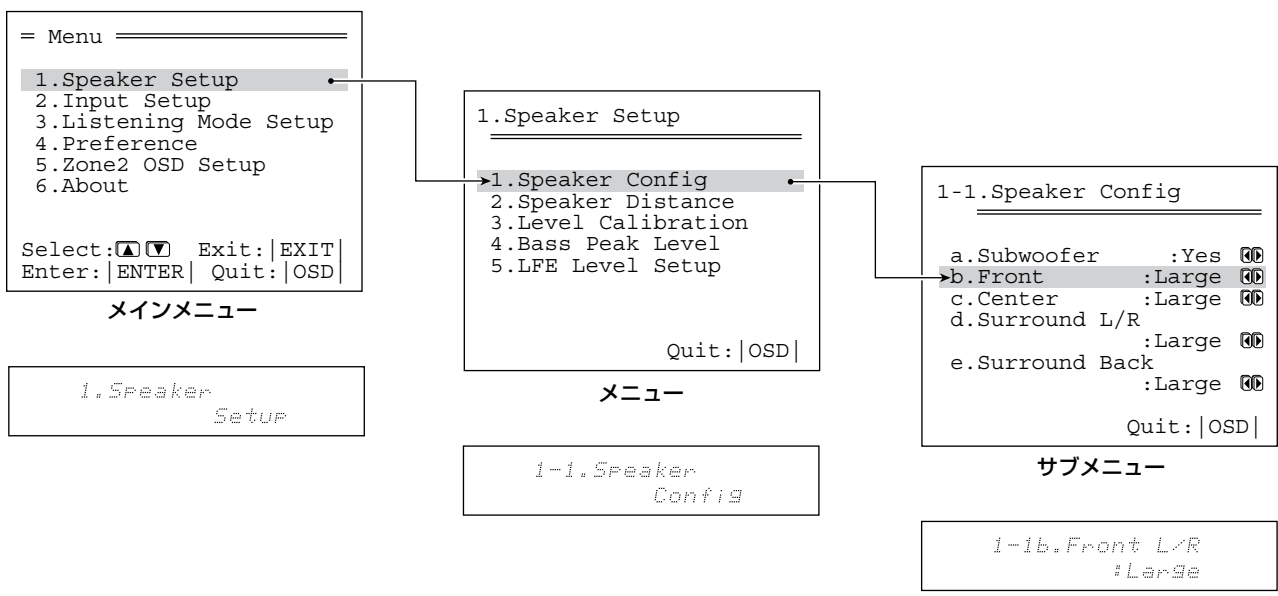
メモリー保持について

本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、登録したスピーカー設定やサラウンド設定などを停電時などに保持するためのものです。2 週間以上本機の主電源を切った状態にしておくと、メモリー内容は消えてしまいます。

誤動作するときは

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、静電気などをひろって誤動作するときがあります。このようなときは、電源コードを壁のコンセントから一度抜き、5 秒以上たってからつなぎなおしてください。

OSD(オンスクリーンディスプレイ)メニュー

OSD メニューはテレビ画面上に表示される設定メニューです。OSD メニューにより、スピーカー設定、ソースの選択、リスニングモード設定などが行えます。機器の接続と配置が終わったら、まず 1. Speaker Setup でスピーカーに関する設定をしてください。この設定は、通常、本機の設置時やホームシアターのレイアウト変更時に行います。

OSD(オンスクリーンディスプレイ)メニュー

OSD メニュー操作のしかた

メニュー操作は本機のフロントパネルとリモコンの両方で行えます。

リモコンの各ボタンと本体のボタンとの対応は下の表のようになっています。

リモコン	本機
OSD MENU	Menu メニュー
ENTER ボタンの上端	▲ 上へ
ENTER ボタンの下端	▼ 下へ
ENTER ボタンの左端	◀ 左へ
ENTER ボタンの右端	▶ 右へ
ENTER ボタンの中央	Enter 入る
EXIT RETURN	Exit 戻る

1. MENUボタンを押す

画面上に OSD メインメニューが表示されます。

2. ▲ または▼ カーソルボタンを押してメニューを選ぶ

3. ENTERボタンを押して、選択したメニューの画面を表示する

選択した項目のメニュー画面が表示されます。

4. ▲ または ▼ カーソルボタンを押してサブメニューを選び、ENTERを押す

設定を変更するには、▲または ▼ カーソルボタンで項目を選択し、次に◀ または ▶ カーソルボタンで変更します。

5. EXITボタンを押すと設定内容が確定し、メニュー画面に戻る

もう一度 EXIT ボタンを押すと、メインメニュー画面に戻ります。

ヒント

OSD メニューを 1 度で消すには、MENU ボタンを押します。

スピーカーセットアップ

1. Speaker Setup（スピーカー設定）メニュー

設定を行う前に、まず次の内容を確認してください。

- 接続されているスピーカーの大きさ
- 各スピーカーから通常の視聴位置までの距離

設定メモ：

ヒント

Large（ラージ）を選んだときは、そのチャンネル信号の全帯域がそのスピーカーに出力されます。

Small（スモール）を選んだときは、そのチャンネル信号の80Hz以下の低音域は、サブウーファーに出力されます。フロントスピーカーをLargeにしているときは、フロントスピーカーのL/Rに出力される場合もあります。
（THXスピーカーシステムの場合は、すべてSmallにします。）

1-1. Speaker Config（大きさや種類の設定）サブメニュー

接続しているスピーカーの種類および各スピーカーの大きさを設定します。

a. Subwoofer（サブウーファー）

Yes:サブウーファーを接続している

No: サブウーファーを接続していない

b. Front（フロント）

Large: 大型のフロントスピーカーを接続している

Small: 小型のフロントスピーカーを接続している

- Subwooferの設定で「No」を選択した場合は、「Large」に固定されます。

c. Center（センター）

None: センタースピーカーを接続していない

Large: 大型のセンタースピーカーを接続している

Small: 小型のセンタースピーカーを接続している

- Frontの設定で「Small」を選択した場合、「Large」は選択できません。

d. Surround L/R（左右サラウンド）

None: 左右サラウンドスピーカーを接続していない

Large: 大型の左右サラウンドスピーカーを接続している

Small: 小型の左右サラウンドスピーカーを接続している

- Frontの設定で「Small」を選択した場合、「Large」は選択できません。

e. Surround Back（サラウンドバック）

None: 左右サラウンドバックスピーカーを接続していない

Large: 大型の左右サラウンドバックスピーカーを接続している

Small: 小型の左右サラウンドバックスピーカーを接続している

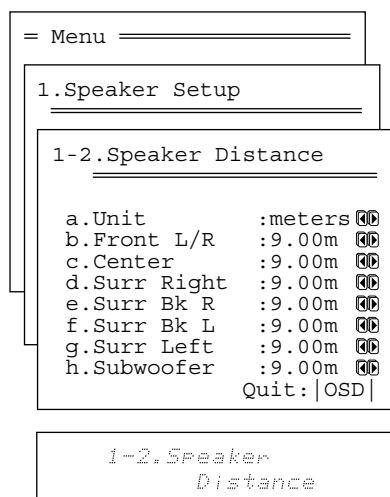
- Surround L/Rの設定で「None」を選択した場合は、「None」に固定されます。
- Surround L/Rの設定で「Small」を選択した場合、「Large」は選択できません。

1-2. Speaker Distance(距離の設定ースピーカーポジションタイムシンクロナイゼイション*)サブメニュー

各スピーカーからリスニングポイントまでの距離を設定します。

ご注意

前項の Speaker Config サブメニューで「No」または「None」を選択したスピーカーは表示されません。

1-2.Speaker
Distance

a. Unit (単位)

feet: 距離をフィートで指定する
meters: 距離をメートルで指定する

b. Front L/R (左右フロント)

左右フロントスピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3 〜 9m の範囲、0.15m 単位(1 〜 30ft の範囲、0.5ft 単位)で設定します。

ご注意

左右フロントスピーカーは、同じ距離に設置してください。そうでない場合は、ステレオのセンター定位が損なわれます。

c. Center (センター)

センタースピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3 〜 9m の範囲、0.15m 単位(1 〜 30ft の範囲、0.5ft 単位)で設定します。

d. Surr Right (右サラウンド)

右サラウンドスピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3 〜 9m の範囲、0.15m 単位(1 〜 30ft の範囲、0.5ft 単位)で設定します。

e. Surr Bk R (右サラウンドバック)

右サラウンドバックスピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3 〜 9m の範囲、0.15m 単位(1 〜 30ft の範囲、0.5ft 単位)で設定します。

f. Surr Bk L (左サラウンドバック)

左サラウンドバックスピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3 〜 9m の範囲、0.15m 単位(1 〜 30ft の範囲、0.5ft 単位)で設定します。

g. Surr Left (左サラウンド)

左サラウンドスピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3 〜 9m の範囲、0.15m 単位(1 〜 30ft の範囲、0.5ft 単位)で設定します。

h. Subwoofer (サブウーファー)

サブウーファーから通常の視聴位置までの距離を、0.3 〜 9m の範囲、0.15m 単位(1 〜 30ft の範囲、0.5ft 単位)で設定します。

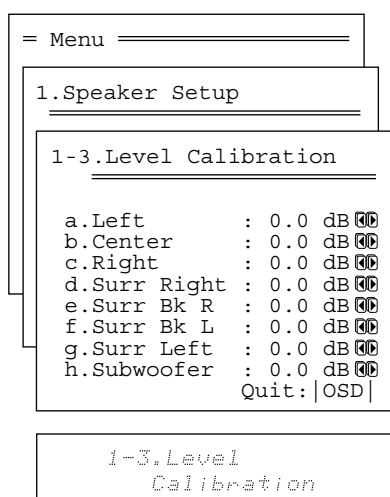
* スピーカーポジションタイムシンクロナイゼイションは、ルーカスフイルム社の登録商標です。

1-3. Level Calibration(レベル調整) サブメニュー

各スピーカーからの音が同じ大きさに聞こえるように設定します。正しい音場再生をするためには、必ず設定してください。

ご注意

マルチチャンネル入力を使用する場合、ここで行ったスピーカーレベル設定は無効になります。マルチチャンネル入力のスピーカーレベルは、リモコン(RC-390M)のCH SEL、LEVEL +、LEVEL - ボタンを使って調整します(☞ 57 ページ「マルチチャンネル音声を楽しむ」)。

1-3.Level
Calibration

スピーカーレベルの調整

(1) このサブメニューに入ると、左フロントスピーカーからザーというテスト音が出ます。このときボリュームが自動的に標準レベル（0dB）まで上がります。このテスト音の大きさを記憶し、▼ カーソルボタンを押すと、テスト音がセンタースピーカーから出ます。
(テスト音のレベルは -12 ～ 12dB の範囲を 0.5dB 単位で調整できます)

(2) センタースピーカーから出るテスト音が左フロントスピーカーのときと同じ大きさに聞こえるように、◀/▶ カーソルボタンで調整します。2 つのスピーカー間を移動してテスト音の大きさを比較してください。

(3) ▼ カーソルボタンを押します。テスト音が右フロントスピーカーから出ます。

(4) (2)と(3)を繰り返し行い、すべてのスピーカーから出るテスト音が同じ大きさに聞こえるように調整します。

ご注意

Speaker Config サブメニューで「No」または「None」を選択したスピーカーは表示されません。

ヒント

出力レベルを正しく設定するには、サウンドプレッシャーレベルメーター(SPL)を使用して、C-Weighting および Slow averaging に設定してください。また、チャンネルごとに SPL の値が 75dB になるように調整してください。

a. Left (左)

テスト音が左フロントスピーカーから出ます。テスト音のレベルは -12 ～ 12dB の範囲、0.5dB 単位で調整できます。

b. Center (センター)

テスト音がセンタースピーカーから出ます。テスト音のレベルは -12 ～ 12dB の範囲、0.5dB 単位で調整できます。

c. Right (右)

テスト音が右フロントスピーカーから出ます。テスト音のレベルは -12 ～ 12dB の範囲、0.5dB 単位で調整できます。

d. Surr Right (右サラウンド)

テスト音が右サラウンドスピーカーから出ます。テスト音のレベルは -12 ～ 12dB の範囲、0.5dB 単位で調整できます。

e. Surr Bk R (右サラウンドバック)

テスト音が右リアサラウンドスピーカーから出ます。テスト音のレベルは -12 ～ 12dB の範囲、0.5dB 単位で調整できます。

f. Surr Bk L (左サラウンドバック)

テスト音が左リアサラウンドスピーカーから出ます。テスト音のレベルは -12 ～ 12dB の範囲、0.5dB 単位で調整できます。

g. Surr Left (左サラウンド)

テスト音が左サラウンドスピーカーから出ます。テスト音のレベルは -12 ～ 12dB の範囲、0.5dB 単位で調整できます。

h. Subwoofer (サブウーファー)

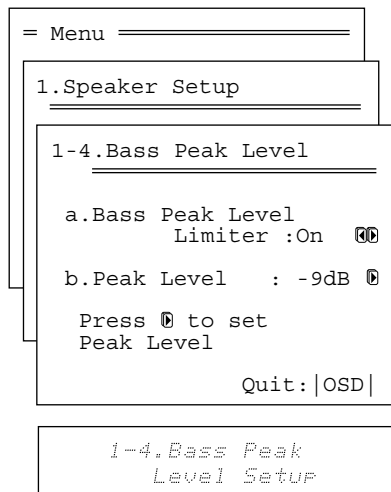
テスト音がサブウーファーから出ます。テスト音のレベルは -15 ～ 12dB の範囲、0.5dB 単位で調整できます。

1-4. Bass Peak Level(低音の最大レベル調整ー バスピークレベルマネージャー *) サブメニュー

バスピークレベル(低音の最大レベル)は、設定レベルを超える音量が出力されてサブウーファーが壊れることがないように設定します。ご使用のサブウーファーにリミッターが内蔵されている場合は、「Off」に設定してください。

ご注意

サブウーファーを使用しない場合、ここでの設定はフロントスピーカーのバスピークレベルになります。

1-4.Bass Peak Level Setup

a. Bass Peak Level Limiter (バスピークレベルリミッター)

On: バスピークレベルを設定するときに選択します。「On」を選択すると、下にピークレベル設定が表示されます。

Off: バスピークレベルリミッターを無効にします。

b. Peak Level (ピークレベル)

現在のバスピークレベル設定値が表示されます。設定値を変更するには、▶カーソルボタンを押します。サブウーファーからテスト音が出力されるので、▶カーソルボタンまたはMASTER VOLUME つまみを使って、テスト音がひずむ位置までゆっくりと音量を上げていき、ひずんだら少しだけ戻し、EXIT ボタンを押します。これにより、正しいバスピークレベルが設定されます。

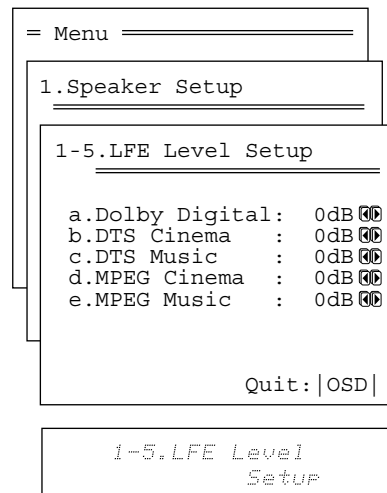
ご注意

- 音量は -∞、または -81 ～ +18dB の範囲を 1dB 単位で調整できます。
- 長時間サブウーファーからひずみ音を出力すると、サブウーファーが壊れる場合があります。

* バスピークレベルマネージャーは、ルーカスフィルム社の登録商標です。

1-5. LFE Level Setup(低域効果音の音量) サブメニュー

ドルビーデジタル、DTS、および MPEG ソフトの LFE (Low Frequency Effect)を設定します。

1-5.LFE Level Setup

a. Dolby Digital (ドルビーデジタル)

LFE レベルは -∞、または -10 ～ 0dB の範囲を 1dB 単位で調整できます。ドルビーデジタル入力信号の場合、ここで設定した LFE レベルが使用されます。最適な LFE 効果が得られる推奨値は 0dB(初期設定)ですが、低音域が強調されすぎる場合、必要に応じて値を下げてください。

b. DTS Cinema (DTS シネマ)

LFE レベルは -∞、または -10 ～ 0dB の範囲を 1dB 単位で調整できます。リスニングモードを DTS Film、THX、Theater-Dimensional、Mono Movie、Action、または Musical に設定した DTS 入力信号の場合、ここで設定した LFE レベルが使用されます。最適な LFE 効果が得られる推奨値は 0dB(初期設定)ですが、低音域が強調されすぎる場合、必要に応じて値を下げてください。

c. DTS Music (DTS ミュージック)

LFE レベルは -∞、または -10 ～ +10dB の範囲を 1dB 単位で調整できます。リスニングモードを DTS、Enhanced 7、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic、または All Ch Stereo に設定した DTS 入力信号の場合、ここで設定した LFE レベルが使用されます。最適な LFE 効果が得られる推奨値は 0dB(初期設定)ですが、低音域が強調されすぎる場合、必要に応じて値を下げてください。また、低音が弱いと感じるときは、値を上げてください。

d. MPEG Cinema (MPEG シネマ)

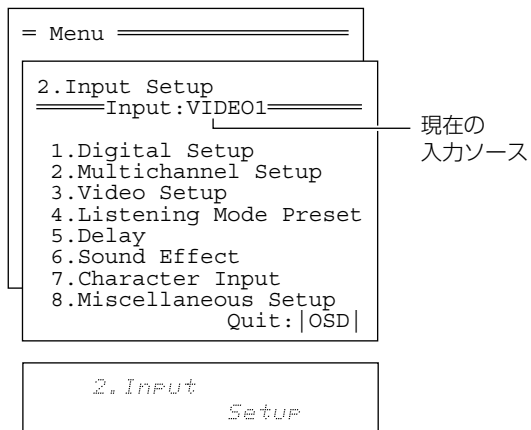
LFE レベルは -∞、または -10 ～ 0dB の範囲を 1dB 単位で調整できます。リスニングモードを MPEG Film、THX、Theater-Dimensional、Mono Movie、Action、または Musical に設定した MPEG 入力信号の場合、ここで設定した LFE レベルが使用されます。最適な LFE 効果が得られる推奨値は 0dB(初期設定)ですが、低音域が強調されすぎる場合、必要に応じて値を下げてください。

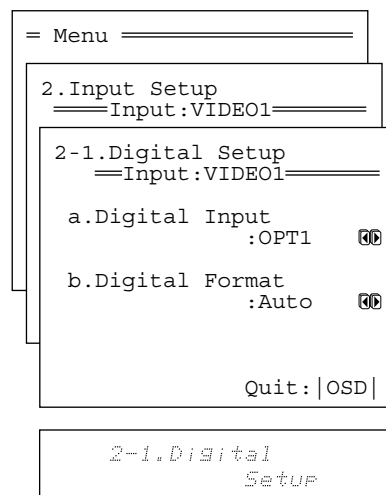
e. MPEG Music (MPEG ミュージック)

LFE レベルは -∞、または -10 ～ +10dB の範囲を 1dB 単位で調整できます。リスニングモードを MPEG、Enhanced 7、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic、または All Ch Stereo に設定した MPEG 入力信号の場合、ここで設定した LFE レベルが使用されます。最適な LFE 効果が得られる推奨値は 0dB(初期設定)ですが、低音域が強調されすぎる場合、必要に応じて値を下げてください。また、低音が弱いと感じるときは、値を上げてください。

入力ソースごとの設定（Input Setup）

2. Input Setupメニュー

本機に接続したさまざまなソース機器からの入力信号の設定を行います。ソースごとに多数の設定項目があるため、後で混乱しないように設定値および対応する機器をメモしておくことをお勧めします。（メモ欄は 74 ～ 76 ページに用意しています。）

2-1. Digital Setup サブメニュー

ここで行う設定はフロントパネルの入力切り換えボタンで現在選択しているソースに対して有効で、各デジタルソースについて個別に設定できます。ただし、Multichannel Setup サブメニューで選択したソースの Multichannel 設定が「On」になっている場合や、入力切り換えボタンで AM、FM、または PHONO を選択している場合、このサブメニューは表示されません。

a. Digital Input (デジタル入力)

フロントパネルの入力切り換えボタンがリアパネルのどのデジタル入力端子に割り当てられているかを設定します。設定を行うには、まずフロントパネルの入力切り換えボタンでデジタルソースを選択し、次にそのデジタルソースが接続されているデジタル入力端子を設定します。

たとえば、フロントパネルの入力切り換えボタンで CD を選択し、CD プレーヤーを OPTICAL IN 1 端子に接続している場合、ここで「OPT1」を選択します。入力切り換えボタンで選択した機器をデジタル入力端子に接続していないときは、「----」を選択します。

OPT1: デジタル機器を DIGITAL INPUT (OPTICAL) 1 端子に接続している

OPT2: デジタル機器を DIGITAL INPUT (OPTICAL) 2 端子に接続している

OPT3: デジタル機器を DIGITAL INPUT (OPTICAL) 3 端子に接続している

COAX1: デジタル機器を DIGITAL INPUT (COAXIAL) 1 端子に接続している

COAX2: デジタル機器を DIGITAL INPUT (COAXIAL) 2 端子に接続している

COAX3: デジタル機器を DIGITAL INPUT (COAXIAL) 3 端子に接続している

COAX4: デジタル機器を DIGITAL INPUT (COAXIAL) 4 端子に接続している

COAX5: デジタル機器を DIGITAL INPUT (COAXIAL) 5 端子に接続している

----: デジタル機器をデジタル入力端子に接続していない

b. Digital Format (デジタルフォーマット)

初期設定は「Auto」です。Digital Inputの設定で「----」を選択した場合、この項目は表示されません。初期設定をそのまま使用してもかまいませんが、入力信号のフォーマットに合わせて変更できます(たとえば、ある特定のソースの入力信号フォーマットだけしか再生しない場合など)。

Auto: 入力信号のフォーマットを自動的に検出します。選択したソースが使用する信号フォーマット(ドルビーデジタル、DTS、MPEG、またはPCM)が自動的に検出され、必要なデコード処理が行われます。デジタル信号の入力が行われない場合、アナログ入力端子への入力信号が再生されます。

AC-3RF: AC-3RF出力端子を持つLDプレーヤーを本機のAC-3RF入力端子に接続したときに選択します。ソースにVIDEO 4を選択した場合だけ選択できます。

Digital: デジタル入力信号のフォーマットを自動的に検出します。選択したデジタルソースが使用するデジタル信号のフォーマット(ドルビーデジタル、DTS、MPEG、またはPCM)が自動的に検出され、必要なデコード処理が行われます。

DTS: DTS信号のデコード処理を行うときに選択します。デコード処理が行われるのは、DTS信号が入力されたときだけです。

PCM: PCM信号のデコード処理を行うときに選択します。デコード処理が行われるのは、PCM信号が入力されたときだけです。

ANALOG: アナログ入力端子に接続した機器からの音声信号を再生します。

ご注意

- 「Auto」または「Digital」を選択してPCM信号を再生する場合、CDやLDの早送り後の再生時に音飛びが発生することがあります。その場合は、設定を「PCM」に変更してください。

DTSについてのご注意

- DTSフォーマットで記録されたCDやLDをAnalogやPCMの設定で再生すると、DTSエンコード信号をそのまま再生するため、ノイズが出力されます。このノイズを再生すると、アンプやスピーカーにダメージを与える恐れがありますので、DTSソースを再生するときは必ずデジタル(OPTICAL/COAXIAL)入力端子に接続し、Auto、Digital、またはDTSモードの設定で再生してください。

- DTSフォーマットで記録されたCDやLDをAutoまたはDigitalモードの設定で再生すると、本機が最初のDTSエンコード信号を識別してDTSデコーダーを作動するまでの短時間、ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

- DTSソースを再生している時にプレーヤー側でPAUSEやSKIPなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。このようなときはDTSモードにして再生してみてください。

- DTSソースを再生しているときには、本機のDTSインジケーターが点灯します。DTSソースの再生が終了してプレーヤーからのDTS信号が止まっても、DTSモードのままとなりDTSインジケーターが点灯したままとなります。これは、プレーヤー側で行うPAUSEやSKIPなどの操作時に発生するノイズを防止するためです。このため、DTS信号からPCM信号に急に切り替わるソースでは、PCM信号が再生されない場合があります。このようなときには、プレーヤー側でいったんソースの再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。

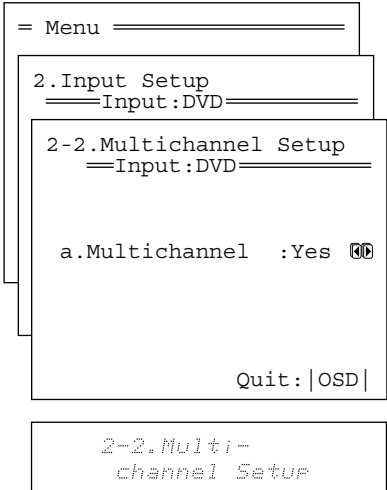
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。デジタル出力に何らかの処理(出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など)が行われていると、本機では正しいDTSデータとみなすことができないからです。このような処理を行いながらDTSソースを再生すると、ノイズを発生してしまいます。

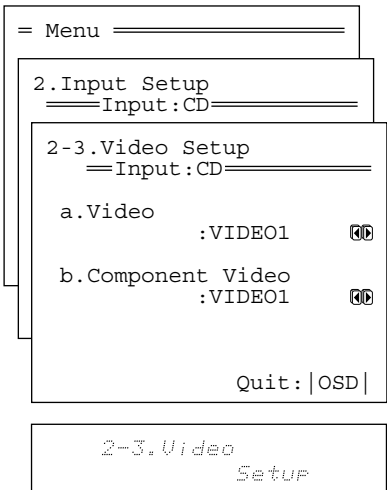
- 本機のVIDEO 1 OUT、VIDEO 2 OUT、TAPE 1 OUT、TAPE 2 OUTの各出力端子はアナログ音声を出力しています。このため、DTSフォーマットで録音されたCDやLDを録音しようとする場合、DTSエンコード信号をそのままノイズとして録音することになりますので、アナログ録音はしないでください。

- 「PCM」を選択してDTSフォーマットのCDやLDを再生した場合、ノイズだけが出力されます。DTSフォーマットの信号を再生する場合は、必ず「Auto」、「Digital」、または「DTS」を選択してください。

2-2. Multichannel Setup サブメニュー

DVD プレーヤーや MPEG デコーダーなど、5.1 チャンネルまたは 7.1 チャンネル音声出力を備えた機器を MULTI CHANNEL INPUT 端子に接続したときに「Yes」に設定します。たとえば、DVD プレーヤーを MULTI CHANNEL INPUT 端子に接続した場合は、フロントパネルの入力切り換えボタンで DVD を選択した後、このサブメニューを呼び出して Multichannel を「Yes」に設定します。「Yes」に設定すると、MULTI CHANNEL INPUT 端子から入力される音声信号に詳細設定が適用されます。

2-2.Multi-
channel Setup

2-3. Video Setup サブメニュー

2-3.Video
Setup

a. Video（映像）

入力切り換えボタンに割り当てられた各ソースの映像信号だけを切り換えることができます。映像を別の入力信号にすると、ビデオデッキの映像を見ながら、CD の音声を聞くことなどができます。

初期設定は下の表のようになっています。

選択中のソース	Video
CD	Last valid
PHONO	Last valid
FM	Last valid
AM	Last valid
TAPE1	Last valid
TAPE2	Last valid
DVD	DVD
VIDEO1	VIDEO1
VIDEO2	VIDEO2
VIDEO3	VIDEO3
VIDEO4	VIDEO4
VIDEO5	VIDEO5

Last valid（最後に選択したソースを有効にする）:「Last valid」に設定すると、直前のソースの映像が継続されます。たとえば、入力切り換えボタンで VIDEO 1 を選択した後で CD に変更すると、VIDEO 1 の映像を継続しながら CD 入力端子からの音声が演奏されます。

b. Component（コンポーネント）

COMPONENT VIDEO 入力端子(1、2、または 3)のいずれかに機器を接続した場合は、ここで入力の設定を行う必要があります。

初期設定は下の表のようになっています。

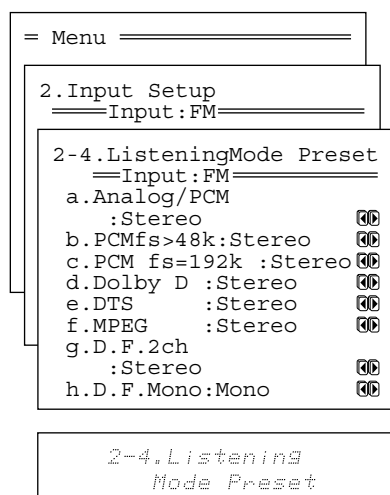
選択中のソース	初期設定
DVD	COMPONENT VIDEO 1
VIDEO1	----
VIDEO2	COMPONENT VIDEO 2
VIDEO3	COMPONENT VIDEO 3
VIDEO4	----
VIDEO5	----

入力ソースごとの設定（Input Setup）

2-4. Listening Mode Preset サブメニュー

各ソースの入力信号の種類ごとに異なるリスニングモードを設定し、パラメーターを設定できます。たとえば、CD再生のできるDVDプレーヤーを使用する場合、DVDのDTS信号とCDのPCM音声信号に、それぞれ異なるリスニングモードを設定できます。

この機能は、同じ種類の映画を再生したり音楽を演奏する場合には特に便利です。

ただし、ソースによってはリスニングモードを設定できないことがあります。たとえば、マルチチャンネル設定で「Yes」を設定した場合、リスニングモードを設定できません。また、Digital Setup サブメニューの Digital Input 設定で「----」を設定した場合は、「Analog/PCM」だけが選択できます。

5.1チャンネルデジタルサラウンドフォーマットについて

5.1 チャンネルとは、フルレンジ（20Hz ～ 20kHz ）の5 チャンネル（左右フロント、センター、サラウンド2チャンネル）と、低域効果音を記録した LFE （Low Frequency Effect ）チャンネルを、それぞれ混ぜ合わせることなく独立して記録・再生するデジタル・サラウンド・フォーマットで、ドルビーデジタルや、DTS、MPEG マルチチャンネルなどがあります。データの転送レートなどに違いはあるものの、いずれのフォーマットでも、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドをご体験いただけます。

入力ソースとリスニングモードの関係

入力ソースの信号 (表示) ソースとなるソフト リスニングモード	Analog/PCM カセットテープ, CD, レコード, チューナー	PCM fs>48k DVDオーディオ, DVDビデオ	PCM fs=192k DVDオーディオ	Dolby D DVDビデオ,LD デジタル衛星放送,	DTS CD, LD, DVDビデオ	MPEG DVDビデオ,	D.F.2ch* DVDビデオ, LD	D.F.Mono* DVDビデオ, LD
Mono	●						●	●
Direct	●	●	●					
Stereo	●	●	●	●	●	●	●	
T-D (Theater-Dimensional)	●			●	●	●	●	
Dolby D (Dolby Digital)				●				
DTS					●			
DTS Film					●			
MPEG (MPEG Multichannel)						●		
MPEG Film						●		
THX Cinema				●	●	●		
Action				●	●	●		
Musical				●	●	●		
(Dolby) Pro Logic (3 Stereo)*	●	●					●	
(Dolby Pro Logic) THX Cinema	●						●	
(Dolby Pro Logic) Action	●						●	
(Dolby Pro Logic) Musical	●						●	
Mono Movie	●						●	●
Enhance7	●			●	●	●	●	
Orchestra Unplugged Studio-Mix TV Logic	●			●	●	●	●	
All Ch Stereo	●						●	

ソースの信号フォーマットにより、選べるリスニングモードが異なります。
＊ リスニングモードがDolby Pro Logic でサラウンドスピーカーがない場合は、「3 Stereo」と表示されます。

入力ソースごとの設定（Input Setup）

入力信号の種類

a. Analog/PCM (アナログ /PCM)

アナログソースには、レコード、AM/FM 放送、カセットテープなどがあります。PCM (パルスコードモジュレーション)は一種のデジタル音声信号で、圧縮を行わずに CD や DVD に直接記録されます。

b. PCM fs > 48 k

48kHz を超えるサンプリングレートで記録されたデジタル PCM ソースです。高音質の音声信号で録音された DVD などがあります。

c. PCM fs = 192 k

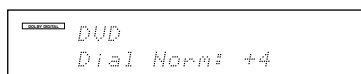
192kHz を超えるサンプリングレートで記録されたデジタル PCM ソースです。超高音質の音声信号で録音された DVD などがあります。

d. Dolby D (ドルビーデジタル)

AC-3 方式で圧縮されたデジタルデータです。最大 5.1 チャンネルのサラウンド音声を提供します。マークが付いた DVD や LD などがあります。ドルビーデジタル対応のデジタル衛星放送でも使用されています。

ダイアログノーマライゼイション(Dial norm)

「ダイアログノーマライゼイション(Dial Norm)は、ドルビーデジタルが備えている機能のひとつです。ドルビーデジタル方式で録音されたソフトウェアを再生するときに、フロントパネルのディスプレイに "Dial Norm X" (X は数値)という短いメッセージが表示される場合があります。ダイアログノーマライゼイションとは、再生するソフトウェアが通常より高いレベル、または低いレベルで録音されていることを知らせる機能です。例えばフロントパネルのディスプレイに "Dial Norm +4" というメッセージが表示されたときは、音量を 4dB 下げるだけで、全体的な出力レベルを一定にすることができます。つまりこの場合は、再生するソフトウェアが通常より 4dB 高い（大きい）レベルで録音されているということです。メッセージが表示されなければ、音量を調整する必要はありません。

DOLBY DIGITAL
DVD
Dial Norm: +4

e. DTS

DTS (デジタルシアターシステム)は、最大 5.1 チャンネルのサラウンド出力が可能な圧縮されたデジタルデータです。きわめて高音質の音声を提供します。再生するには DTS 出力が可能な DVD プレーヤーが必要です。ソースとしては、 マークが付いた CD、DVD、LD などがあります。

f. MPEG

MPEG 方式で圧縮されたデジタルデータです。最大 5.1 チャンネルのサラウンド音声を提供します。再生するには、MPEG 出力が可能な DVD プレーヤーが必要です。ソースとしては、MPEG Multichannel マークが付いた DVD などがあります。

g. D.F. 2 ch（デジタルフォーマット 2 チャンネル）

2 チャンネルデジタル方式の信号です。2 チャンネル音声で録音された LD、DVD などがあります。

h. D.F. Mono (デジタルフォーマットモノラル)

モノラルデジタル方式の信号です。モノラル音声で録音された LD、DVD などがあります。

リスニングモード

Mono (モノ)

左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVD などのメディアに記録されたマルチプレックス方式のサウンドトラックを再生できます。

Stereo (ステレオ)

すべての音声が左右のフロントスピーカーから出力されます。

Direct (ダイレクト)

音質調整やフィルターを効かさずピュアな音を聞くことができます。DIRECT では、よりピュアなステレオサウンドを聞いていただくため左右フロントの音は左右フロントスピーカーでのみ再生され、サブウーファーからは出力されません。

Dolby D (ドルビーデジタル)

ドルビーデジタル方式で録音されたソースを再生するために使用します。

DTS（ディーティーエス）

DTS 音楽ソースを再生するために使用します。

DTS Film (DTS フィルム)

DTS シネマソースを再生するために使用します。

MPEG（エムペグ）

MPEG 音楽ソースを再生するために使用します。

MPEG Film (MPEG フィルム)

MPEG シネマソースを再生するために使用します。

THX (THX シネマ)

ドルビーデジタル、DTS、MPEG、およびドルビープロロジックの各方式で録音された映画では、THX モードの効果が得られます。このモードは、映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された劇場用映画を観る場合に適しています。音楽番組、テレビ映画、スポーツ番組、トーク番組などの場合は、室内での再生を想定して録音編集されているので、THX にはあまり適しません。

THX サウンドを忠実に再生するには、ルーカスフィルム社認定 THX スピーカーシステムのご使用をお勧めします。

- **THX Surround EX でたのしむには・・・**

  リスニングモードでＴＨＸモードを選んだ後、リモコンのＴＨＸボタンを押すと、Auto → On → Off → …とサイクリックに切り換わりますので、Auto か On にします。Autoにしておくと、Surround EXでエンコードされたソースが入ってきたときに自動的に THX Surround EX で再生されます。On にしておくと、Surround EX でエンコードされたソ ースや THX Surround EX 再生可能なソース(例えば DTS-ES）の場合に、強制的に THX Surround EX で再生されます。違和感を感じるときは、Off にしてください。 On にしていても THX Surround EX 再生ができないソースの場合は、表示部に THX Cinema の表示が出ます。Off にしておくと、リスニングモードは THX Cinema になります。

THX サラウンド EX

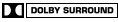
「THX サラウンド EX - ドルビーデジタルサラウンド EX」はドルビーラボラトリーズとルーカスフィルム社で共同開発されたフォーマットです。

ドルビーデジタルサラウンド EX の技術でエンコードされたサウンドトラックを映画館で使用すると、ミキシング時に追加されたチャンネルが独立して再生されます。サラウンドバックと呼ばれるこのチャンネルは、従来の左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファーの各チャンネルに加えて、視聴者の背後に新たな音場を作り出します。

サラウンドバックチャンネルにより、視聴者背後の臨場感にリアルさが増すとともに、これまで以上に、音場に深みと広がりが加わり、定位感が向上します。

ドルビーデジタルサラウンド EX の技術にもとづいて制作された映画が家庭用に発売される際は、パッケージにそのことが記載されるはずです。この技術にもとづいて制作された映画の一覧はドルビーラボラトリーズのウエッブ・ページ(http://www.dolby.com)をご覧ください。

THX サラウンド EX 技術を家庭で再生する際は、認定ロゴを冠したレシーバーおよびコントローラーを THX サラウンド EX モードで使用した場合のみ、正しい効果が得られます。

本機は、ドルビーデジタルサラウンド EX でエンコードされていない 5.1 チャンネルプログラムの再生時でも、「THX サラウンド EX」モードで動作する場合があります。このような場合、サラウンドバックチャンネルから出る音声の内容はプログラムによってさまざまであり、これが聴感上好ましいものかどうかは、個々のサウンドトラックと視聴者の主観により異なります。

Action (アクション)

特殊効果音やサラウンド効果を強調した映画のサウンドトラックを再生するために使用します。左右フロントスピーカーおよびサラウンドスピーカーの低音域が強調され、サラウンド効果が向上します。また、残響をカットすることで映画館の臨場感が増します。

Musical (ミュージカル)

ミュージカルや映画のサウンドトラックを再生するためのモードで、音楽を重視しています。センタースピーカーのミッド～ハイレンジをわずかに強調することで、ボーカルを際立たせます。このモードは、音楽、環境音や前方定位感を重視したソフトの再生に適しています。

Pro Logic/3 Stereo (ドルビープロロジック /3 ステレオ)

センターチャンネルを重視した 4 チャンネル（左右フロント、センター、モノラルのサラウンドチャンネル）サラウンド方式です。フロント 3 チャンネルからくる、音楽や会話、立体的な音の移動を追ったパン効果にこの方式がいかされています。また、実際の劇場側面や後方からかもしだされる雰囲気やサラウンド効果も再現します。DOLBY SURROUND マークのついた VHS や VHS Hi-Fi 、レーザーディスク、DVD ビデオなどの再生時に楽しむことができます。

サラウンドスピーカーを使用しない場合、サラウンド音声は左右フロントチャンネルに振り分けられて出力されます。(3 ステレオ)

Pro Logic THX (ドルビープロロジック THX)

Dolby Pro Logic リスニングモードと同じですが、THX 効果が付加されています。ドルビープロロジック方式のソフトを再生する場合に、このモードを使用します。

Pro Logic Action (ドルビープロロジックアクション)

ドルビープロロジックで録音された音楽を再生する場合に使用すると、アクションの特殊効果音が強調され、映画の音場感がさらに向上します。

Pro Logic Musical (ドルビープロロジックミュージカル)

ドルビープロロジックで録音された音楽を再生する場合に使用すると、ミュージカルの特殊効果音が強調され、音場感がさらに向上します。

Mono Movie (モノムービー)

古い作品などモノラル録音の映画ソースの再生に適したモードです。センターチャンネルからは処理していない音声をそのまま、他スピーカーからは適度な残響処理を施したセンター音声を出力します。モノラルでも臨場感のある雰囲気をお楽しみいただけます。

Theater-Dimensional (シアターディメンショナル)

本格的なホームシアターを楽しんでいただくためには、少なくとも左右フロント、センタ ー、左右サラウンドのスピーカーを用意することをお勧めしますが、現状ではフロントスピーカーしか用意できないといったような場合には、このモードを使用することでマルチチャンネル再生をお楽しみいただけます。

このモードは、左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって実現していますので、最もその効果を体験できる視聴位置（スイートスポット）が存在します。後述のリスニングアングルの説明を参考にして下さい。

また、反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合もありますので、できるだけ反射音の影響の少ないセッティングで視聴される事をお勧めします。

Enhanced 7 (エンハンスド 7)

7 チャンネルのスピーカーにより自然なサラウンドを再現します。効果音は、自然にサラウンドバックスピーカーに移動します。音楽鑑賞やテレビのスポーツ番組を見るのに適しています。

Orchestra (オーケストラ)

クラシックやオペラに適したモードです。センターチャンネルをカットするとともに、音場イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大きなホールで聴いているような、自然な響きが楽しめます。

TV Logic (TV ロジック)

スタジオ収録の TV 番組で、豊かな臨場感を楽しむためのモードです。全体的なサラウンド感とセリフの明瞭度を高めています。

Unplugged (アンプラグド)

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聴いているような音場イメージをつくります。

Studio-Mix (スタジオミックス)

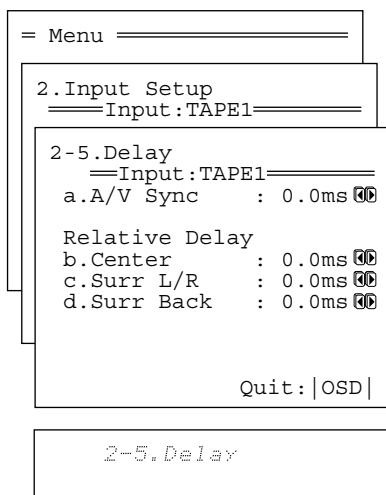
ロックやポップに適したモードです。生き生きとした躍動感にあふれ、まるでライブハウスにでもいるかのような、迫力ある音場イメージが特長です。

All Ch Stereo (オールチャンネルステレオ)

BGM として音楽をかける時に便利なモードです。フロントとサラウンドチャンネルの両方でステレオイメージをつくり出します。

入力ソースごとの設定（Input Setup）

2-5. Delay サブメニュー

スピーカーからの音声出力の時間差(ディレイ)を調整するために使用します。これにより、音場に効果をもたらしたり、音声と映像のタイミングを正しく合わせせることができます。このサブメニューは、リスニングモードの設定で「Direct」を選択した場合は表示されません。

a. A/V Sync（A/V シンク）

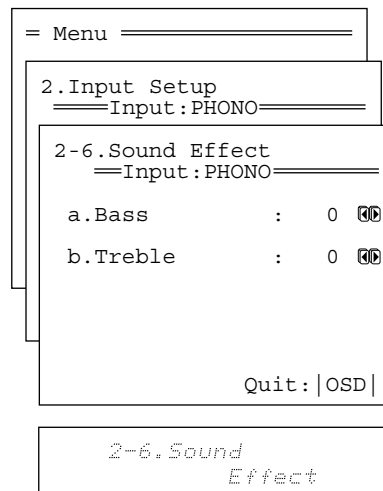
デジタルシグナルプロセッサーを接続した場合、DVD プレーヤーや LD プレーヤーの出力が完全に同期しないことがあります。その結果、音声と映像が一致せず、音声が先に聞こえます。この場合、この設定により音声と映像を正しく同期させることができます。設定は、0 ～ 30ms の範囲を 0.5ms 単位で行います。通常は 0ms に設定します。マルチチャンネル端子に接続したソースの場合、このサブメニューは表示されません。

b. Relative Delay

スピーカー間の相対的な位置を変更・調整します。レベルと距離の調整に加えてこの機能を用いることにより、リスニングポイントにおける音場の微調整が可能となります。調整には、当社独自の「エンハンスド・スペーシャル・ポジショニング・アルゴリズム (拡張三次元配置アルゴリズム)」が採用されています。このアルゴリズムにより、スピーカーの出力に対して最大 10 ミリ秒の時間差(ディレイ)をつけることができます。これは、スピーカー間の位置を約 3 メートル変えることに相当します。調整可能な範囲は、リスニングポイントに対して -4 ～ +6 ミリ秒(約 -1.2 ～ +1.8 メートル)です。

スピーカー出力のレベル調整と距離の調整で音場を大まかに設定した後、この機能を使って、サラウンド環境を設定(標準またはワイド)してください。スピーカー間の位置を調整することにより、音場により広がり(厚み)を持たせたり、反対に、まとめる(シャープにする)ことができます。

2-6. Sound Effect サブメニュー

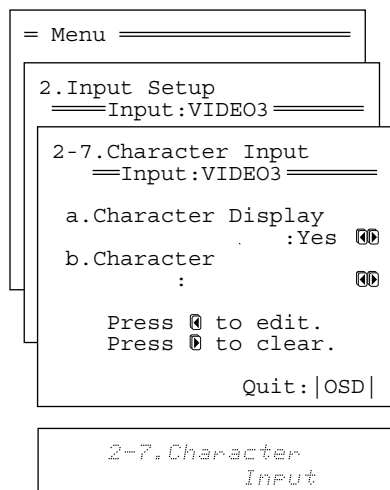
低音(Bass)または高音(Treble)の強弱を調節したり、特定のソースの音量を調節したりするために使用します。このサブメニューは、リスニングモードの設定で「Direct」または「THX Mode」を選択した場合は表示されません。

a. Bass（バス）

► カーソルボタンを押すと低音(バス)が弱くなり、◄ カーソルボタンを押すと強くなります。-12dB ～ +12dB の範囲を 2 ステップ単位で調整できます。

b. Treble（トレブル）

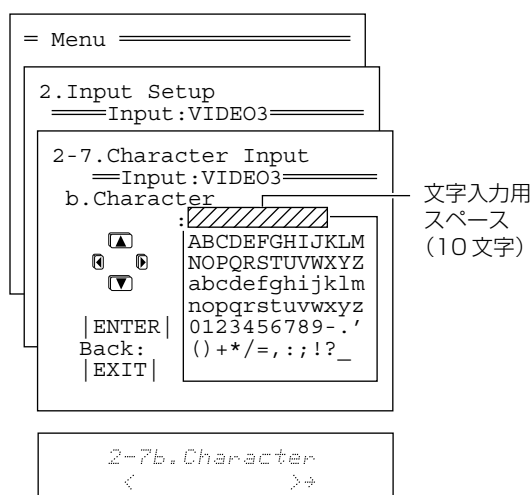
◄ カーソルボタンを押すと高音(トレブル)が弱くなり、► カーソルボタンを押すと強くなります。-12dB ～ +12dB の範囲を 2 ステップ単位で調整できます。

2-7. Character Input サブメニュー

プリセット登録した放送局や接続した機器(チューナーを除く)に名前を付けることができます。10 文字までの名前を入力できます。たとえば、VIDEO5 の入力端子に DVD を接続して「DVD2」という名前を付けることができます。また、複数のビデオデッキを接続した場合には、各ビデオデッキの型名やメーカーの名前を入力することができます。

a. Character Display (文字表示)

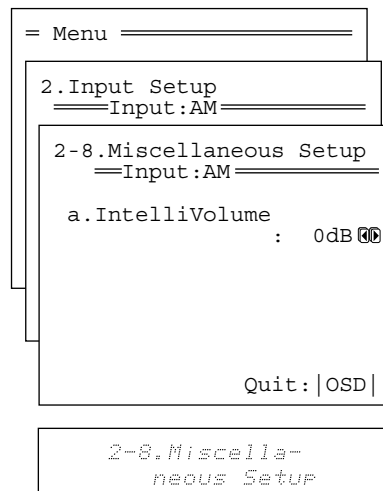
Yes: ソースを切り換えた時、入力した名前を表示します。
No: 文字表示をしません。

b. Character (文字)

◀ : 入力されているキャラクタがある場合は、全てクリアします。
▶ : 名前を入力する画面に進みます。

この画面では、カーソルボタンで希望する文字のところへカーソルを持っていき ENTER ボタンを押すと、上の 10 文字のところにその文字が順に入っていきます。入力した文字を間違えた場合は、EXIT ボタンを押すとカーソルを左へ動かすことができます。10 文字まで入力すると前の画面に戻ります。10 文字に満たない場合は、空白（最下段の右端）を選んでください。

すでに何か文字が入っていて修正したいときは、ENTER ボタンを押して修正したい文字の上までカーソルを進めます。差し替える文字を選んで ENTER ボタンを押します。修正したら、前の画面に戻るまで ENTER ボタンを何度か押してください。

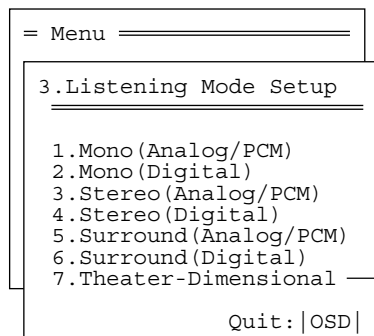
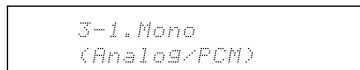
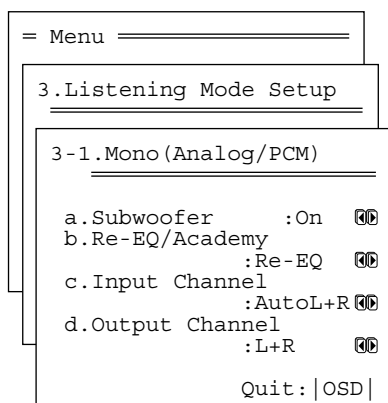
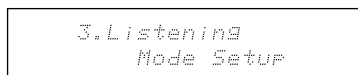
2-8. Miscellaneous サブメニュー

本機で使用できる特別な機能の設定を行います。

a. IntelliVolume (インテリボリューム)

接続している機器やソースによって出力レベルが異なるため、入力を切り替えたときに同じボリューム位置にしていても音が大きかったり、小さすぎたりして、そのたびにボリュームで音量調整をし直さなければならないことがあります。そのような不都合を解消するため、各入力ソースの補正をあらかじめ行うことができます。IntelliVolume を設定するには、まずフロントパネルの入力切り換えボタンでソースを選択し、他の機器よりも出力レベルが低い場合は ◀ ボタンで dB 値を上げ、高い場合は ▶ ボタンで dB 値を下げます。

− 12dB 〜＋ 12dB の範囲で調整できます。

3. Listening Mode Setupメニュー

Listening Mode Preset サブメニューで設定したリスニングモードの微調整を行います。ただし、リスニングモードにより設定できるパラメーターは異なります。サブメニューには設定できるパラメーターのみ表示されます。また、入力信号のフォーマットによっては、パラメーターを変更しても効果がないことがあります。

3-1. Mono (Analog/PCM) Setup

この sub-Menu 画面でパラメーターを設定しておくと、ソースがアナログもしくは PCM でかつ、Listening mode にモノラルを選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Subwoofer	Off, On	On
b Re-EQ/Academy	Off, Re-EQ, Academy	Off
c Input Channel	Auto L+R, Left, Right	Auto L+R
d Output Channel	L+R, Center	L+R

3-2. Mono (Digital) Setup

この sub-Menu 画面でパラメーターを設定しておくと、ソースがデジタルでかつ、Listening mode にモノラルを選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Subwoofer	Off, On	On
b Re-EQ/Academy	Off, Re-EQ, Academy	Off
c Input Channel	Auto L+R, Left, Right	Auto L+R
d Output Channel	L+R, Center	L+R

3-3. Stereo (Analog/PCM) Setup

この sub-Menu 画面でパラメーターを設定しておくと、ソースがアナログもしくは PCM でかつ、Listening mode に Stereo を選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Subwoofer	Off, On	On
b Re-EQ/Academy	Off, Re-EQ, Academy	Off
c Digital Upsampling	Off, On	Off

*Digital Upsampling は、PCM 入力のときのみ設定できます。

3-4. Stereo (Digital) Setup

この sub-Menu 画面でパラメーターを設定しておくと、ソースがデジタルでかつ、Listening mode に Stereo を選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Subwoofer	Off, On	On
b Re-EQ/Academy	Off, Re-EQ, Academy	Off

3-5. Surround (Analog/PCM) Setup

この sub-Menu 画面でパラメーターを設定しておくと、Listening mode に Pro Logic を選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Subwoofer	Off, On	On
b Re-EQ	On, Off	Off
c Surround Speakers	Surround L/R, Surround Back, Surround L/R+Back	Surround L/R
d Digital Upsampling	Off, On	Off

*Digital Upsamplingは、PCM入力のときのみ設定できます。また、Digital UpsamplingをOnにすると、Surround Speakers は、「Surround L/R」固定になります。

3-6. Surround (Digital) Setup

このsub-Menu画面でパラメーターを設定しておくと、Listening modeにプレーンなDolby DやDTS、MPEG、Pro Logicを選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Subwoofer	Off, On	On
b Re-EQ	Off, On	Off
c Surround Speakers	Surround L/R, Surround Back, Surround L/R+Back	Surround L/R

3-7. THX Setup

このsub-Menu画面でパラメーターを設定しておくと、Listening modeにTHX CinemaやPro Logic THXを選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Subwoofer	Off, On	On
b Re-EQ	Off, On	On
c Surround Speakers	Surround L/R, Surround Back, Surround L/R+Back	Surround L/R

3-7. DTS Film Setup, MPEG Film Setup

このsub-Menu画面でパラメーターを設定しておくと、Listening modeにDTS filmやMPEG filmを選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Subwoofer	Off, On	On
b Re-EQ	Off, On	Off
c Surround Speakers	Surround L/R, Surround Back, Surround L/R+Back	Surround L/R

3-7. +Action Setup, +Musical Setup

このsub-Menu画面でパラメーターを設定しておくと、Listening modeにActionやMusical、Dolby Pro Logic ActionやDolby Pro Logic Musicalを選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Subwoofer	Off, On	On
b Re-EQ	Off, On	Off
c Surround Speakers	Surround L/R, Surround Back, Surround L/R+Back	Surround L/R
d Front Effect	Off, On	On
e Reflect Level	-5dB to +5dB	0dB
f Reverb Level	-5dB to +5dB	0dB
g Room Size	Small, Mid-small, Middle, Mid-large, Large	Middle

3-7. Theater-Dimensional Setup

このsub-Menu画面でパラメーターを設定しておくと、Listening modeにTheater-Dimensional(T-D)を選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Subwoofer	Off, On	On
b Listening Angle	20deg, 40deg	20deg
c Center	Off, On	Off
d Front Expander	Off, On	On
e Virtual Surr Level	-3dB to +3dB	0dB
f Dialog Enhance	Off, On	Off

3-7. Enhanced 7 Setup

このsub-Menu画面でパラメーターを設定しておくと、Listening modeにEnhanced 7を選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Subwoofer	Off, On	On
b Re-EQ	Off, On	Off
c Front Effect	Off, On	On
d Reflect Level	-5dB to +5dB	0dB
e Reverb Level	-5dB to +5dB	0dB
f Room Size	Small, Mid-small, Middle, Mid-large, Large	Middle

3-7.Orchestra Setup, Unplugged Setup, Studio-Mix Setup, TV Logic Setup

このsub-Menu画面でパラメーターを設定しておくと、Listening modeにOrchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logicを選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Subwoofer	Off, On	On
b Re-EQ	Off, On	Off
c Surround Speakers	Surround L/R, Surround Back, Surround L/R+Back	Surround L/R
d Front Effect	Off, On	On
e Reflect Level	-5dB to +5dB	0dB
f Reverb Level	-5dB to +5dB	0dB
g Room Size	Small, Mid-small, Middle, Mid-large, Large	Middle

3-7. All Ch Stereo Setup

このsub-Menu画面でパラメーターを設定しておくと、Listening modeにAll Ch Stereoを選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Subwoofer	Off, On	On
b Re-EQ	Off, On	Off

3-7. Mono Movie Setup

このsub-Menu画面でパラメーターを設定しておくと、Listening modeにMono Movieを選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Subwoofer	Off, On	On
b Re-EQ/Academy	Off, Re-EQ, Academy	Off
c Surround Speakers	Surround L/R, Surround Back, Surround L/R+Back	Surround L/R
d Front Effect	Off, On	On
e Reflect Level	-5dB to +5dB	0dB
f Reverb Level	-5dB to +5dB	0dB
g Room Size	Small, Mid-small, Middle, Mid-large, Large	Middle

リスニングモードパラメーターについて

Subwoofer (サブウーファー)

サブウーファーを(接続していても)使用しない場合は「Off」に設定します。Speaker Config サブメニューの Subwoofer で「No」を選択した場合には表示されません。

Re-EQ/Academy (Re-EQ/ アカデミー)

リスニングモード設定によっては、Re-EQ のオン / オフを切り換えたり、「Re-EQ」「Academy」「Off」を選択できます。

Re-EQ: 映画館用にミキシングされた音声をホームシアターのスピーカーで再生すると、高音域が強調される傾向があります。Re-EQ (リ・イーキュー)は、高音域をホームシアター音声用に補正します。

Academy: 古いモノラル映画のミキシングでは、上映時に高音域を下げることで音のバランスを調節します。これは、フィルムの構造上再生されるヒスノイズが聞こえないようにするためです。高音は、一般に、光学スリット、電気的フィルター、スピーカーレスポンス、スクリーンの組み合わせで下がります。映画によっては、高音域を下げずにビデオへの転送を行った結果、高音域が強調されたヒスノイズの多い音が再生されます。本機は、当時、多くのシステムで使用された映画の再生手法に基づいた「アカデミーフィルター」を内蔵しています。

On: Re-EQ をオンにする

Off: Re-EQ およびアカデミーフィルターをオフにする

Input Channel (入力チャンネル)

モノラル音声の入力チャンネルを設定します。

Auto L+R: 通常の設定です。モノラル音声は、左右両方のスピーカーから出力されます。

Left/Right: 2 か国語の情報を含むビデオソースを再生する場合、「Left」または「Right」を選択します。その場合、左右のチャンネルには異なる言語の情報が含まれているので、使用したい言語のチャンネルを選択してください。

Output Channel (出力チャンネル)

モノラル音声の出力チャンネルを設定します。Speaker Config サブメニューの Center Speaker の設定で「None」を選択した場合は、表示されません。

Auto L+R: モノラル音声は左右両方のスピーカーに振り分けられます。

Center: モノラル音声はセンタースピーカーから出力されます。

Digital Upsampling (デジタルアップサンプリング)

デジタル入力信号の周波数を現在の 2 倍に変換し、より細かな音の再生が可能になります。「On」または「Off」の設定が可能です。

Surround Speakers (サラウンドスピーカー)

本機に 7 台のスピーカーを接続しているときの、5.1 チャンネル出力時、サラウンドスピーカーに割り当てられた音声を出力するスピーカーを選択できます。

Surround L+R: 左右サラウンドスピーカーに対して通常どおり音声出力を行います。左右サラウンドバックスピーカーには信号は出力されません。

Surround Back: 左右サラウンドバックスピーカーに対して音声出力を行います。左右サラウンドスピーカーには信号は出力されません。

Sur L/R+Back: 左右サラウンドスピーカーと左右サラウンドバックスピーカーの両方に音声出力を行います。

Front Effect (フロントエフェクト)

ライブコンサートなどが録音されたソースはあらかじめ周囲の残響音が収録されています。このようなソフトを再生するとこれに DSP による残響音が加わるため過剰な効果となり、雰囲気がぼやけたように聞こえることがあります。このような場合、FRONT EFFECT をオフにするとフロント 3 チャンネルからの再生音には DSP による残響音を加えずに再生しますので、ソースの情報をありのまま再生することができます。

Reflect Lvl (反射レベル)

再生するソース、部屋の状況などに合わせて、直接反射音の大小を調節できます。-5 ～ +5dB の範囲を 1dB 単位で設定できます。

Reverb Lvl (残響レベル)

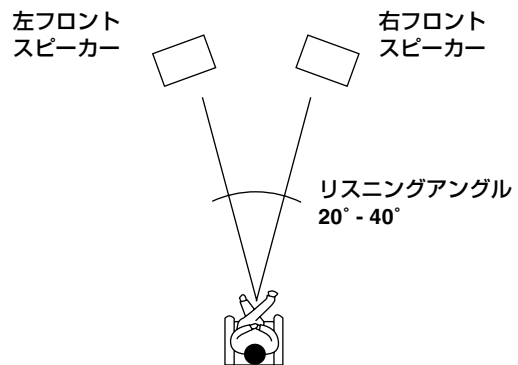
再生するソース、部屋の状況などに合わせて、残響音の大小を調節できます。-5 ～ +5dB の範囲を 1dB 単位で設定できます。

Room Size (ルームサイズ)

各サラウンドモードで再現する仮想空間のサイズを設定します。「Large（大)」「Mid（中)」「Small（小)」から選択します。

Listening Angle (リスニングアングル)

リスニングアングルとは、視聴者から見た左右フロントスピーカーに対する角度です。バーチャルサラウンド処理は、この角度をもとに信号処理を行います。

Theater-Dimensional モードでは、20° と 40° の二つの角度を選べるようになってい ます。左右フロントスピーカーから等距離で、かつ選択したリスニングアングルに近い視聴位置がスイートスポットとなります。

Center（センター）

Theater-Dimensional モードでは、システムにセンタースピーカーがある場合にはセンタ ーチャンネルの信号をセンタースピーカーで再生することもできます。これにより、左右 フロントスピーカーの負担が軽減され、より明瞭度の優れた音響空間を創造できます。（この場合、左右フロントスピーカーとセンタースピーカーのレベルと到達時間がマッチしていることが大事ですが、「1-2. Speaker Distance」と「1-3. Level Calibration」が正しく設定されておれば、自動的にこの条件は満足されます。）

On: センターチャンネルの信号はセンタースピーカーに出力されます。

Off: センターチャンネルの信号は左右フロントスピーカーに出力されます(ファントムセンター)。

Front Expander（フロントエクスパンダー）

前方のステレオステージが狭く感じる場合は、左右フロントスピーカーの位置が実際の位置よりも外側にあるかのような処理をすることで、前方ステレオイメージを拡大することができます。特にリスニングアングルが 20°といったような狭いリスニング条件の場合 に有効な機能です。

On: フロントエクスパンダーをオンにし、前方のステレオイメージを拡げます。

Off: フロントエクスパンダーをオフにします。

Virtual Surr Lvl（バーチャルサラウンドレベル）

バーチャル処理したサラウンド信号のレベルを調整します。-3 ～ +3dB の範囲で調整できます。また、明瞭度が悪い時や不自然な音がする時にこのレベルを下げる事で改善される 場合もあります。

Dialog Enhance（ダイアログエンハンス）

Theater-Dimensional モードで、センターチャンネルにあるセリフや会話が聞き取りにくい場合は、このパラメーターで明瞭度を改善することができます。

On: センターチャンネル信号のボーカルレンジを強調します。

Off: センターチャンネル信号は変更なしにそのまま出力されます。

リスニングモードと設定できるパラメーター

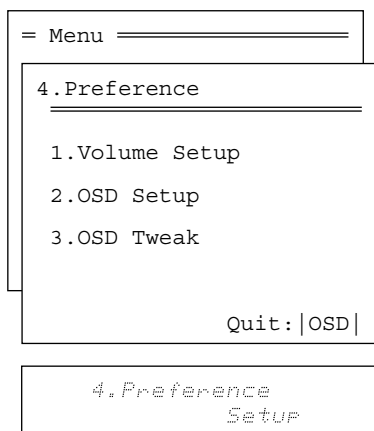
リスニングモード 設定できるパラメーター	Direct	Mono (Analog/PCM)	Mono (Digital)	Stereo (Analog/PCM)	Stereo (Digital)	Surround* (Analog/PCM)	Surround* (Digital)	THX Cinema
Subwoofer		●	●	●	●	●	●	●
Re-EQ (/Academy)		●	●	●	●	●	●	●
Input Channel		●	●					
Output Channel		●	●					
Surround Speakers						●	●	●
Digital Upsampling				●		●		
Front Effect								
Reflect Level								
Reverb Level								
Room Size								
Listening Angle								
Center								
Front Expander								
Virtual Surr Level								
Dialog Enhance								

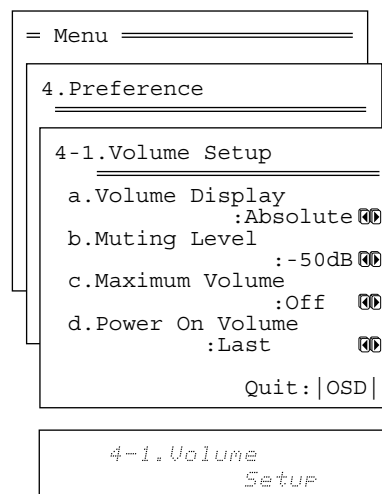
リスニングモード 設定できるパラメーター	DTS Film	MPEG Film	+Action**/ +Musical	Theater Dimensional (T-D)	Enhance7	Orchestra/ Unplugged/ Studio-Mix/ TV Logic/ Mono Movie	All Ch Stereo
Subwoofer	●	●	●	●	●	●	●
Re-EQ (/Academy)	●	●	●		●	●	●
Input Channel							
Output Channel							
Surround Speakers	●	●	●			●	
Digital Upsampling							
Front Effect			●		●	●	
Reflect Level			●		●	●	
Reverb Level			●		●	●	
Room Size			●		●	●	
Listening Angle				●			
Center				●			
Front Expander				●			
Virtual Surr Level				●			
Dialog Enhance				●			

* ここで言う Surround とは、基本になるサラウンドモードのことで、Dolby Pro Logic、Dolby Digital、DTS、MPEG 等のことです。

** +Action、+Musical とは、Dolby Digital Action、Dolby Digital Musical、DTS Action、DTS Musical、MPEG Action、MPEG Musical、Dolby Pro Logic Action、Dolby Pro Logic Musical のことです。

プリファレンス
4. Preferenceメニュー

音量の表示方法や OSD の各調整はここで行います。

ボリューム　セットアップ
4-1.Volume Setup サブメニュー

本機の音量に関するさまざまな設定を行います。

a. Volume Display (音量表示)

画面上に表示する音量設定に関して、次の２つの方法から選択できます。

Absolute (絶対値): 最小 Min (0) (無音)〜最大 Max (100) の範囲で音量を設定できます。絶対値設定の Ref (82) は、相対値設定のレベル 0dB に相当します。

Relative (相対値): 音量は、スケール上に 0 で表示される基準点の dB 値で表示されます。この基準点は、絶対値設定の 82 に相当します。相対値設定では、最小が－∞、次が－ 81、最大が＋ 18 となります。

b. Muting Level (ミューティングレベル)

再生中にリモコンの MUTING ボタンを押した時の音量を設定します。設定は－∞、－ 50dB 〜－ 10dB の範囲を 10dB 単位で行えます。

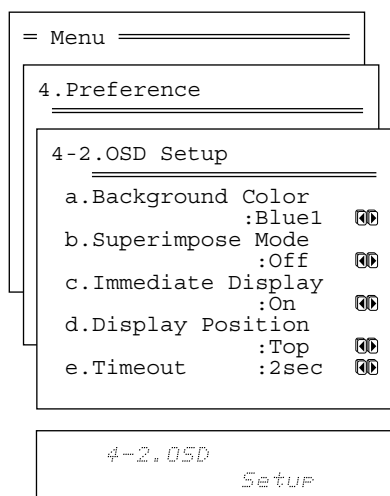
c. Maximum Volume (最大音量)

MASTER VOLUME つまみの最大出力レベルを設定し、音量が大きくなりすぎたときに接続機器が壊れないようにします。絶対値方式の音量設定を選択した場合、50 〜 99 の範囲で設定できます。また、相対値方式の場合は、－ 32 〜 +17dB の範囲を設定できます。

d. Power On Volume

本機に電源を入れた時の音量を設定し、大音量設定時でも、電源オン時に一定の音量が出力されるようにします。絶対値方式の音量設定を選択した場合、0 〜 99 の範囲で設定できます。また、相対値方式の場合は、－∞〜＋ 18dB の範囲で設定できます。次回電源を入れた時に現在の音量設定を使用したい場合は、「Last Valid」に設定します。

4-2. OSD Setup サブメニュー

OSD メニューの表示方法をカスタマイズできます。

a. Background Color (背景色)

OSD メニューを表示する時の背景色を、Blue1（青 1）、Blue2（青 2）、Green1（緑 1）、Green2（緑 2）、Magenta（紅色）、Red1（赤 1）、Red2（赤 2）の中から選択します。

b. Superimpose (スーパーインポーズ)

Off: 選択中の背景色の上に OSD メニューを表示します。

Normal（ノーマル）: 映像の表示中は映像の上に OSD メニューを、映像信号を受信していないときは選択中の背景色の上に OSD メニューを表示します。

Black（ブラック）: 常に黒の背景色の上に OSD メニューを表示します。

c. Immediate Display (同時表示)

On: 操作をした時にすぐに関連画面を表示し、操作終了後も指定した時間表示を継続します。たとえば、音量を変更する場合、音量レベルが表示されます。

Off: 同時表示をしません。

- 「2-7. Character Input sub-menu」で入力した名前は、同時表示には反映されません。

  たとえば、VIDEO5 に 2 台目の DVD プレーヤーをつないでいて、名前をDVD-2とつけた場合でも、入力を切り換えたときはVIDEO5 と表示します。

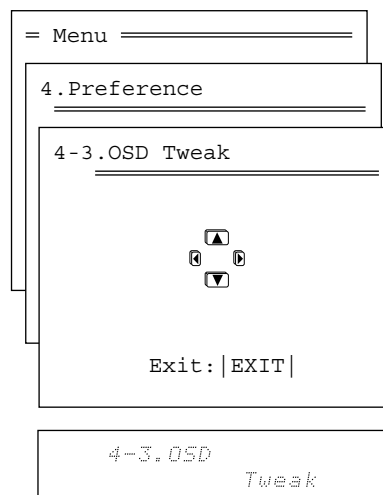
d. Display Position (表示位置)

操作をした時にすぐに表示される同時表示の位置を設定します。同時表示の位置は、画面のTop（上）からBottom（下）まで、10 段階の中から設定できます。

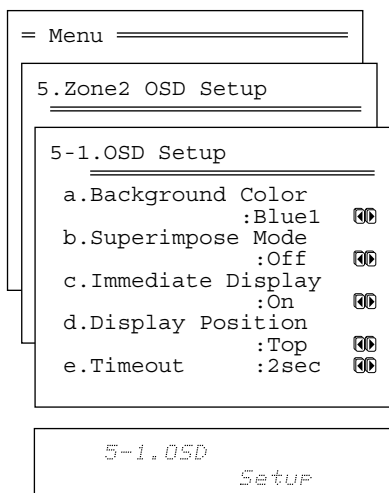
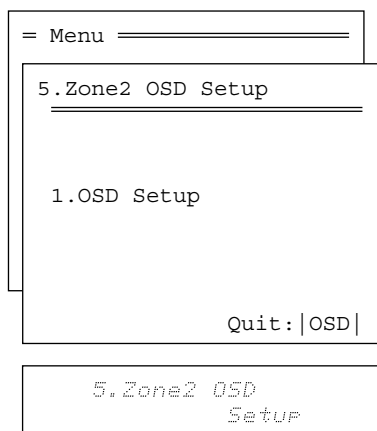
e. Timeout (タイムアウト)

操作終了後に同時表示を継続する時間を設定します。2 秒、3 秒、4 秒、5 秒のいずれかに設定できます。

4-3. OSD Tweak サブメニュー

画面に表示された OSD メニューの位置を微調整できます。使用するテレビによっては、OSD メニューが中央に表示されず、メニューの一部が表示されないことがあります。OSD メニューの位置調整には、カーソルボタンを使用します。移動したい方向のカーソルボタン押すたびに、メニューが少しずつ移動します。

Zone2 OSDの設定

5. Zone2 OSD Setupメニュー

ここで設定する内容は、Preference メニューの OSD Setup サブメニューと同じです。設定方法については、OSD Setup サブメニューの説明を参照してください。

ご注意

メインルームのOSDと、Zone2のOSDとの関係について

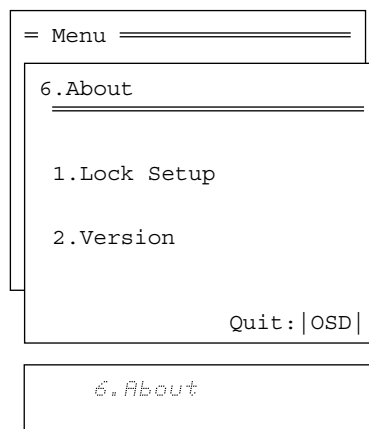
本機では、メインルームのOSDと、Zone2のOSDとを同時に出力することができません。

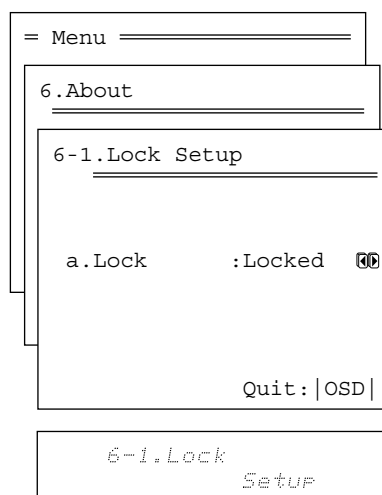
たとえば、メインルームで映像のないインプットを選び、TV画面で背景色のみ表示している状態で、Zone2のソースを切り替えると、メインルームのTV画面は、背景色表示から映像のない画面表示となり、Zone2のTV画面には、OSD（Immidiate Display）が表示されます。これは故障ではありません。

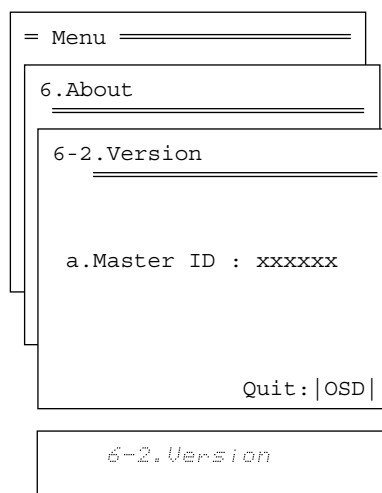
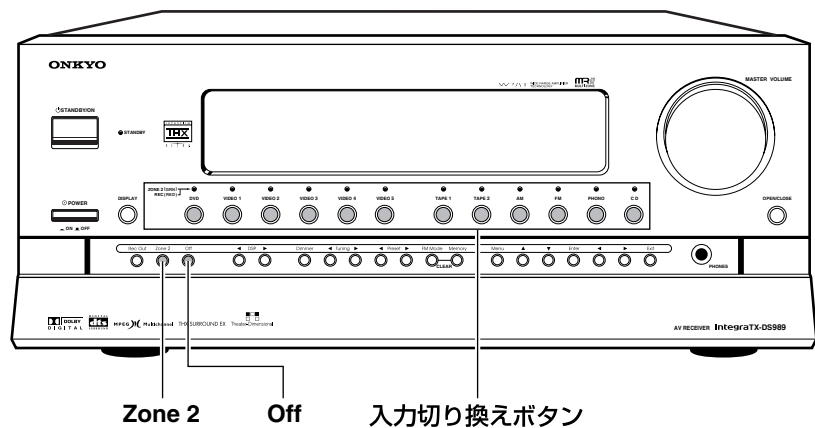
これを防ぐには、「5.Zone2 OSD Setup」→「5-1.OSD Setup」→「c.Immidiate Display」で設定をOFFにして下さい。初期設定では、この設定はOFFになっています。

About

6. Aboutメニュー

以下のサブメニューにより、設定内容をロックしたり、本機のソフトウェアバージョンを表示したりできます。

6-1.Lock Setup サブメニュー

「Locked (ロックする)」を選択すると、OSD メニューのすべての設定を変更できなくなります。これにより、時間をかけて設定した内容が誤って変更されないようにします。初期設定は「Unlocked (ロックしない)」です。

6-2.Version サブメニュー

本機に内蔵されたマイコンのバージョン番号を表示できます。

音楽やビデオを別室で楽しむ

ZONE 2 端子に接続した機器を再生する

あらかじめ、ZONE 2 端子に別室用のアンプやモニターを接続してください。

（☞ 28 ページ「ZONE 2 端子に接続する」）

1. Zone 2ボタンを押す

2. ソースを選ぶ

Zone 2 ボタンを押した後、8 秒以内に入力切り換えボタンを押してください。メインルームで選択中のソースと同じソースを選択するには、Zone 2 ボタンを続けて 2 回押します。選択したソースのインジケーターが緑色に点灯します。必要に応じて、リモートゾーンで音量を調節してください。

例: Zone 2 ボタンを 2 回押したとき

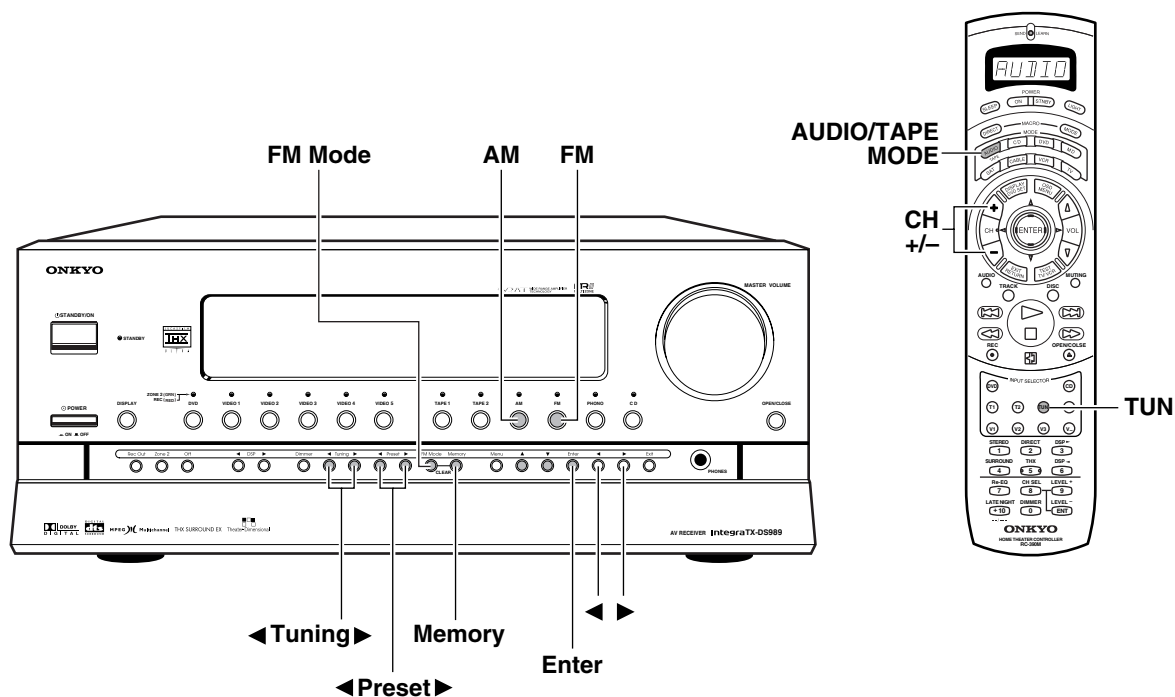
```
Zone2 Selector
:SOURCE
```

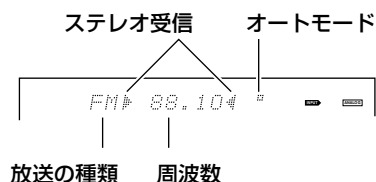
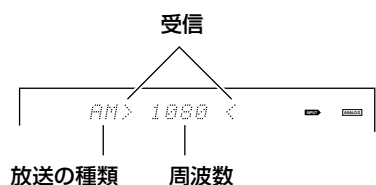
例: Zone 2 ボタンを押してから VIDEO 4 ボタンを押したとき

```
Zone2 Selector
:VIDEO4
```

ご注意

- Zone 2 ボタンを 2 回押してメインルームと別室で同じソースを再生している場合、メインルームで入力ソースを切り換えると別室の入力ソースも切り換わります。
- 別室では、2 チャンネルの再生になります。また、サラウンド再生はできません。
- Zone2 端子はアナログ出力ですので、デジタル音声は出力されません。
  選んだソースの音声が聞こえない場合は、その機器がアナログ（L/R 端子）接続されているかご確認ください。
- 別室でシステムを使用中にメインルームで Rec Out ボタンを押した場合、ZONE 2 機能は働かなくなり、別室での再生は停止します。
- **ZONE 2 機能を使わないときは、Zone 2 ボタンを押したあとに Off ボタンを押してインジケーターを消してください。**

ラジオ放送を聞く

FM/AM 放送を聞く

本機はさまざまなリスニングモードを備えているため、ご使用のオーディオシステムの性能を最大限に引き出しながら、ラジオ放送をお楽しみいただけます。また、よく聞く放送局をプリセットしておけば、フロントパネルのPRESET ボタンを使って自動受信できます。

放送局を受信する

1. 入力切り換えボタンのAMまたはFMを押す

2. フロントパネルの◀または▶TUNINGボタンで、受信したい放送局の周波数に合わせる

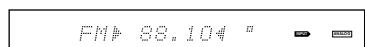
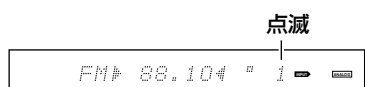
放送局を受信すると、周波数表示の両側に＞＜が表示されます。ステレオ放送の場合は、▶ ◀が表示されます。ノイズが多くて聞きづらいときは、フロントパネルのFM Mode ボタンを押します。「Mono」と表示が出て、モノラルモードになります。受信操作中に放送局間のノイズが聞こえますが、ステレオモードの時の音切れがなくなります。再びステレオモードに戻したいときは、FM Mode ボタンを押すと「Auto」と数秒表示したあと、周波数の右肩に「⁝⁝⁝」が点灯します。

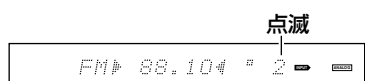
- FM の場合は 100kHz 単位、AM の場合は 9kHz 単位で周波数を変更できます。

- FM を選択した場合は、TUNING ボタンのいずれかを押したままにすることにより自動サーチ機能を使用できます。ボタンに対応した方向に周波数のサーチが行われ、次の放送局がステレオモードで受信されます。

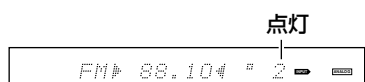
放送局をプリセットする

1. プリセットしたい放送局を受信する

(前項の「放送局を受信する」をご覧ください。)

2. フロントパネルのMemoryボタンを押す

3. ◀または▶カーソルボタンで、プリセットしたい放送局に割り当てるプリセット番号(1～40)を選ぶ

点滅

4. Enterボタンを押してプリセットする

受信した放送局がプリセットされます。

点灯

- 本体のメモリーに 40 局まで放送局をプリセットできます。
- OSD メニューを使って、各プリセット局に名前を付けることができます(☞ 45 ページ「Character Input サブメニュー」)。

プリセットした放送局を受信する

1. 入力切り換えボタンのAMまたはFMを押す

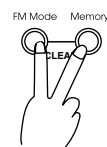
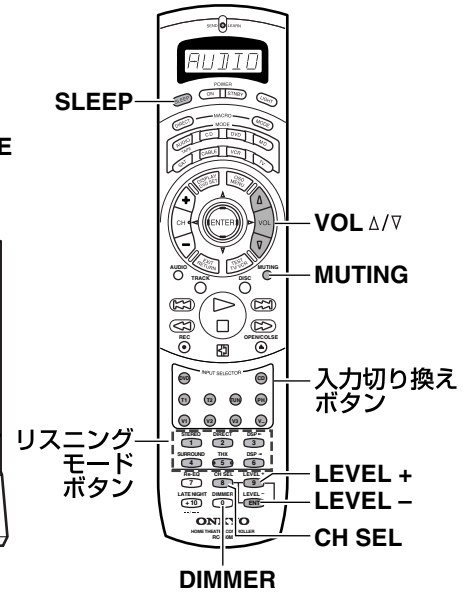
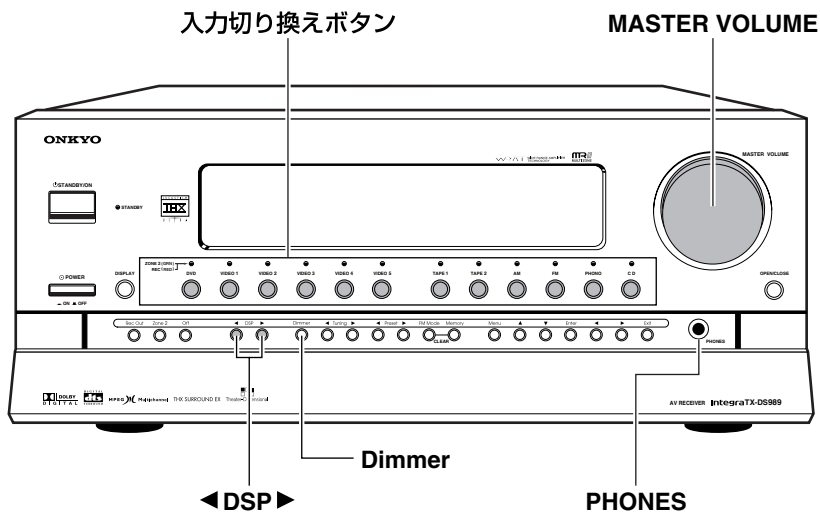
リモコンで操作する場合は、表示窓に“AUDIO”と表示されているのを確認してから TUN ボタンを押してください。(“AUDIO”と出ていない場合は、AUDIO/TAPE MODE ボタンを押してください。)

2. フロントパネルの◀または▶Presetボタン(またはリモコンのCH +/CH -ボタン)を押して、受信したい放送局を表示する

プリセットした放送局を削除する

1. フロントパネルの◀または▶Presetボタンで削除したい放送局を選ぶ

2. FM MODEボタンを押しながら、MEMORYボタンを押す

選択した放送局が削除されます。

音楽やビデオを再生する

再生ソースを選ぶ

再生ソースを選択するには、再生したいソースに対応するフロントパネル(またはリモコン)の入力切り換えボタンを押します。

ソースを選択したら、選択した機器の電源を入れて再生状態にします。

音量を調整する

リモコンのVOL∆/∇ボタンまたは本体のMASTER VOLUMEを回します。音量を上げるときは右に、下げるときは左に回します。
接続しているすべてのスピーカーの音量を同時に調節します。ヘッドホンを接続しているときは、ヘッドホンの音量を調整します。

リスニングモードを変更する

再生中にリスニングモードを変更するには、フロントパネルのDSP◀/▶ ボタンまたはリモコンのリスニングモードボタンを押します(☞ 61 ページ「リスニングモードボタン」)。

ヘッドホンで聞く

ヘッドホンで聞くには、フロントパネルのPHONES端子に標準ステレオプラグを挿入します。
サラウンドモードは自動的にステレオになり、スピーカーからの音は出なくなります。

本機のさまざまな機能を使う

異なる入力ソースを組み合わせて出力する:

あるソースの映像を見ながら、別のソースの音声を聞くことができます。(☞ 40ページ「Video Setupサブメニュー」)

ソースに名前を付ける:

各ソースの名前を入力すれば、ソースを選択した時にフロントパネルの表示部に機器名などを表示できます。
(☞ 40ページ「Character Inputサブメニュー」)

スピーカーの出力レベルを一時的に変更する:

各スピーカーの音量を変更するには、リモコンで以下の操作を行います。本機をスタンバイ状態にすると、設定内容が変更前の値に戻ります。

1. CH SELボタンを押して、出力レベルを変更したいスピーカーを選ぶ。
2. LEVEL+またはLEVEL-ボタンを押して、音量を調節する。

スリープ機能を使用する:

スリープタイマーを設定するには、リモコンのSLEEPボタンを押した後、本機がスタンバイ状態になるまでの時間を設定します。(☞ 61ページ「スリープボタン」)

一時的に音を消す:

電話がかかってきたときなど、一時的に音を消したい場合、リモコンのMUTINGボタンを押します。(☞ 61ページ「MUTINGボタン」)

低音と高音を調節する:

OSDメニューのSound Effectサブメニュー(Input Setup → Sound Effect)で低音と高音のレベルを調節できます。(☞ 44ページ)

フロントパネルの表示部の明るさを調節する:

リモコンまたはフロントパネルのDIMMERボタンでフロントパネルの表示部の明るさを調整できます。
(☞ 13ページ「Dimmerボタン」、61ページ「DIMMERボタン」)

次のような表示が出たときは

次のような表示が出たときは、そのときの使おうとしていた機能、設定の選択はできません。

```
Not available
  with HP in
```

ヘッドホンを使用しているので、この設定はできません。

```
Not available
 in Multi Ch
```

Multichannelを使用しているので、この設定はできません。

```
Not available
in this Sp.Cfg
```

現在のSpeaker Configurationでは、この設定はできません。

```
Not available
 other than DD
```

Dolby Digital以外の設定は選択できません。

マルチチャンネル音声を楽しむ

マルチチャンネル出力を備えた機器を使用する前に、まずOSDメニューのMultichannel設定(Input Setup → Multichannel Setup)で再生する入力ソースを「Yes」に設定します。(☞ 40ページ「Multichannel Setupサブメニュー」)

1. リアパネルのMULTI CHANNEL INPUT端子に接続したマルチチャンネル出力機器に対応する入力切り換えボタンを押す

2. マルチチャンネル出力機器の電源を入れ、メディアを再生する

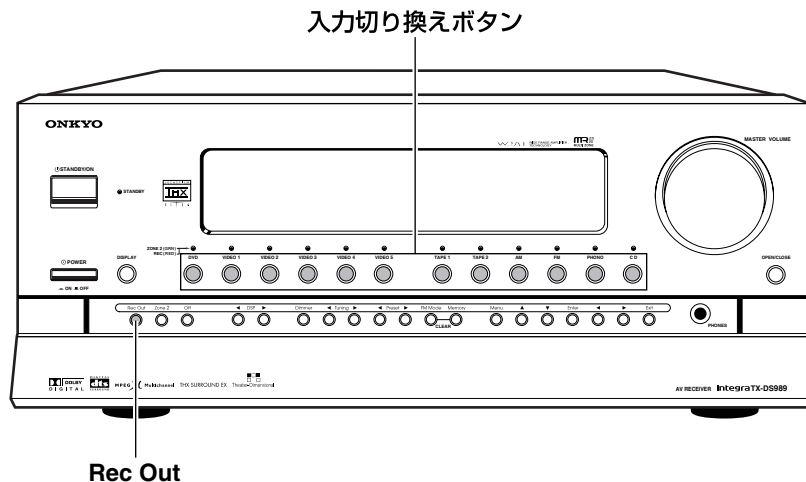
3. 必要があれば、リモコンのCH SELボタンを押して各スピーカーを選択し、LEVEL+またはLEVEL-ボタンで音量を調節する

リスニングポイントで各スピーカーの音が同じに大きさに聞こえるようにスピーカーの出力レベルを調節してください。左右フロント、センター、左右サラウンド、左右サラウンドバックスピーカーの場合、-12～+12dBの範囲で出力レベルを調節できます。サブウーファーの場合、-30～+10dBの範囲で調節できます。

4. MASTER VOLUMEつまみ(またはリモコンのVOL△/▽ボタン)で音量を調節する

可能な状態になります。

録音・録画する

あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは
著作憲法上、権利者に無断で使用できません。

音楽や映画を再生しながら録音・録画する

現在再生中の音楽や映画を録音・録画します。

1. 入力切り換えボタンを押して、録音・録画ソースを選ぶ

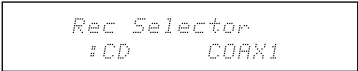
2. REC OUTボタンを8秒以内に2回押す

REC OUT ボタンを２回押すと、現在選択中のソースからの信号が TAPE 1 OUT、TAPE 2 OUT、VIDEO 1 OUT、VIDEO 2 OUT の各出力端子に出力され、録音・録画可能な状態になります。

3. 録音・録画機器で、録音・録画を始める

```
Rec Selector
 :SOURCE OPT3
```

ご注意

- 録音・録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースからの信号が録音・録画されます。
- サラウンド効果は録音されません。
- DIGITAL INPUT (COAXIAL)および DIGITAL INPUT (OPTICAL)の各入力端子から入力されたデジタル信号は、それぞれ DIGITAL OUTPUT (COAXIAL)および DIGITAL OUTPUT (OPTICAL)の出力端子から出力されます。
- デジタル音声入力はデジタル音声出力にのみ、アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音されるときは、デジタル録音機器(MD レコーダーや DAT など)の取扱説明書もご覧ください。
- MULTICHANNEL INPUT 端子に接続したソース機器からの信号は録音・録画できません。

録音・録画する

再生中に別のソースを選んで録音・録画する

現在再生中の音楽や映画以外のソースを録音・録画します。

1. 再生中にREC OUTボタンを押す

2. 8秒以内に入力切り換えボタンを押して、録音・録画ソースを選ぶ

再生中のソースとは別に、選択されたソースのインジケーターが赤色に点灯し、録音・録画ソースの信号がTAPE 1 OUT、TAPE 2 OUT、VIDEO 1 OUT、VIDEO 2 OUT の各出力端子に出力され、録音・録画可能な状態になります。

Rec Selector
:CD COAX1

3. 録音・録画機器で、録音・録画を始める

ご注意

- リモート出力端子(ZONE 2)と録音・録画出力端子(REC OUT)は同一回路を使用しているため、同時に使用できません。
- サラウンド効果は録音されません。
- DIGITAL INPUT (COAXIAL)および DIGITAL INPUT (OPTICAL)の各入力端子から入力されたデジタル信号は、それぞれ DIGITAL OUTPUT (COAXIAL)および DIGITAL OUTPUT (OPTICAL)の出力端子から出力されます。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音されるときは、デジタル録音機器(MD レコーダーや DAT など)の取扱説明書もご覧ください。
- MULTICHANNEL INPUT 端子に接続したソース機器からの信号は録音・録画できません。

異なるソースの音楽と映像を録音・録画する

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオを作成できます。

以下の手順は、CD IN 端子に接続した CD プレーヤーの音声と VIDEO 5 端子に接続したビデオカメラの映像を VIDEO 1 OUT 端子に接続したビデオデッキで録音・録画する例です。

1. 入力切り換えボタンを押して、CDを選ぶ

2. OSDメニューのVideo SetupサブメニューでVideoを「Video 5」に設定する(Input Setup→Video Setup→Video)

3. CDプレーヤーにCDをセットし、VIDEO 5端子に接続したビデオカメラにテープをセットする

4. VIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキにビデオテープをセットする

5. REC OUTボタンを2回押す

REC OUT インジケーターが 8 秒間点滅します。これで、CD プレーヤーが音声入力ソース、VIDEO 5 が映像入力ソースとして選択されました。

6. ビデオデッキで録画を始め、CDプレーヤーとビデオカメラで再生を始める。

ご注意

- 録音・録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースからの信号が録音・録画されます。
- サラウンド効果は録音されません。

リモコンを使う

はじめに

RC-390M リモコンを使用すると、ホームシアターを簡単に操作できます。リモコンを使用するには、まず MODE ボタンを押して操作する機器を選択します。選択された機器はリモコンの表示窓に表示されます。次に各操作ボタンを押すと、選択中の機器が動作します。たとえば、リモコンで本機の入力ソースに CD を選択したい場合、まず AUDIO/TAPE MODE ボタンを押して本機を選択し(表示窓には「AUDIO」と表示されます)、次に入力切り換えボタン(INPUT SELECTOR)の CD を押します。

リモコンで各機器を操作する

リモコンを使用するには、まず本体の POWER スイッチを押して本機の電源を入れてください。

1. AUDIO/TAPE MODEボタンを押す

   リモコンの表示窓に「AUDIO」と表示されます。

2. POWER ONボタンを押すと表示窓が点灯し、電源が入ります。POWER STNBYボタンを押すとスタンバイ状態になります。

SEND/LEARN インジケーター

他のリモコンのコードを登録するときや制御コードの登録時、送信時に点灯・点滅します。エラー時や乾電池の残量が少なくなったときにも点灯します。

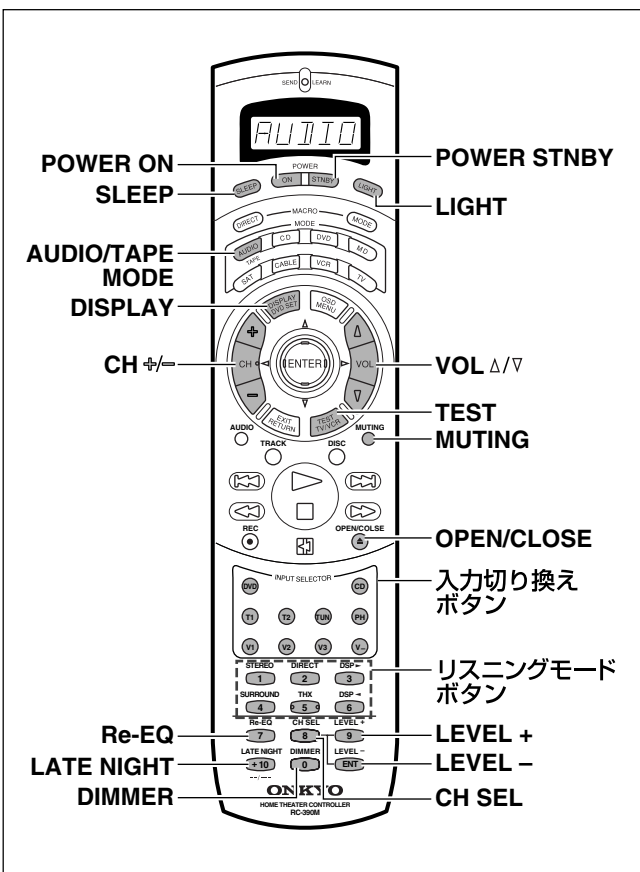
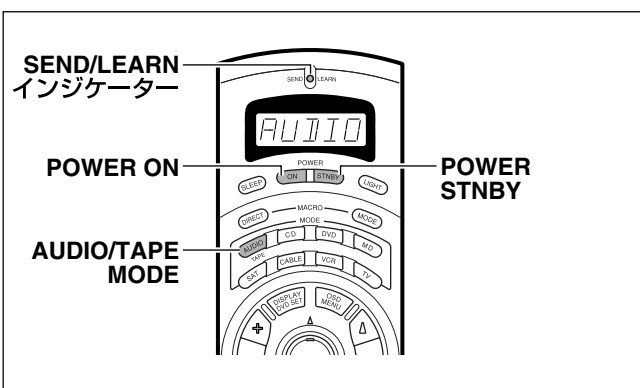
本機を操作する

表示窓に「AUDIO」とすでに表示されている場合は、ステップ 2 から始めてください。

1. AUDIO/TAPE MODEボタンを押す

   リモコンの表示窓に「AUDIO」と表示されます。

2. 各操作ボタンを押す

   左の図にグレーで示したボタンが本機の操作ボタンです。

LIGHT ボタン: ボタンが光ります。

SLEEP ボタン: スリープ時間を設定します。

一定時間経過後に自動的に本機の電源が切れるように設定できます。SLEEP ボタンを 1 回押すと 90 分後に本機の電源が切れます。その後、SLEEP ボタンを 1 回押すごとに本体の電源が切れるまでの時間が 10 分ずつ短くなります。スリープ機能が有効になっているときに SLEEP ボタンを押すと、電源が切れるまでの時間が表示されます。表示時間が 10 分より短くなった時に SLEEP ボタンを押すと、スリープ機能が解除されます。

POWER ON/STNBY ボタン:
本機の電源を入れ、スタンバイ状態にします。

DISPLAY ボタン: 表示を切り換えます。

(☞12 ページ「DISPLAY ボタン」)

VOL ∆/∇ボタン: 音量を調節します。

CH +/- ボタン: プリセットした放送局を選択します。

TEST/TV/VCR ボタン: スピーカーレベルの設定時にテスト音を出力します。

LEVEL +/- ボタン、CH SEL ボタンといっしょに使用すれば、OSD メニューを使用せずにスピーカーレベルを調節できます。TEST ボタンを押すとザーというテスト音が出力されますので、LEVEL +/- ボタンで音量を調節してください。CH SEL ボタンは、スピーカーの切り換えに使用します。
(☞36 ページ「Level Calibration サブメニュー」)

MUTING ボタン: 音を一時的に小さくします。

音楽を聞いているときに、電話がかかってきてすぐに音を下げたいときなどに役立ちます。ボタンを押すと、本機の表示部に Muting の表示が現れ、スピーカーとヘッドホンの音声出力が小さくなります。もう一度押すと、元の音量に戻ります。
本機では、OSD で MUTING ボタンを押したときの音の大きさを設定することができます。(☞50 ページ「4-1. Volume Setup サブメニュー」の「d. Muting Level」)

OPEN/CLOSE ボタン: フロントパネルのドア部を開け閉めします。

INPUT SELECTOR(入力切り換え)ボタン: 入力ソースを選択します。

Re-EQ ボタン: リスニングモード設定によって、Re-EQ のオン / オフを切り換えたり、「Re-EQ」「Academy」「Off」を選択したりできます。

映画館用にミキシングされた音声をホームシアターのスピーカーで再生すると、高音域が強調される傾向があります。Re-EQ は、高音域をホームシアター音声用に補正します。

LATE NIGHT ボタン: レイトナイト機能を設定します。「High」または「Low」、「OFF」を選びます。

劇場用に作られた映画音声は、大きな音と小さな音の差（ダイナミックレンジ）が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞こうとすると、かなり音量をあげる必要があります。このパラメーターは、ダイナミックレンジを小さくし、全体の音量をあげずに小さな音も聞こえるように調整します。
この機能は、特に夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに役立ちます。

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトでのみ効果があります。
- レイトナイトの効果は、ドルビーデジタルソフトによって決まっていますので、ソフトによっては効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

CH SEL ボタン: スピーカー出力レベルを変更するスピーカーを選択します。

DIMMER ボタン: 表示部の明るさを調整します。

4 段階の調整ができます。

LEVEL + ボタン: スピーカー出力レベルを上げます。

LEVEL - ボタン:スピーカー出力レベルを下げます。

リスニングモードボタン

STEREO: リスニングモードをステレオモードに変更します。

現在選択しているソースのリスニングモードが「Stereo」に変更されます。OSD メニューの設定も自動的に変更されます。

SURROUND: リスニングモードをサラウンドモードに変更します。

現在選択しているソースのリスニングモードが、入力信号に合ったサラウンドモード(Dolby Pro Logic、Dolby Digital、DTS、MPEG など)に変更されます。OSD メニューの設定も自動的に変更されます。

DIRECT: リスニングモードをダイレクトモードに変更します。

現在選択しているソースのリスニングモードが「Direct」に変更されます。OSD メニューの設定も自動的に変更されます。

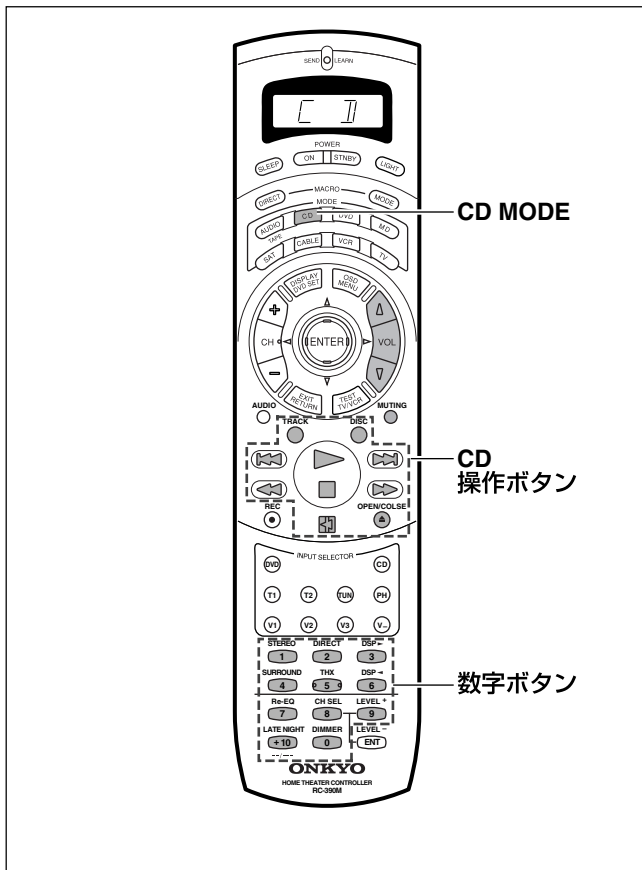
THX: リスニングモードを THX モードに変更します。

すでに THX モードが選択されている場合、THX Surround EX の設定が次のように変更されます。
「Auto」→「On」→「Off」→「Auto」...

Auto: Surround EX でエンコードされたソースの場合はリスニングモードが自動的に「THX Surround EX」に設定され、それ以外の場合は「THX Cinema」に設定されます。

On: Surround EX でエンコードされたソースや、THX Surround EX で再生可能なソース（たとえば DTS-ES）のときに、強制的にリスニングモードは「THX Surround EX」に設定されます。

Off: ソースが Surround EX でエンコードされたソースの場合でも、リスニングモードが「THX Cinema」に設定されます。

DSP◀/▶: 現在再生しているソースに選択可能なリスニングモードを次々呼び出すことができます。

オンキョー製 CD プレーヤーを操作する

あらかじめ CD プレーヤーを RI 接続しておいてください (☞ 19 ページ)。

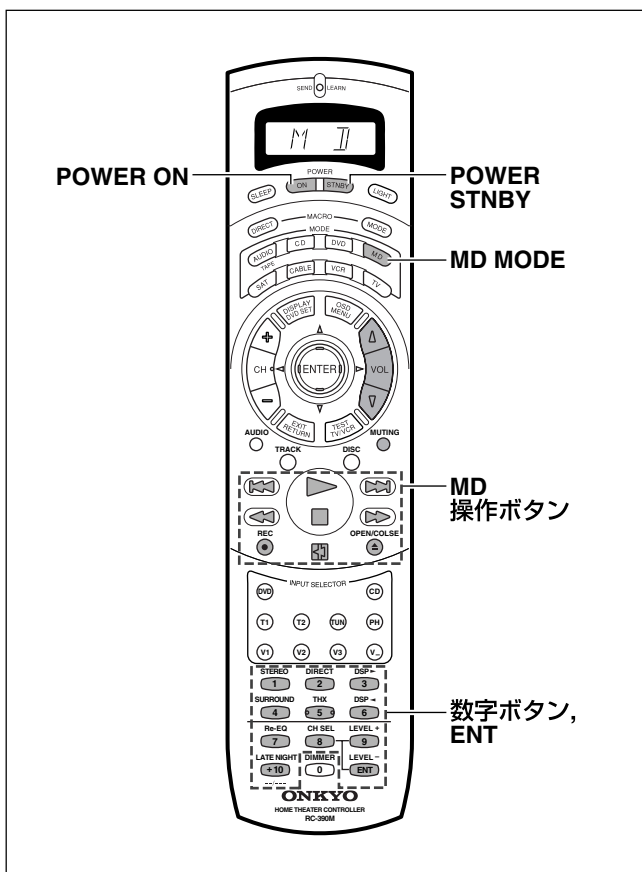
1. CD MODEボタンを押す

リモコンの表示窓に「CD」と表示されます。

2. 各操作ボタンを押す

左の図にグレーで示したボタンが CD プレーヤーの操作ボタンです。

TRACK : トラックを選択
DISC : CD チェンジャーのディスクを選択
⏮ : トラックダウン
⏭ : トラックアップ
▷ : 再生
□ : 停止
◁◁ : 早戻し
▷▷ : 早送り
⏸ : 一時停止
OPEN/CLOSE ⏏ : ディスクトレイの開閉
0、1 ～ 9、+10 : 数字ボタン

下記のボタンも使用できます:
VOL ∆/∇ : 本機の音量調節
MUTING : 本機のミューティング機能のオン / オフ

オンキョー製 MD レコーダーを操作する

リモコンを MD レコーダーのリモコン受光部に向けて操作してください。

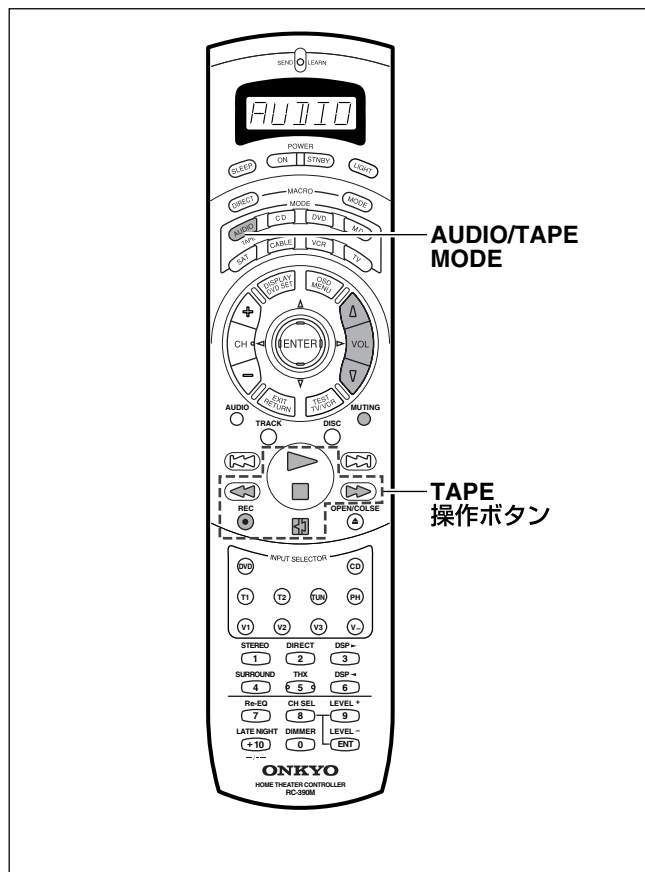
1. MD MODEボタンを押す

リモコンの表示窓に「MD」と表示されます。

2. 各操作ボタンを押す

左の図にグレーで示したボタンが MD プレーヤーの操作ボタンです。

POWER ON/STNBY: MD レコーダーの電源オン / オフ
⏮ : トラックダウン
⏭ : トラックアップ
▷ : 再生
□ : 停止
◁◁ : 早戻し
▷▷ : 早送り
REC ● : 録音
⏸ : 一時停止
⏏ : MD の取り出し
1 ～ 9、+10 : 数字ボタン
ENT : 設定の確定

下記のボタンも使用できます。
VOL ∆/∇ : 本機の音量調節
MUTING : 本機のミューティング機能のオン / オフ

オンキョー製カセットテープデッキを操作する

あらかじめカセットテープデッキをRI接続しておいてください(☞ 19ページ)。

1. AUDIO/TAPE MODEボタンを押す

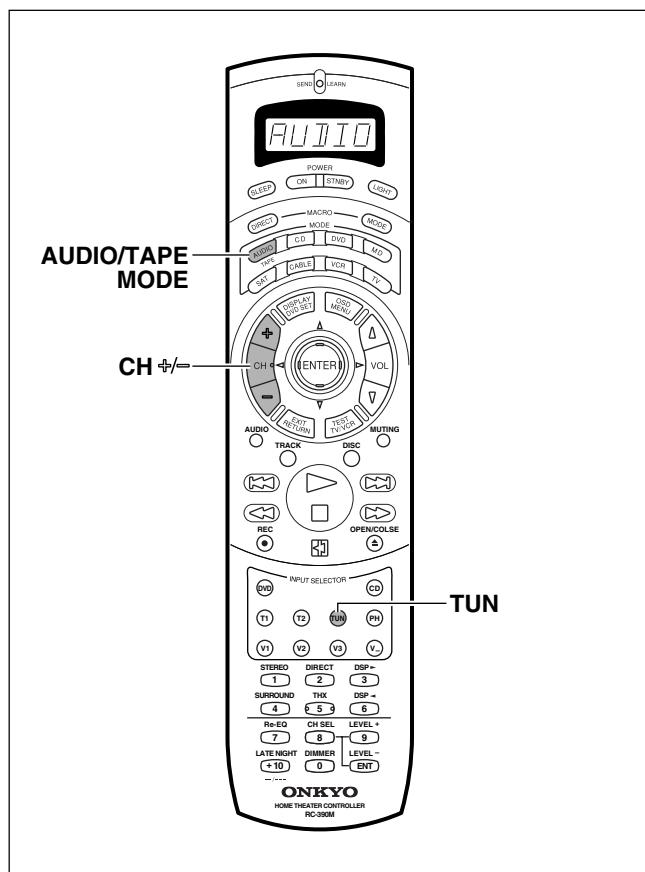
リモコンの表示窓に「AUDIO」と表示されます。

2. 各操作ボタンを押す

左の図にグレーで示したボタンがカセットテープデッキの操作ボタンです。

▷ ：再生
□ ：停止
◁◁ ：巻戻し
▷▷ ：早送り
REC ● ：録音
⮔ ：リバース再生

下記のボタンも使用できます。

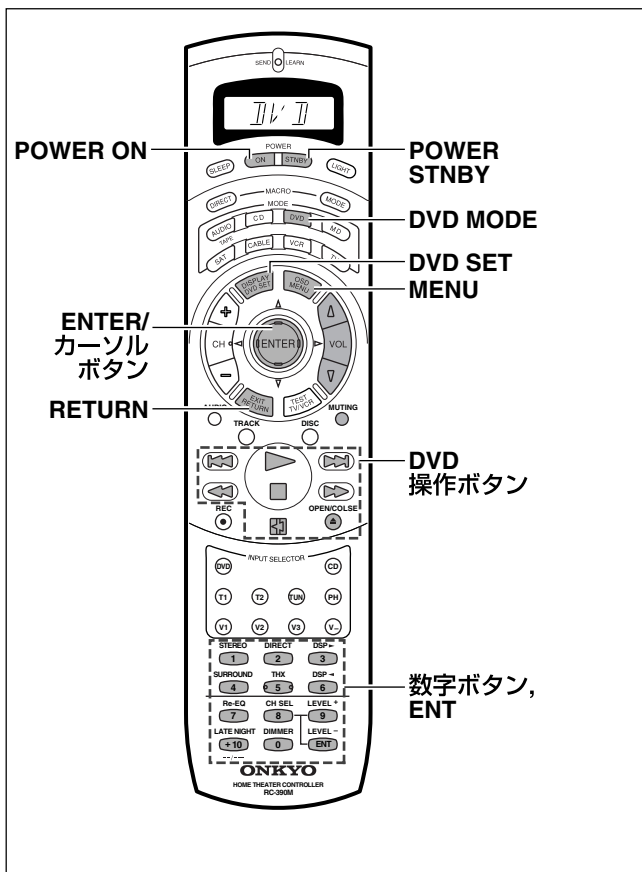
VOL ▵/▿ ：本機の音量調節
MUTING ：本機のミューティング機能のオン / オフ

プリセットした放送局を受信する

1. AUDIO/TAPE MODEボタンを押す

リモコンの表示窓に「AUDIO」と表示されます。

2. 入力切り換えボタンのTUNを押す

リモコンの表示窓に一瞬「(TUN)」と表示された後、「AUDIO」に戻ります。

3. CH +またはCH -ボタンを押してプリセットした放送局を受信する

オンキョー製 DVD プレーヤーを操作する

リモコンを DVD プレーヤーのリモコン受光部に向けて操作してください。

1. DVD MODEボタンを押す

リモコンの表示窓に「DVD」と表示されます。

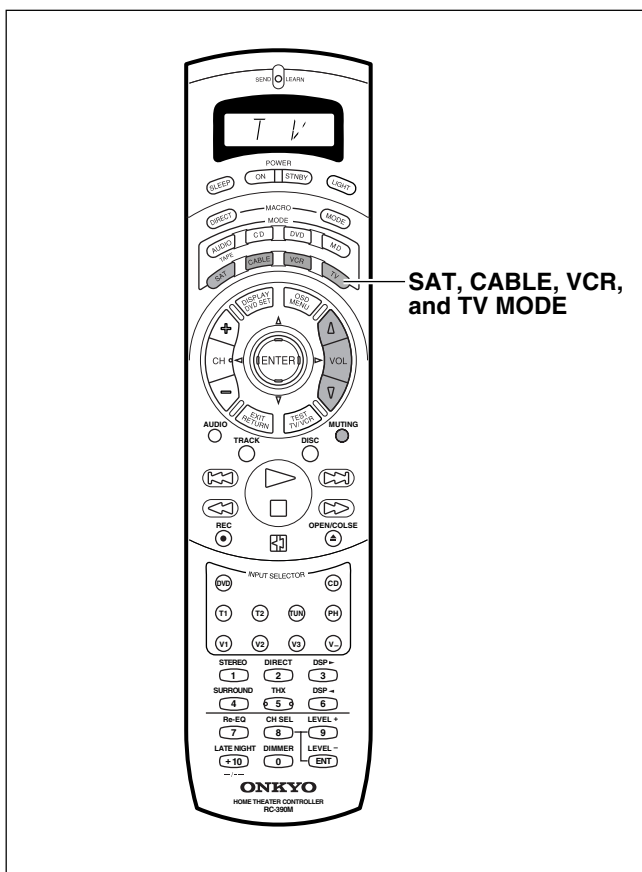
2. 各操作ボタンを押す

左の図にグレーで示したボタンが DVD プレーヤーの操作ボタンです。

POWER ON/STNBY: DVD プレーヤーの電源オン / オフ
DVD SET : DVD Setup メニューの表示
MENU : DVD プレーヤー OSD のメニューの表示
∆/∇/◅/▻ : DVD プレーヤー OSD のカーソルの移動
ENTER : DVD プレーヤー OSD の選択内容の確定
RETURN : DVD プレーヤー OSD のリターン
⏮ : トラックダウン
⏭ : トラックアップ
▻ : 再生
□ : 停止
⏪ : 早戻し
⏩ : 早送り
⏸ : 一時停止
OPEN/CLOSE ⏏ : ディスクトレイの開閉
0、1 〜 9、+10 : 数字ボタン
ENT : 確定

下記のボタンも使用できます。
VOL ∆/∇ : 本機の音量調節
MUTING : 本機のミューティング機能のオン / オフ

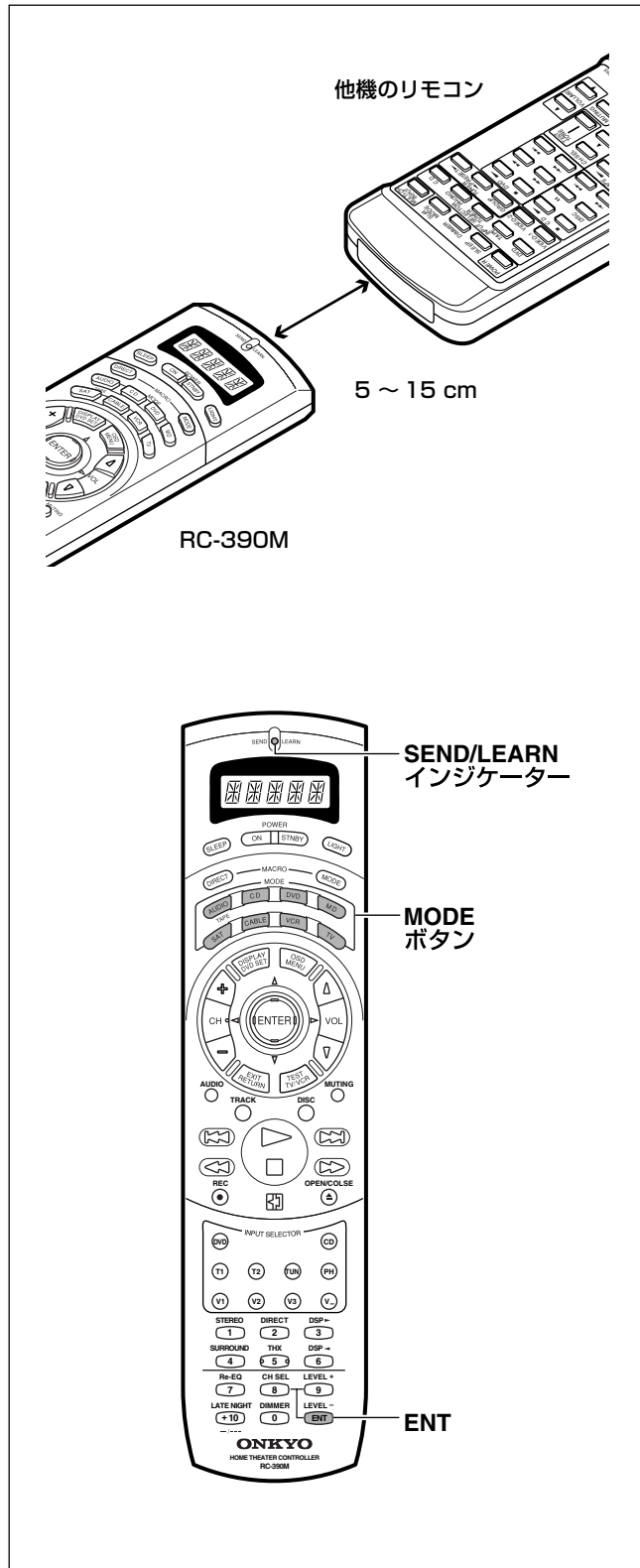
ご注意

数字ボタンの右下にある ENT ボタンの機能は、ENTER ボタン、ENTER/ カーソルボタンと同じです。

SAT ボタン、CABLE ボタン、VCR ボタン、TV MODE ボタン

これらのボタンにはコードがあらかじめ登録されていません。他機リモコンのコードを登録してお使いください (☞ 65 ページ)。

下記のボタンも使用できます。
VOL ∆/∇ : 本機の音量調節
MUTING : 本機のミューティング機能のオン / オフ

学習のさせ方

本機のリモコンには 2 種類の学習機能があります。1 つは通常の学習機能で、他機のリモコンコードを記憶させることができます。もう 1 つはマクロ学習機能です。マクロ学習機能を使うと、連続する操作を 1 つのボタンに記憶させ、1 つのボタン操作で実行できます。

他の機器のリモコンコードを記憶させるには

他機のリモコンコードを RC-390M リモコンに学習させる場合、まずどの MODE ボタンにコードを学習させるか選択します。転送元の機器に合った MODE ボタンを選択するのが一般的です。たとえば、CD プレーヤーのリモコンコードを学習させる場合は、CD MODE ボタンを押します。CD MODE ボタンを押すと、RC-390M リモコンのボタンに CD プレーヤーのリモコンコードを登録できるようになります。

使用する MODE ボタンが決まったら、RC-390M リモコンのボタンに他機のリモコンコードを 1 つずつ転送します。他機の各リモコンコードは、リモコンの異なるボタンに登録します。8 つの MODE ボタン(AUDIO、CD、DVD、MD、SAT、CABLE、VCR、TV)、2 つの MACRO ボタン(DIRECT と MODE)、と LIGHT ボタン以外は、どのボタンにも登録できます。

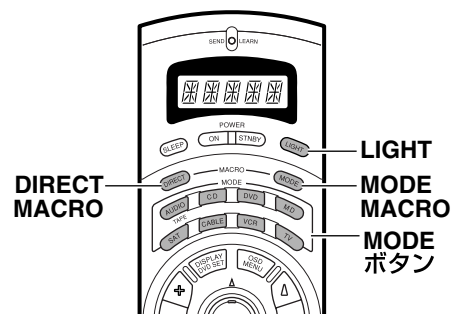
電池切れなど何らかの理由でリモコンコードが消えてしまった場合のために、他機のリモコンは大切に保管しておいてください。

1. 学習させたいリモコンとRC-390Mを5～15cm離して置く

2. RC-390Mの学習させたいMODEボタン（AUDIO、CD、DVD、MD、SAT、CABLE、VCR、TVのどれか1つ）を押しながら、ENTボタンを押し指を離す

MODE ボタンを押すと、SEND/LEARN インジケーターが点灯し、ENT ボタンを押すと消灯します。指を離すと SEND/LEARN インジケーターが再度点灯し、表示窓に「LEARN」と出ます。

3. RC-390Mの学習させたい操作ボタンを押して指を離す

下記に示した以外ならどのボタンにも記憶させることができます。ボタンを押すと、表示窓に「RCV」と出て、SEND/LEARN インジケーターが消灯し、指を離すと再度点灯します。
押すボタンを間違えたときは、その同じボタンをもう一度押してください。SEND/LEARNインジケーターが 2 回点滅し、表示窓には「CLEAR」と表示されて、学習モード から抜けます。

■：登録できないボタン

4. 学習させたい他機のリモコンのボタンをSEND/LEARNインジケーターが2回点滅するまで押し続ける

SEND/LEARN インジケーターがゆっくりと 2 回点滅した後、再度点灯します。表示窓は「SAVED」と表示したあと「LEARN」表示になります。

5. 同じMODE内の異なるボタンを続けて学習させる場合は、手順3に戻ります

異なる MODE ボタンに続けて学習させる場合は、手順 2 に戻ります

6. 学習を終了する場合は、手順2で押したのと同じMODEボタンを押す

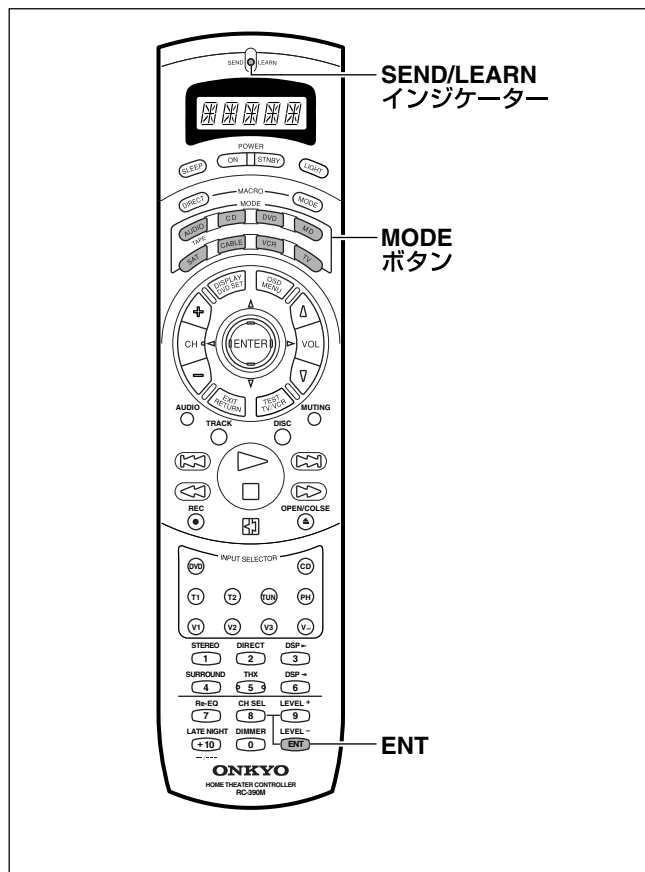
7. 正しく記憶されたかを確かめる

記憶させたボタンで動作することを確認してください。

ヒント

このリモコンにはあらかじめオンキョー製 CD プレーヤー、テープデッキ、DVD プレーヤー、MD レコーダーを操作するコードが記憶されています。しかし、これらのボタンに他の機器のコードを記憶させることもできます。記憶させると新たにそのコードが働きますが、このコードを消去すると再度あらかじめ記憶させてあったオンキョーのプリセットコードが働きます。

ご注意

- このリモコンには学習エリアとして 408 個（51 ボタン× 8 モード）のボタンを用意しています。ただし、学習させたいリモコンのメーカーや機器の種類により記憶できる個数に大きな幅があります。ボタンの優先順位を決めて学習させてください。
- 30 秒以上ボタン操作がない場合は、SEND/LEARN インジケーターが早く 3 回点滅し、表示窓には「ERROR」と表示した後、もとの状態に戻ります。その時は手順 2 から操作しなおしてください。
- 操作途中で間違った場合は、SEND/LEARN インジケーターが早く 3 回点滅し、表示窓に「NG」と表示されて、もとの状態に戻ります。その時は手順 2 から操作しなおしてください。
- 操作中に続けて 5 回操作を間違えると、表示窓に「ERROR」と表示されて、学習モードが終了します。この場合も、ステップ 2 に戻って操作してください。
- 学習容量をこえた場合は、SEND/LEARN インジケーターが早く 6 回点滅し、表示窓に「FULL」と表示されて、もとの状態に戻ります。その時は他のモードに学習させてください。
- あらかじめ学習されているボタンに異なるコードを上書する場合も、上記の操作で行なうことができます。
- 本リモコンは赤外線を利用しています。ほとんどのリモコン信号は、この赤外線方式で記憶が可能です。しかし、方式の違いによって、記憶することができない場合もあります。
- リモコンによっては、ボタンを押すたびに信号が変わるなどのように、1 個だけのボタンで各種のリモコン信号を送るものがあります。このようなタイプのリモコンをお使いの場合には、本機リモコンの各プログラマブルボタンに、リモコン信号を 1 種類ずつだけプログラムしてください。
- 他社機器の操作方法の詳細については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- 本機のリモコンおよび記憶させたいリモコンの電池は新しいものをお使いください。
  消耗したり寿命のなくなった電池をお使いになると記憶させることができなかったり、記憶させたボタンで機器が正常に動作しないことがあります。

記憶させたコードを消去する

消去できるのは、学習されたコードのみです。あらかじめプリセットされているコードを消すことはできません。
全てのボタンに記憶させたコードを消去する時は71ページをご覧ください。

1つのボタンに記憶させたコードを消去する

1. 消したいボタンのあるMODEボタンを押しながら、ENTボタンを押した後、指を離す

MODEボタンを押すと、SEND/LEARNインジケーターが点灯し選択したモードが表示窓に表れます。インジケーターは、ENTボタンを押すと消灯します。指を離すと、再度SEND/LEARNインジケーターが点灯し、表示窓に「LEARN」と表示されます。

2. 消したいボタンを押して指を離す

ボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが消灯し、表示窓に「RCV」と表示され、指を離すと再度インジケーターが点灯します。

3. 消したいボタンをもう一度押して指を離す

SEND/LEARNインジケーターがゆっくりと2回点滅し、表示窓に「CLEAR」と表示されます。これで消去が完了し、もとの状態に戻ります。

ご注意

- 30秒以上ボタン操作がない場合は、SEND/LEARNインジケーターが早く3回点滅し表示窓に「ERROR」と表示した後、もとの状態に戻ります。この時は手順1から操作しなおしてください。

あるMODEのすべてのボタンに記憶させたコードを消去する

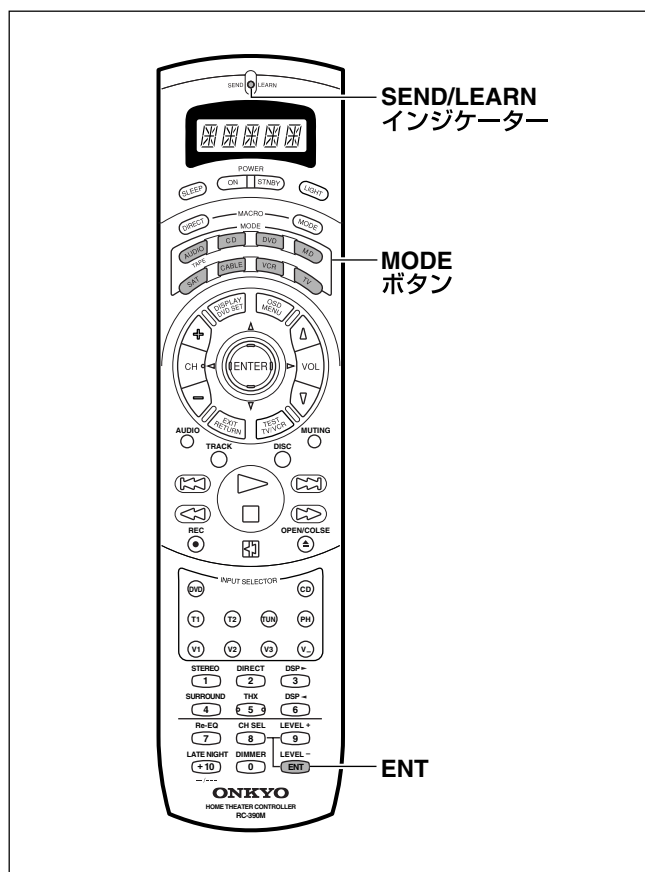
1. 消したいMODEボタンを押しながら、ENTボタンを2回押した後、指を離す

MODEボタンを押すと、SEND/LEARNインジケーターが点灯し、選択したモードが表示窓に表れます。インジケーターは、ENTボタンを押すと消灯します。指を離すとSEND/LEARNインジケーターがゆっくりと2回点滅した後、再度点灯します。

2. もう一度消したいMODEボタンを押した後、指を離す

指を離すとSEND/LEARNインジケーターがゆっくりと2回点滅します。これで消去が完了し、もとの状態に戻ります。

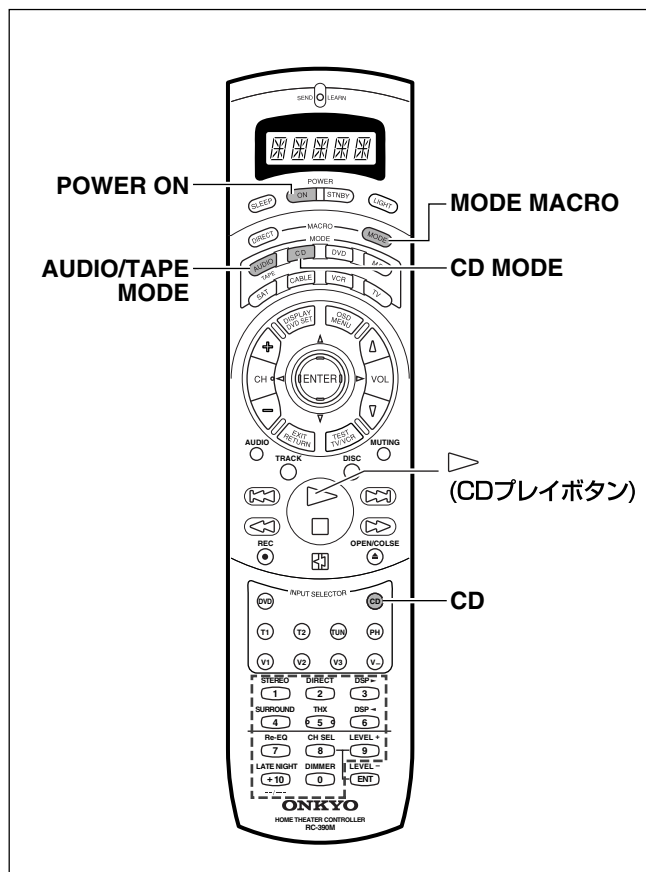
ご注意

- 30秒以上ボタン操作がない場合は、SEND/LEARNインジケーターが早く3回点滅した後、もとの状態に戻ります。この時は手順1から操作しなおしてください。
- 操作を間違った場合は、SEND/LEARNインジケーターが早く3回点滅し、表示窓に「ERROR」と表示した後、もとの状態に戻ります。その時は手順1から操作しなおしてください。
- MODEボタンへの登録ボタンの数が多い場合は手順2でSEND/LEARNインジケーターが点灯し続けることがありますが、故障ではありません。

マクロ機能を使う

マクロ機能とは

連続したリモコンの操作をひとつのボタンに記憶させることができる機能です。たとえば、リモコンを使って本機に接続したCDプレーヤーを演奏するには以下のようなボタン操作が必要となります。

1. AUDIO/TAPE MODE ボタンを押す
2. POWER ON ボタンを押す
3. INPUT SELECTOR の CD ボタンを押す
4. CD MODE ボタンを押す
5. プレイボタンを押す

これらの操作を下記の手順でマクロボタンに記憶させれば、CD MODE ボタンを押してから MODE MACRO ボタンを押して操作することができます。

ヒント

- マクロ送信中は時間がかかりますので、SEND/LEARN インジケーターが点灯中は本リモコンを常に操作する機器に向けておいてください。
- マクロに記憶させたあとで、その中の操作ボタンを消去したり、別の信号を記憶させた場合は、その操作ボタンははたらかなくなります。このような場合は誤動作を防ぐため、再度マクロ学習をさせ直してください。
- マクロ信号は、0.5 秒間隔で次々に送信されます。そのため操作する機器によってはひとつの動作が 0.5 秒で完了せず、次の信号が読み取れない場合があります。このような時は、マクロを記憶させるときに連続したボタン操作の間でその MODE ボタンを押すと、約 1 秒の間隔をさらにあけることができます。

マクロモードを学習させるには

8 つの MODE ボタンにそれぞれ 1 つのマクロ機能を記憶させることができます。たとえば上記 1 ～ 5 の操作を CD MODE の MODE MACRO ボタンに記憶させるには

1. **学習させたいMODEボタン（この場合はCD MODEボタン）を押しながら、MODE MACRO ボタンを押した後、指を離す**

   CD MODE ボタンを押すと、SEND/LEARN インジケーターが点灯し、表示窓には「CD」と表示されます。MODE MACRO ボタンを押すと、消灯します。指を離すと、SEND/LEARN インジケーターが点滅した後、再度点灯し、表示窓に「M 01」と表示されます。

2. **学習させたい操作ボタンを連続して押す**

   AUDIO/TAPE MODE ボタン→ POWER ON ボタン→ CD（INPUT SELECTOR の）ボタン→ CD MODE ボタン→プレイボタンを押すごとに SEND/LEARN インジケーターが消え、表示が「M 01」→「M 02」→「M 03」... と変わります。ボタンから指を離すとインジケーターが点灯します。

3. **MODE MACROボタンを押して終了する**

   SEND/LEARN インジケーターがゆっくりと 2 回点滅し、表示窓に「SAVED」と表示され、通常状態に戻ります。（操作終了）
   他の MODE ボタンに学習させるときは、1 ～ 3 の手順をくり返してください。

4. **正しく記憶されたかを確かめる**

ご注意

- それぞれの MACRO ボタンには連続して 16 個のボタン操作まで記憶できます。17 個目を記憶させようとしても、表示窓に「SAVED」と表示されて、16 個目まで自動的に終了します。
- 30 秒以上ボタン操作がない場合は、SEND/LEARN インジケーターが早く 3 回点滅した後、表示窓に「ERROR」と表示されて、もとの状態に戻ります。その時は最初から操作しなおしてください。
- 操作途中で間違った場合は、SEND/LEARN インジケーターが早く 3 回点滅し、表示窓に「ERROR」と表示した後、もとの状態に戻ります。その時は最初から操作しなおしてください。

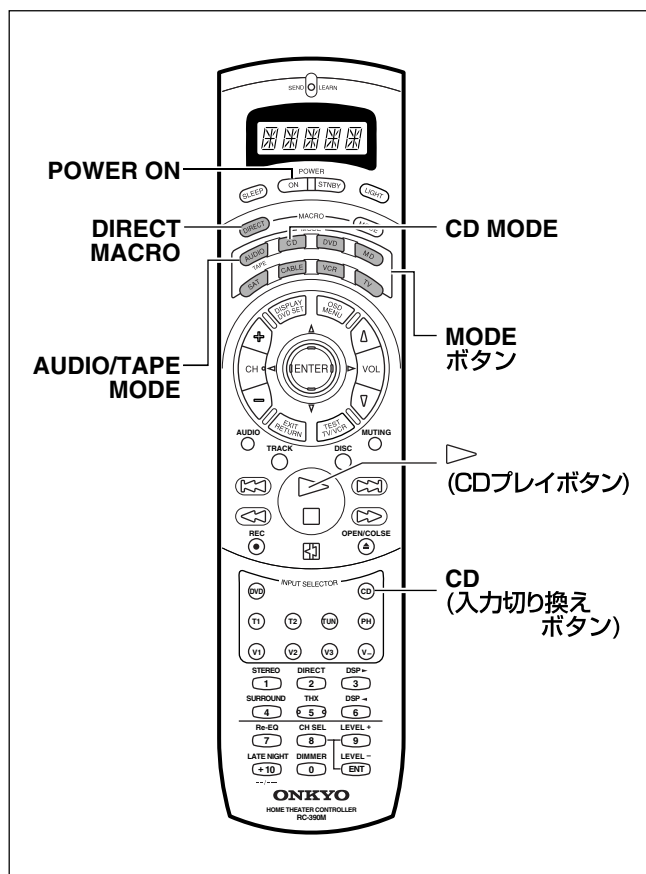
学習させたマクロを実行する

リモコンに学習させたマクロを実行するときは、下記の手順で行います。新しいマクロを学習させた後は必ず 1 回以上実行し、正しく動作することを確認してください。

1. **リモコンを本機のリモコン受光部に向けて、CD MODEボタンを押す**

2. **MODE MACROボタンをして、機器が正しく動作することを確認する**

   マクロを転送し終えるまで時間がかかる場合があります。必ず、SEND/LEARN インジケーターが消灯するまで、リモコンをリモコン受光部に向けておいてください。

ヒント

- マクロ送信中は時間がかかりますので、SEND/LEARN インジケーターが点灯中は本リモコンを常に操作する機器に向けておいてください。
- マクロに記憶させたあとで、その中の操作ボタンを消去したり、別の信号を記憶させた場合は、その操作ボタンははたらかなくなります。このような場合は誤動作を防ぐため、再度マクロ学習をさせ直してください。
- マクロ信号は、0.5 秒間隔で次々に送信されます。そのため操作する機器によってはひとつの動作が 0.5 秒で完了せず、次の信号が読み取れない場合があります。このような時は、マクロを記憶させるときに連続したボタン操作の間でその MODE ボタンを押すと、約 1 秒の間隔をさらにあけることができます。

ダイレクトマクロ学習について

連続したリモコン操作をこの DIRECT MACRO ボタンに記憶させることにより、ワンタッチで操作することができます。

ご注意

DIRECT MACRO ボタンに記憶できるのは 1 種類のみです。

1. MODEボタン（8つのうちのどのボタンでもかまいません）を押しながら、DIRECT MACROボタンを押した後、指を離す

MODE ボタンを押すと、SEND/LEARN インジケーターが点灯し、表示窓には選択したモードが表示されます。DIRECT MACRO ボタンを押すとインジケーターが消灯します。指を離すと、SEND/LEARN インジケーターが点滅した後再度点灯し、表示窓に「M01」と表示されます。

2. 学習させたい操作ボタンを連続して押す

AUDIO/TAPE MODE ボタン→ POWER ON ボタン→ CD（INPUT SELECTOR の）ボタン→ CD MODE ボタン→プレイボタンを押すごとに SEND/LEARN インジケーターが消え、表示が「M 01」→「M 02」→「M 03」... と変わります。ボタンから指を離すとインジケーターが点灯します。

3. DIRECT MACROボタンを押して終了する

SEND/LEARN インジケーターがゆっくりと 2 回点滅し、表示窓に「SAVED」と表示してもとの状態に戻ります。

4. 正しく記憶されたかを確かめる

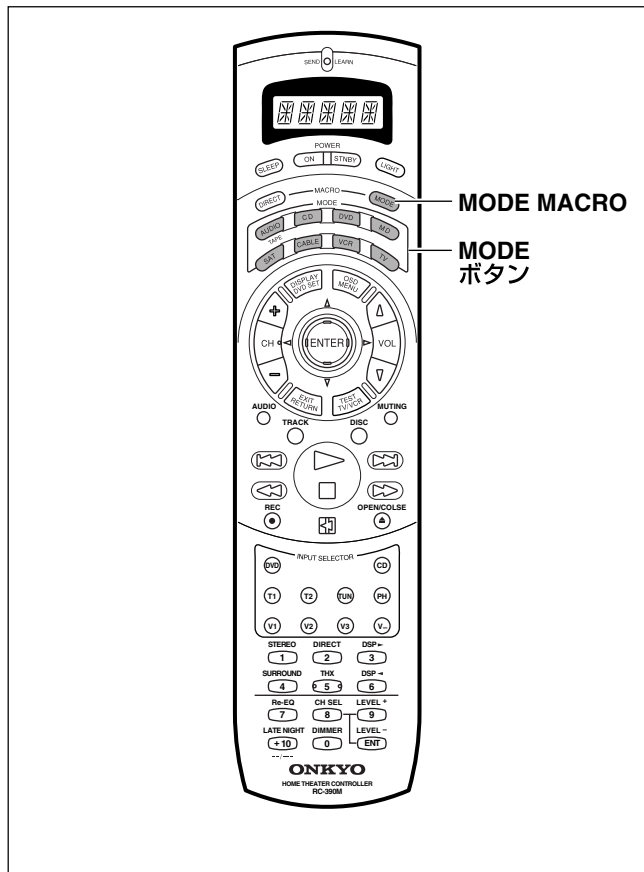
ご注意

- この DIRECT MACRO ボタンには連続して 16 個のボタン操作まで記憶できます。17 個目を記憶させようとしても、表示窓に「SAVED」と表示されて、16 個目までで自動的に終了します。
- 30 秒以上ボタン操作がない場合は、SEND/LEARN インジケーターが早く 3 回点滅し表示窓に「ERROR」と表示した後、もとの状態に戻ります。その時は最初から操作しなおしてください。
- 操作途中で間違った場合は、SEND/LEARN インジケーターが早く 3 回点滅し表示窓に「ERROR」と表示した後、もとの状態に戻ります。その時は最初から操作しなおしてください。

学習させたダイレクトマクロを実行する

リモコンに学習させたダイレクトマクロを実行するときは、下記の手順で行います。新しいダイレクトマクロを学習させた後は必ず 1 回以上実行し、正しく動作することを確認してください。

1. リモコンを本機のリモコン受光部に向けて、DIRECT MACROボタンを押す

マクロを転送し終えるまで時間がかかる場合があります。必ず、SEND/LEARN インジケーターが消灯するまで、リモコンをリモコン受光部に向けておいてください。

MODE MACRO ボタンに記憶させたコードを消去する

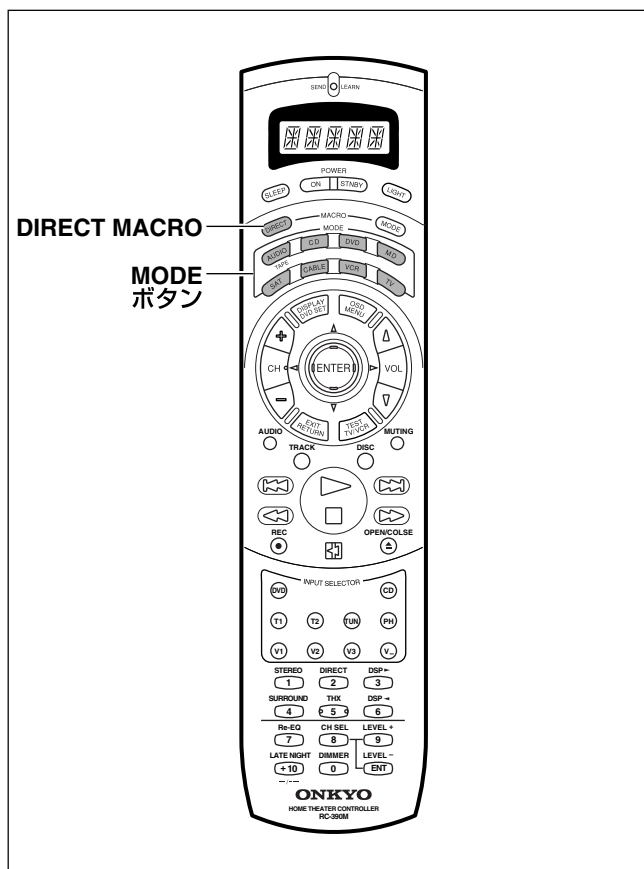
1. 消去させたいMACRO モードのMODE ボタンを押しながら、MODE MACROボタンを押した後、両方のボタンから指を離す

MODE ボタンを押すと、SEND/LEARN インジケーターが点灯し、選択したモードが表示されます。MODE MACRO ボタンを押すと、インジケーターが消灯します。指を離すとSEND/LEARN インジケーターが1 回点滅したあと、表示窓に「M 01」と表示されます。

2. もう一度MODE MACROボタンを押す

SEND/LEARN インジケーターがゆっくりと2 回点滅し、表示窓に「CLEAR」と表示されます。これでMACRO モードに学習させたコードは消去されました。

ご注意

- 30 秒以上ボタン操作がない場合は、SEND/LEARN インジケーターが早く3 回点滅し、表示窓に「ERROR」と表示されて、もとの状態に戻ります。この時は手順1から操作しなおしてください。
- 手順2 の操作で間違ったボタンを押すと、MACRO の上書き操作になることがありますのでご注意ください。

DIRECT MACRO ボタンに記憶させたコードを消去する

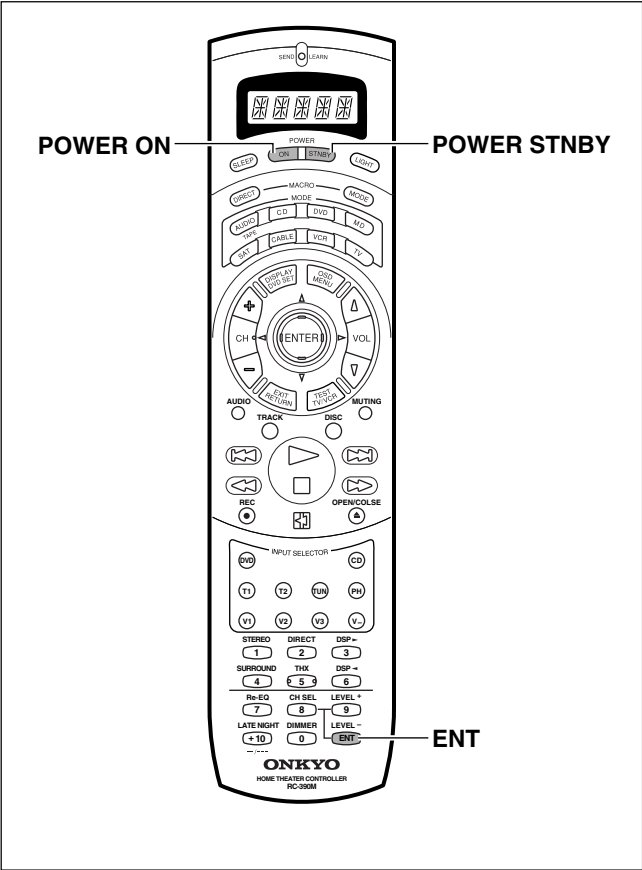
1. MODE ボタン（8つのうちどれでもかまいません）を押しながら、DIRECT MACROボタンを押した後、両方のボタンから指を離す

MODE ボタンを押すと、SEND/LEARN インジケーターが点灯し、表示窓に選択したモードが表示されます。DIRECT MACRO ボタンを押すと、インジケーターが消灯します。指を離すとSEND/LEARN インジケーターが1 回点滅したあと再び点灯し、表示窓に「M 01」と表示されます。

2. もう一度DIRECT MACROボタンを押す

SEND/LEARN インジケーターがゆっくりと2 回点滅し、表示窓に「CLEAR」と表示されます。これでDIRECT MACRO ボタンに学習されていたコードは消去されました。

ご注意

- 30 秒以上ボタン操作がない場合は、SEND/LEARN インジケーターが早く3 回点滅し、表示窓に「ERROR」と表示されて、もとの状態に戻ります。この時は手順1から操作しなおしてください。
- 手順2 の操作で間違ったボタンを押すと、MACRO の上書き操作になることがありますのでご注意ください。

すべてのボタンに記憶させたコードを消去する

この操作を行うと、RC-390M に学習させた他機のリモコンコード（65 ページ）およびマクロ学習させたコード（68、69 ページ）の全てが消去されます。

1. 電池カバーを開け、電池を外す

2. POWER ONボタンとPOWER STNBYボタンを同時に押しながら、電池を正しく入れる

電池を入れた後、ボタンから指を離してください。指を離すと SEND/LEARN インジケーターがゆっくりと点滅し、表示窓に「CLEAR」と表示されます。

3. ENTボタンを押す

約 10 秒間 SEND/LEARN インジケーターが点灯した後、消灯します。表示窓に「AUDIO」と表示されます。

これで RC-390M に学習させたすべてのコードが消去され、工場出荷状態に戻ります。

ご注意

- 手順 2 の状態でそのままにしておきますと、電池が消耗してしまいますので、早く次の操作をしてください。
- 手順 3 で ENT ボタン以外のボタンを押すと、もとの状態に戻ります。その時は手順 1 から操作しなおしてください。

マクロモード設定メモ

操作 ボタン→	MODE MACRO ↓ AUDIO	MODE MACRO ↓ CD	MODE MACRO ↓ DVD	MODE MACRO ↓ MD	MODE MACRO ↓ SAT	MODE MACRO ↓ CABLE	MODE MACRO ↓ VCR	MODE MACRO ↓ TV	DIRECT MACRO
操作 1									
操作 2									
操作 3									
操作 4									
操作 5									
操作 6									
操作 7									
操作 8									
操作 9									
操作 10									
操作 11									
操作 12									
操作 13									
操作 14									
操作 15									
操作 16									

初期設定

ここでは、工場出荷時に設定されたデフォルトのパラメーターの値を記しています。これらのパラメーターの値は、ほとんどの場合そのままでお使いいただけますが、変更したあとに初期設定を知りたいときなどにこの表を参考にしてください。

パラメーターの値を工場出荷時の設定に戻す場合は、VIDEO 1 ボタンを押しながら STANDBY/ON ボタンを押してください。表示部に「Clear」と表示され、本機はスタンバイ状態に戻ります。

1. Speaker Setup

1-1. Speaker Config

a. Subwoofer: Yes
b. Front: Small
c. Center: Small
d. Surround L/R: Small
e. Surround Back: Small

1-2. Speaker Distance

a. Unit: meters
b. Front L/R: 3.6m/12ft
c. Center: 3.6m/12ft
d. Surr Right: 2.1m/7ft
e. Surr Bk R: 2.1m/7ft
f. Surr Bk L: 2.1m/7ft
g. Surr Left: 2.1m/7ft
h. Subwoofer: 3.6m/12ft

1-3. Level Calibration

a. Left: 0.0dB
b. Center: 0.0dB
c. right: 0.0dB
d. Surr Right: 0.0dB
e. Surr Bk R: 0.0dB
f. Surr Bk L: 0.0dB
g. Surr Left: 0.0dB
h. Subwoofer: 0.0dB

1-4. Bass Peak Level

a. Bass Peak Level Limiter: Off
b. Peak Level: +18dB

1-5. LFE Level Setup

a. Dolby Digital: 0dB
b. DTS Cinema: 0dB
c. DTS Music: 0dB
d. MPEG Cinema: 0dB
e. MPEG Music: 0dB

2. Input Setup

2-1. Digital Setup

a. Digital Input: CD: COAX1
TAPE1: OPT1
TAPE2: OPT2
DVD: OPT3
VIDEO1: ----
VIDEO2: COAX2
VIDEO3: COAX3
VIDEO4: COAX4
VIDEO5: COAX5
b. Digital Format: Auto

2-2. Multichannel Setup

a. Multichannel: CD: No
TAPE1: No
TAPE2: No
DVD: No
VIDEO1: No
VIDEO2: No
VIDEO3: No
VIDEO4: No
VIDEO5: No

2-3. Video Setup

a. Video: CD: Last valid
PHONO: Last valid
FM: Last valid
AM: Last valid
TAPE1: Last valid
TAPE2: Last valid
DVD: DVD
VIDEO1: VIDEO1
VIDEO2: VIDEO2
VIDEO3: VIDEO3
VIDEO4: VIDEO4
VIDEO5: VIDEO5
b. Component Video: DVD: Component Video1
VIDEO1: ----
VIDEO2: Component Video2
VIDEO3: Component Video3
VIDEO4: ----
VIDEO5: ----

2-4. Listening Mode Setup

a. Analog/PCM: Stereo
b. PCM fs>48k: Stereo
c. PCM fs=192k: Stereo
d. Dolby D: Dolby D
e. DTS: DTS
f. MPEG: MPEG Multi
g. D.F.2ch: Pro Logic
h. D.F.Mono: Mono

2-5. Delay

a. A/V Sync: 0.0ms
b. Relative Delay Center: 0.0ms
c. Relative Delay Surr L/R: 0.0ms
d. Relative Delay Surr Back: 0.0ms

2-6. Sound Effect

a. Bass: 0
b. Treble: 0

2-7. Character Input

a. Character Display: No
b. Character: None

2-8. Miscellaneous Setup

a. IntelliVolume: 0dB

4. Preference

4-1. Volume Setup

a. Volume Display: Absolute
b. Muting Level: −∞ dB
c. Maximum Volume: Off
d. Power On Volume: Last valid

4-2. OSD Setup

a. Background Color: Blue1
b. Superimpose Mode: Normal
c. Immediate Display: On
d. Display Position: Bottom
e. Timeout: 3sec

4-3. OSD Tweak

a. ← / → / ↑ / ↓: 0.0

5. Zone2 OSD Setup

5-1. OSD Setup

a. Background Color: Blue1
b. Superimpose Mode: Normal
c. Immediate Display: Off
d. Display Position: Bottom
e. Timeout: 3sec

6. About

6-1. Lock Setup

a. Lock: Unlocked

6-2.Version

b. Master ID: ____________________

仕様

■ アンプ（音声）部

定格出力

全てのチャンネル（2 チャンネル駆動時）

8 Ω　130W （20Hz～20,000Hz）
全高調波歪率：0.08%以下

6Ω　170W（1,000Hz）
全高調波歪率：0.1%以下

ダイナミックパワー(2チャンネル駆動時)

4Ω　230W

混変調ひずみ率： 定格出力時で0.05%
1W出力時で0.05%

ダンピングファクター：8Ω負荷時で60

入力感度/インピーダンス

PHONO : 2.5mV/50kΩ
LINE入力 : 200mV/50kΩ
MULTI CHANNEL INPUT
FRONT LEFT/CENTER/RIGHT、SURROUND LEFT/RIGHT、SURROUND BACK LEFT/RIGHT : 200mV/50kΩ
SUBWOOFER : 36mV/50kΩ
AMP IN : 1V/50kΩ
COAXIAL 1-5(DIGITAL) : 0.5Vp-p/75Ω
DVD、VIDEO 1、2、3、4、5
VIDEO（コンポジット信号） : 1Vp-p/75Ω
S-VIDEO（Y信号） : 1Vp-p/75Ω
S-VIDEO（C信号） : 0.28Vp-p/75Ω
COMPONENT VIDEO : 1Vp-p/75Ω(Y)
: 0.7Vp-p/75Ω(CR,CB)

定格出力／インピーダンス

REC OUT : 200mV/2.2kΩ
PRE OUT : 1V/470Ω
ZONE OUT : 100mV/470Ω
VIDEO、MONITOR、ZONE2
VIDEO（コンポジット信号） : 1Vp-p/75Ω
S-VIDEO（Y信号） : 1Vp-p/75Ω
S-VIDEO（C信号） : 0.28Vp-p/75Ω
COMPONENT VIDEO : 1Vp-p/75Ω(Y)
: 0.7Vp-p/75Ω(CR,CB)

PHONO最大許容入力

110 mV RMS (1,000Hz、0.5% THD時)

周波数特性

20～30kHz、±1dB (CD入力、ダイレクトモード)
5～100kHz、+1dB、−3dB (CD入力、ダイレクトモード)

RIAAデビエーション：20～20,000Hz、±0.8dB

トーンコントロール

BASS：±10dB (100Hz時)
TREBLE：±10dB (10,000Hz時)

SN比 (サラウンドOFF時)

PHONO：80dB (IHF A、5mV入力時)
CD/TAPE：100dB (IHF A、0.5V入力時)

■ チューナー部

●FM

受信範囲：76.0～90.0MHz (100kHzステップ)
実用感度
モノラル：11.2dBf、1.0μV (75Ω)
ステレオ：17.2dBf、2.0μV (75Ω)
キャプチャレシオ：2.0dB
イメージ妨害比：40dB
IF妨害比：90dB
SN比
モノラル：76dB
ステレオ：70dB
2信号選択度：55dB
AM抑圧比：50dB
ひずみ率
モノラル：0.2%
ステレオ：0.3%
周波数特性：30～15,000Hz、±1.0dB
ステレオセパレーション：45dB (1kHz)
30dB (100～10,000Hz)
ミューティングレベル：17.2dBf
アンテナインピーダンス：75Ω

●AM

受信範囲：522～1,629kHz
実用感度：30μV
イメージ妨害比：40dB
IF妨害比：40dB
SN比：40dB
ひずみ率(400Hz)：0.7%

■ 一般仕様

使用電源：AC100V、50/60Hz
消費電力：670W (電気用品取締法規格)
外形寸法：435(幅)×196(高さ)×451(奥行)mm
質量：22.0kg

■ リモコンRC-390M

方式：赤外線
信号到達距離：約5m
使用電池：単3型(1.5V)乾電池 2個

※ 仕様および外観は予告なく変更することがあります。

システム設定メモ

このページは、あなたが本機に接続している機器に関する設定をメモしておく所です。もしも、システムインストーラーなどによって接続や設定をしてもらう場合は、このページに記入を依頼するといいでしょう。

例えば、DVD の入力にオンキヨー製 DV-S525 を接続している場合は、Name: 欄に「ONKYO DV-S525」などと記入し、あとは接続や設定に該当する項目を○で囲んだり、空欄にメモ しておくと便利です。

Inputs

DVD

機器名: ______________________________

Digital 入力の接続: OPT1, OPT2, OPT3, COAX1, COAX2, COAX3, COAX4, COAX5, 接続していない

Multichannel Setup: Yes, No

Video 入力の接続

Video: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, 接続していない

Component Video: INPUT1, INPUT2, INPUT3, 接続していない

Video 出力の接続: VIDEO1, VIDEO2, COMPONENT, 接続していない

Video Setup: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, ----

Intelli Volume: ________dB

Character Input: Yes (名称: ______________) , No

Listening Mode Preset

1.入力ソースの信号: ______________________

リスニングモード: ______________________

2.入力ソースの信号: ______________________

リスニングモード: ______________________

3.入力ソースの信号: ______________________

リスニングモード: ______________________

VIDEO 1

機器名: ______________________________

Digital 入力の接続: OPT1, OPT2, OPT3, COAX1, COAX2, COAX3, COAX4, COAX5, 接続していない

Multichannel Setup: Yes, No

Video 入力の接続

Video: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, 接続していない

Component Video: INPUT1, INPUT2, INPUT3, 接続していない

Video 出力の接続: VIDEO1, VIDEO2, COMPONENT, 接続していない

Video Setup: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, ----

Intelli Volume: ________dB

Character Input: Yes (名称:______________) , No

Listening Mode Preset

1.入力ソースの信号: ______________________

リスニングモード: ______________________

2.入力ソースの信号: ______________________

リスニングモード: ______________________

3.入力ソースの信号: ______________________

リスニングモード: ______________________

VIDEO 2

機器名: ______________________________

Digital 入力の接続: OPT1, OPT2, OPT3, COAX1, COAX2, COAX3, COAX4, COAX5, 接続していない

Multichannel Setup: Yes, No

Video 入力の接続

Video: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, 接続していない

Component Video: INPUT1, INPUT2, INPUT3, 接続していない

Video 出力の接続: VIDEO1, VIDEO2, COMPONENT, 接続していない

Video Setup: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, ----

Intelli Volume: ________dB

Character Input: Yes (名称: ______________) , No

Listening Mode Preset

1.入力ソースの信号: ______________________

リスニングモード: ______________________

2.入力ソースの信号: ______________________

リスニングモード: ______________________

3.入力ソースの信号: ______________________

リスニングモード: ______________________

VIDEO 3

機器名: ______________________________

Digital 入力の接続: OPT1, OPT2, OPT3, COAX1, COAX2, COAX3, COAX4, COAX5, 接続していない

Multichannel Setup: Yes, No

Video 入力の接続

Video: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, 接続していない

Component Video: INPUT1, INPUT2, INPUT3, 接続していない

Video 出力の接続: VIDEO1, VIDEO2, COMPONENT, 接続していない

Video Setup: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, ----

Intelli Volume: ________dB

Character Input: Yes (名称: ______________) , No

Listening Mode Preset

1.入力ソースの信号: ______________________

リスニングモード: ______________________

2.入力ソースの信号: ______________________

リスニングモード: ______________________

3.入力ソースの信号: ______________________

リスニングモード: ______________________

VIDEO 4

機器名: ________________

Digital 入力の接続: OPT1, OPT2, OPT3, COAX1, COAX2, COAX3, COAX4, COAX5, AC-3RF, 接続していない

Multichannel Setup: Yes, No

Video 入力の接続

Video: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, 接続していない

Component Video: INPUT1, INPUT2, INPUT3, 接続していない

Video 出力の接続: VIDEO1, VIDEO2, COMPONENT, 接続していない

Video Setup: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, ----

Intelli Volume: ________dB

Character Input: Yes (名称: ______________) , No

Listening Mode Preset

1.入力ソースの信号: ________________

リスニングモード: ________________

2.入力ソースの信号: ________________

リスニングモード: ________________

3.入力ソースの信号: ________________

リスニングモード: ________________

VIDEO 5

機器名: ________________

Digital 入力の接続: OPT1, OPT2, OPT3, COAX1, COAX2, COAX3, COAX4, COAX5, 接続していない

Multichannel Setup: Yes, No

Video 入力の接続

Video: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, 接続していない

Component Video: INPUT1, INPUT2, INPUT3, 接続していない

Video 出力の接続: VIDEO1, VIDEO2, COMPONENT, 接続していない

Video Setup: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, ----

Intelli Volume: ________dB

Character Input: Yes (名称: ______________) , No

Listening Mode Preset

1.入力ソースの信号: ________________

リスニングモード: ________________

2.入力ソースの信号: ________________

リスニングモード: ________________

3.入力ソースの信号: ________________

リスニングモード: ________________

TAPE 1

機器名: ________________

Digital 入力の接続: OPT1, OPT2, OPT3, COAX1, COAX2, COAX3, COAX4, COAX5, 接続していない

Multichannel Setup: Yes, No

Video Setup: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, ----

Intelli Volume: ________dB

Character Input: Yes (名称: ______________) , No

Listening Mode Preset

1.入力ソースの信号: ________________

リスニングモード: ________________

2.入力ソースの信号: ________________

リスニングモード: ________________

TAPE 2

機器名: ________________

Digital 入力の接続: OPT1, OPT2, OPT3, COAX1, COAX2, COAX3, COAX4, COAX5, 接続していない

Multichannel Setup: Yes, No

Video Setup: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, ----

Intelli Volume: ________dB

Character Input: Yes (名称: ______________) , No

Listening Mode Preset

1.入力ソースの信号: ________________

リスニングモード: ________________

2.入力ソースの信号: ________________

リスニングモード: ________________

AM

Video Setup: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, ----

Intelli Volume: _____dB

Character Input: Yes (名称: ______________) , No

Listening Mode Preset

a. Analog/PCM: ________________

FM

Video Setup: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, ----

Intelli Volume: ________dB

Character Input: Yes (名称: ______________) , No

Listening Mode Preset

a. Analog/PCM: ________________

PHONO

機器名: ________________

Video Setup: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, ----

Intelli Volume: ________dB

Character Input: Yes (名称: ______________) , No

Listening Mode Preset

a. Analog/PCM: ________________

システム設定メモ

CD

機器名: ______________________________

Digital 入力の接続: OPT1, OPT2, OPT3, COAX1, COAX2, COAX3, COAX4, COAX5, 接続していない

Multichannel Setup: Yes, No

Video Setup: DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4, VIDEO5, ----

Intelli Volume: ________dB

Character Input: Yes (名称: ______________) , No

Listening Mode Preset

1.入力ソースの信号: ____________________

リスニングモード: ____________________

2.入力ソースの信号: ____________________

リスニングモード: ____________________

Speakers

Speaker configuration

Subwoofer **Yes, No**

機器名: ______________________________

Distance: _____m/ft

Level: ________dB

Front **Yes, No**

機器名: ______________________________

Distance: L:______m/ft R:______m/ft

Level: L:______dB R:______dB

Center **None, Large, Small**

機器名: ______________________________

Distance : ________m/ft

Level: ________dB

Surround **None, Large, Small**

機器名: ______________________________

Distance : L:______m/ft R:______m/ft

Level: L:______dB R:______dB

Surround Back **None, Large, Small**

機器名: ______________________________

Distance : L:______m/ft R:______m/ft

Level: L:______dB R:______dB

Bass Peak Level

Bass peak level Limitter: On, Off

Peak Level: ________dB

LFE Level Setup

Dolby Digital: ________dB

DTS Cinema: ________dB

DTS Music: ________dB

MPEG Cinema: ________dB

MPEG Music: ________dB

Volume Setup

Volume Display: Absolute, Relative

Muting Level: Abusolute _____dB, Relative____

Maximum Volume: Abusolute _____dB, Relative____

Power On Volume: Abusolute _____dB, Relative____

OSD Setup

Background Color: Blue1, Blue2, Green1, Green2, Magenta, Red1, Red2

Superimpose: Off, Normal, Black

Immediate Display: On, Off

Display Position: Bottom,________, Top

Timeout: ________sec

TV Format: Auto, NTSC, PAL

ZONE2

スピーカー: ______________________________

モニター: ______________________________

パワーアンプ: ______________________________

Zone2 OSD Setup

Background Color: Blue1, Blue2, Green1, Green2, Magenta, Red1, Red2

Superimpose: Off, Normal, Black

Immediate Display: On, Off

Display Position: Bottom,_____, Top

Timeout: ________sec

TV Format: Auto, NTSC, PAL

About

Lock Setup

Parameter Lock: Unlocked, Locked

Version

Master ID: ____________________

システム設定メモ

リモコン

他のリモコンを学習させたときのメモ欄です。ボタンの上に、直接学習させた機能をメモしたおくといいでしょう。ここでは3つのイラストしか用意していませんが、もっと多くのリモコンを学習させる 予定があれば、コピーしてお使いください。

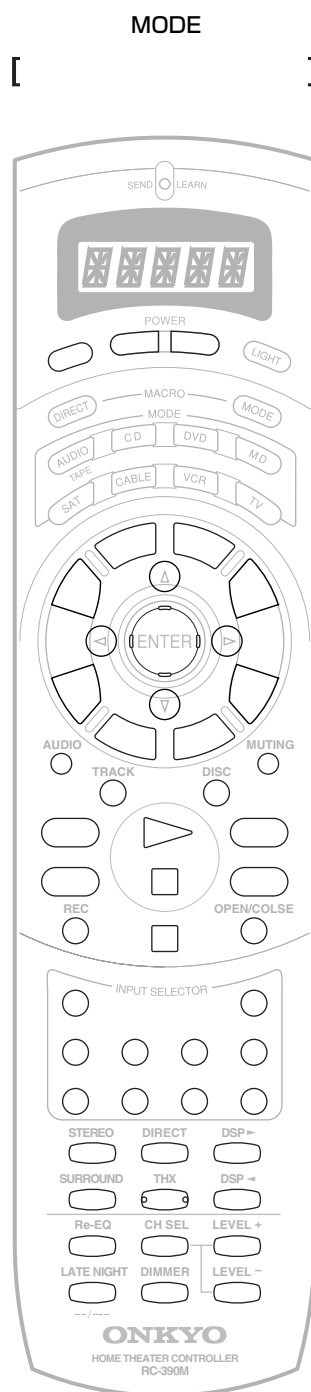
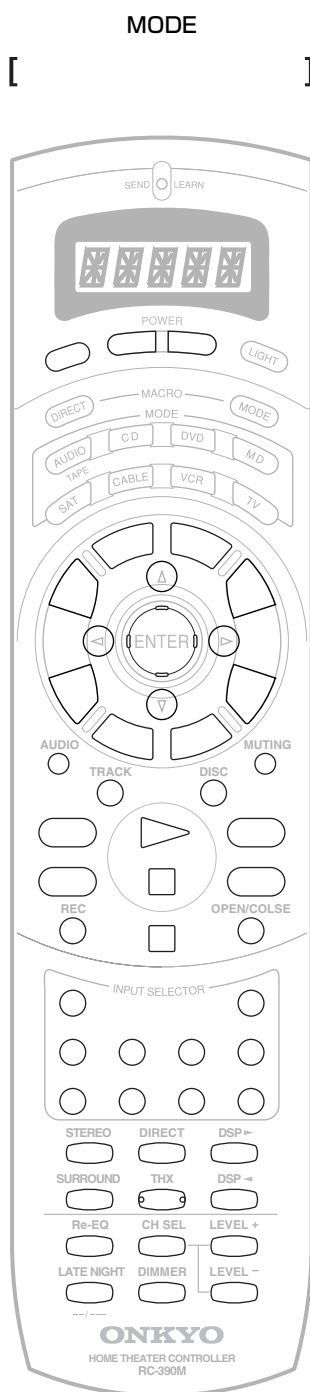
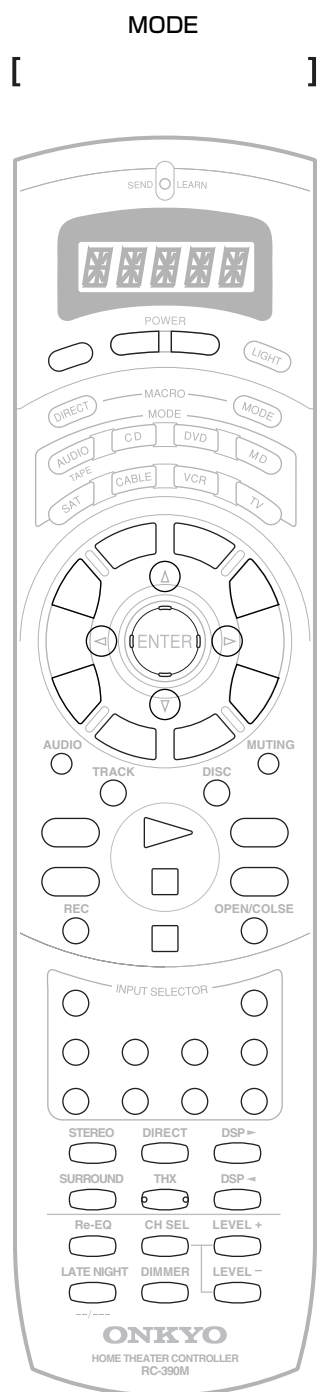
MODE

[ ]

MODE

[ ]

MODE

[ ]

故障?と思ったときは

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もあります。他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

表や他機の取扱説明書で点検しても正常に動作しないときは、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店、またはオンキョーサービスステーションまでご連絡ください。その際に「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名 TX-DS989」と「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお知らせください。

	症 状	原 因	処 置	参照ページ
電源	● 電源が入らない。	● 電源プラグが抜けている。	● 電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。	18、30
		● 外部ノイズが本機内部のマイクロコンピューターに影響した。	● 電源プラグを一度コンセントから抜き、5秒以上たってから再度つなぎなおしてください。	30
		● 本機内部のヒューズが切れた。	● お買い上げ店もしくはオンキヨーサービスステーションにご連絡ください。	–
	● 電源は入るが、音が出ない。	● "Muting"表示されている。	● リモコンのMUTINGボタンを押してMUTING表示を消してください。	61
		● ピンコードやスピーカーコードの接続が正しくない。	● もう一度接続を確認してください。プラグやコード類はしっかりと接続してください。	16〜29
		● 入力切り換えが演奏したいソースになっていない。	● 入力切り換えで演奏したいソースを選んでください。	–
		● ヘッドホンを接続している。	● 音量を下げてからヘッドホンをはずしてください。	–
	● ふいに電源が切れ、電源を入れ直してもまた切れた。	● アンプ保護回路が作動した。	● ただちに電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店もしくはオンキヨーサービスステーションにご連絡ください。	–
スピーカー	● センタースピーカーの音が小さい、または音が出ない。	● スピーカーコードが接続されていない。	● アンプとの接続を確認してください。	25
		● リスニングモードの設定がSTEREOかDIRECTになっている。	● STEREOとDIRECTのときは、センタースピーカーからの音声出力はありません。また、リスニングモードによって、センタースピーカーからの音の出方が異なります。	41
		● センタースピーカーの設定が“None”になっている。	● センタースピーカーを接続しているときは、センタースピーカーモードを“Large”または“Small”に設定してください。	34
		● センタースピーカーの音量が正しく調整されていない。	● センタースピーカーの音量を確認してください。	36
	● ブーンという音や低音のノイズが聞こえる。	● レコードプレーヤーのアース（GND）接続に原因がある。	● アース線を接続したりはずしたりして、ノイズの小さくなる方にしてください。	22
		● ピンコードがノイズの影響を受けている。	● ピンコードを動かしてみて、ノイズがいちばん小さくなるところに固定してください。	–
	● 音量を上げるとハウリングがおこる。	● レコードプレーヤーとスピーカーとの距離が近すぎる。	● 両機器を互いに離し設置してください。	–
	● 耳障りな雑音や引っ掻き音が聞こえる。または、高音域が明瞭に聞こえない。	● レコードプレーヤーのレコード針が摩耗したり汚れているなど、他機に原因がある。	● 他機の取扱説明書もあわせて参照し、確認してください。	–
		● 高音域が強すぎる。	●「Input Setup」の「Sound Effect」で「Treble」を調節してください。	44
	● サブウーファーから音がでない。	● サブウーファーの設定がNoになっている。	● スピーカー設定を確認して下さい。	34
	● サブウーファーの音が小さい。	● サブウーファーのレベルが小さい。	● 適正なレベルにしてください。	36

故障?と思ったときは

	症　状	原　因	処　置	参照ページ
音声と映像	● 希望の映像が出てこない。	● 接続が正しくない。 ● “Input Setup”の“Video Setup”が正しくない。	● もう一度接続を確認してください。プラグやコード類はしっかりと接続してください。 ● 設定を確認してください。	19､22､23 40
	● 画面表示が出ない。	● 接続が不完全。 ● OSDはMONITOR OUT 1に接続した場合に使用できます。	● 接続を確認してください。 ● MONITOR OUT 2につないでいる場合はMONITOR OUT 1につなぎかえてください。	19､22､23 17、23
	● 映像と音声が違う。	● 接続が間違っている。 ● “Input Setup”の“Video Setup”が正しくない。	● 接続を確認してください。 ● 設定を確認してください。	19､22､23 40
	● 音が聞こえない。選んだ入力と違う音声が出る。	● “Input Setup”の“Video Setup”が正しくない。	● 設定を確認してください。	40
	● テレビに映像が出ない。	● テレビの入力切り替えが正しくない。 ● 映像コードの接続が不完全。 ● S VIDEO INから入った信号はVIDEO OUTおよびS VIDEO OUTに出力されますが、VIDEO INから入った信号はVIDEO OUTのみ、またCOMPONENT VIDEO INPUTから入った信号はCOMPONENT VIDEO OUTPUTのみにしか出力されません。	● 正しい入力を選んでください。 ● 正しく接続してください。 ● 入力信号と出力信号の接続を確認してください。	ー 19､22､23 19､22､23
FM/AMラジオ	● AM放送が受信できない。	● アンテナ接続が不完全。	● 付属のAM室内アンテナが、本機のAMアンテナ端子に正しく接続されているかどうか確認してください。	26、27
	● AM放送受信中にノイズが入る（特に夜間や、電波が弱い放送局で）。	● 蛍光灯など他の電気製品がノイズの原因になることがあります。	● AM室内アンテナの設置場所を変えるか、AM屋外アンテナを接続してください。	26、27
	● AM放送受信中に高音にノイズが入る。	● テレビがノイズの原因になることがあります。	● AM室内アンテナをテレビからできるだけ離れたところに設置するか、本機をテレビから離れたところに設置してください。	26、27
	● FM放送受信中にTUNED表示、STEREO表示が点滅し、「ザー」というノイズが入る。	● 受信している放送局の電波が弱い。	● FM屋外アンテナを設置してください。 ● FM屋外アンテナの設置場所か向きを変えるなどして、受信状態が良好になるようにしてください。	27 27
	● 登録した放送局が呼び出せない。	● 登録した内容が消えている。	● 主電源を長期間OFFのままにしていると、登録した内容が消えてしまいます。この場合は、登録した内容をもう一度記憶させ直してください。	55
リモコン	● 本体のボタンで操作できるのに、リモコン操作ができない。	● リモコンに電池が入っていない。 ● 電池の寿命がなくなっている。	● 乾電池を正しく入れてください。 ● 新しい乾電池と交換してください。	11 11
	● リモコン操作ができない。	● リモコンがリモコン受光部に向けられていない。 ● リモコンを操作する位置が本機から離れ過ぎている。 ● オーディオ(AUDIO)モードになっていない。	● リモコン受光部に向けて操作してください。 ● 本機から5m以内の場所から操作してください。 ● AUDIO MODEボタンを押してください。	11 11 60、61
その他	● LFE LEVELモードが働かない。	● 再生ソースがドルビーデジタル信号、MPEG信号または、DTS信号でない。	● 「DOLBY DIGITAL」表示、「MPEG」表示、「DTS」表示が点灯していることを確認してください。	37
	● Front Effect、Reflect、Level、Rcvcrb Level、Room sizeなどのパラメーターが設定できない。	● リスニングモードによっては設定できないものがあります。	● 「入力ソースとリスニングモード」の表をご覧ください。	41
	● シネマRe-EQがはたらかない。	● リスニングモードがTheater-Dimensionalまたは、Directになっている。	● 「パラメーター一覧表」をご覧ください。	49

故障?と思ったときは

	症　状	原　因	処　置	参照ページ
その他	● LATE NIGHTがはたらかない。	● 再生ソースがドルビーデジタルでない。	●「DOLBY DIGITAL」表示が点灯していることを確認してください。	61
	● マルチチャンネル音声が出力されない。	● マルチチャンネル音声を聞くには、その入力ソースの"Input Setup"の"Multichannel Setup"で"Yes"に設定しなければなりません。 ● その入力ソースの音声がMULTI CHANNEL INPUTに接続されていない。	● 設定を確認してください。 ● 接続を確認してください。	40、57 18
	● OSDなどで設定を変えても受け付けない、変わらない。	● 設定を受け付けないようにLockがかけてある。	●「About」の「Lock Setup」を「Unlocked」にしてください。	52
	● ZONE2に接続した機器が作動しない。	● 接続が正しくない。	● 接続を確認してください。	28
	● デジタルソースで、ソフトによって音が出たり出なかったりする。	● デジタル入力のフォーマットが固定されているため、それ以外のフォーマットのときに音が聞こえない。	●「Input Setup」の「Digital Setup」で「Digital Format」を「Auto」にしてください。	39
	● DTSソースやMPEGソースなど、デジタルソースを再生するとノイズが入ったり出だしが切れたりする。		●「Input Setup」の「Digital Setup」で「Digital Format」を各々のソースと同じフォーマットにして再生してみてください。	39
	● ファンがまわる音が聞こえる。	● 本機には、放熱のためのファンが付いています。本機内部の温度が上昇したときに、ファンがまわります。ご了承ください。		

※ サラウンドモードなどの設定をすべて初期（工場出荷時の設定内容）化したいときは、電源を入れた状態で**VIDEO 1ボタン**を押したまま**STANDBY/ONボタン**を押してください。表示部にCLEARが表示され、スタンバイ状態になります。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証致しかねます。
大事な録音・録画をするときには、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画いただきますようお願いいたします。

アフターサービスについて

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名(TX-DS989)」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　　(　　)

メモ：

オンキヨーサービス網のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。
万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お客様ご相談窓口	カスタマーセンター　受付　9：30～17：30（土日祝、弊社休日除く） ■カタログのご請求、製品についてのご相談 ＊e－mail：　ホームシアター/オーディオ製品　→　customer@onkyo.co.jp マルチメディア製品　→　mmcadmin@onkyo.co.jp ＊TEL.　：　ナビダイヤル 0570－01－8111（全国どこからでも市内料金で通話いただけます） または 072－831－8111（携帯電話、PHSから）へどうぞ。 ＊FAX.　：　072－831－8124 ＊はがき　：　〒572－8540 大阪府寝屋川市日新町２－１ オンキヨー株式会社　カスタマーセンター行

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ　→　http://www.onkyo.co.jp

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ　→　http://www.e-onkyo.com

修理窓口

修理のご依頼は、取扱説明書の「故障かな？と思ったときは」または「故障？と思ったときは」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障で、お困りの場合は、下記へご相談ください。

地区	サービス窓口
北海道地区	札幌サービスステーション TEL 011-747-6612　FAX 011-747-6619 〒001-0028 札幌市北区北２８条西5-1-28　トーシン北28条ビル
青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島地区	仙台サービスステーション TEL 022-297-0571　FAX 022-257-7330 〒984-0051 仙台市若林区新寺4-9-5　第二丸昌ビル1F
茨城・栃木地区	宇都宮サービスステーション TEL 028-634-4307　FAX 028-634-4308 〒320-0831　栃木県宇都宮市新町2-7-7
群馬・埼玉・新潟地区	大宮サービスステーション TEL 048-651-8612　FAX 048-651-9137 〒330-0034　埼玉県さいたま市土呂町2-29-2　高安ビル１F
千葉・東京(23区)地区	東京サービスセンター TEL 03-3861-8121　FAX 03-3861-8124 〒111-0054　東京都台東区鳥越1-2-3　ハマスエビル
東京(23区を除く)・山梨・長野地区	八王子サービスステーション TEL 0426-32-8030　FAX 0426-36-9312 〒192-0914　東京都八王子市片倉町358番地
神奈川地区	横浜サービスステーション TEL 045-322-9342　FAX 045-312-6603 〒220-0072　横浜市西区浅間町1-13　共益ビル5F
岐阜・静岡・愛知・三重地区	名古屋サービスステーション TEL 052-772-1229　FAX 052-772-1331 〒465-0013　名古屋市名東区社口１丁目1001番
富山・石川・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山地区	大阪サービスセンター TEL 06-6576-7620　FAX 06-6576-7604 〒552-0013　大阪市港区福崎３丁目1番１４８号
鳥取・島根・岡山・広島・山口(下関を除く)地区	広島サービスステーション TEL 082-262-3315　FAX 082-262-6571 〒732-0057　広島市東区二葉の里2-8-28
徳島・香川・愛媛・高知地区	高松サービスステーション TEL 087-868-5662　FAX 087-868-5672 〒760-0079　高松市松縄町44-8　西原ビル1F
山口(下関)・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄地区	福岡サービスステーション TEL 092-418-1357　FAX 092-418-1358 〒812-0006　福岡市博多区上牟田3-8-19　みなみビル202

オンキヨーサービス認定店（オンキヨー製品の修理を委託しているサービス認定店です。）

サービス認定店
静岡サービス認定店 TEL 0543-46-6502　FAX 0543-46-6502 〒424-0063 静岡県清水市能島171-15
北陸サービス認定店 TEL 0776-27-1868　FAX 0776-27-1768 〒910-0001 福井県福井市大願寺3-5-9
岡山サービス認定店 TEL 086-274-5840　FAX 086-274-5840 〒703-8271 岡山県岡山市円山13
熊本サービス認定店 TEL 096-364-1475　FAX 096-364-1475 〒862-0970 熊本県熊本市渡鹿7-15-18
沖縄サービス認定店 TEL 098-876-9195　FAX 098-876-9195 〒901-2104 沖縄県浦添市当山558番地の8 キャッスルサイド浦添102号

2001年12月現在　お客様相談窓口・修理窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

SN 29358031G